



トヨタ ウェルキャブシリーズ



ウェルキャブ 車いす仕様車(スロープタイプⅢ) 取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

**ESQUIRE
NOAH
VOXY**



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 シート・室内装備

シート・室内装備に関する説明

3 電動ウエルチェア

電動ウエルチェアに関する説明

4 電動ウエルチェアの 車内外への乗り降り

スロープを使用して電動ウエルチェアに乗ったままでの車内外への乗降、電動ウエルチェアの車内での固定・解除に関する説明

5 お手入れのしかた

ウエルキャブ装備のお手入れに関する説明

6 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

7 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

さくいん

症状から検索

音から検索

五十音で検索

イラスト目次	6
本書の見方	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全なドライブのために

電動ウエルチェアの車内外への 乗降について.....	14
電動ウエルチェアの固定 およびシートベルトの着用に ついて	22
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	23

2 シート・室内装備

2-1. シート

シートの構成および 標準車との相違点.....	26
----------------------------	----

2-2. 室内装備

夜間照明灯	33
収納装備一覧	34

3 電動ウェルチェア

3-1. 電動ウェルチェア

ご使用前に 確認していただきたいこと ...	36
正しい着座姿勢	41
電動ウェルチェアへの乗降	43
電動ウェルチェアの調整	46
ヘッドレスト	47
クッション/ ポケットシート	49
はね上げ式アームレスト	50
チルトレバー	52
脱着式フットレスト	54
リルータ	58

3-2. 電動ウェルチェアの基本操作

電動ウェルチェアの 操作の流れ	59
転倒防止バー	64
ブレーキ	65
電動/ 手押切替クラッチレバー	66
コントロールパネル/ ジョイスティック	68
バッテリーの充電	80
バッテリーの 電動ウェルチェアへの装着 ...	91

4 電動ウェルチェアの 車内外への乗り降り

4-1. ご使用前に

確認していただきたいこと ご使用前に 確認していただきたいこと ...	94
乗降時の正しい着座姿勢	96

4-2. 電動ウェルチェアの 車内外への乗降

操作の流れ	98
電動ウェルチェアの 車内への乗車・固定	105
電動ウェルチェアの 固定解除・車外への降車 ...	109
作動条件の確認	113
メインスイッチ	117
車高調整および スロープの展開・格納	120
車いす用シートベルト	139
車両に電動ウェルチェアを 積み込むときは	145
走行する前に	149

5 お手入れのしかた

5-1. お手入れのしかた

手動スロープの清掃 (手動スロープ装着車)	152
電動スロープの清掃 (電動スロープ装着車)	154
車いす用シートベルトの 清掃	156
ワンタッチ固定装置の清掃...	157
電動ウエルチェアの清掃.....	158
電動ウエルチェアを 長期間使用しないときは	160

5-2. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ	161
リヤタイヤの点検	162
駐車／介助ブレーキの点検...	163

6 万一の場合には

6-1. パンクしたときは

工具・ジャッキの取り出し... 166

6-2. 故障かな？と

お考えになる前に

ヒューズの交換	171
車高降下装置が 作動しないときは.....	176
電動スロープが 作動しないときは (電動スロープ装着車)	177
ワンタッチ固定装置の ロックが 解除できないときは	178

6-3. 緊急時の対処法

電動スロープが 格納できないときは (電動スロープ装着車)	179
---	-----

7 点検・整備項目

7-1. 点検・整備項目

定期点検整備 184

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん） 190
車から音が鳴ったときは
（音さくいん） 196
五十音順さくいん 198

本書はウェルキャブ 車いす仕様車（スロープタイプⅢ）の装備について記載しています。

車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書をお読みください。

ただし、ウェルキャブ装備により、お車と標準車取扱書の仕様や機能が一致しない場合がありますのでご了承ください。

1

2

3

4

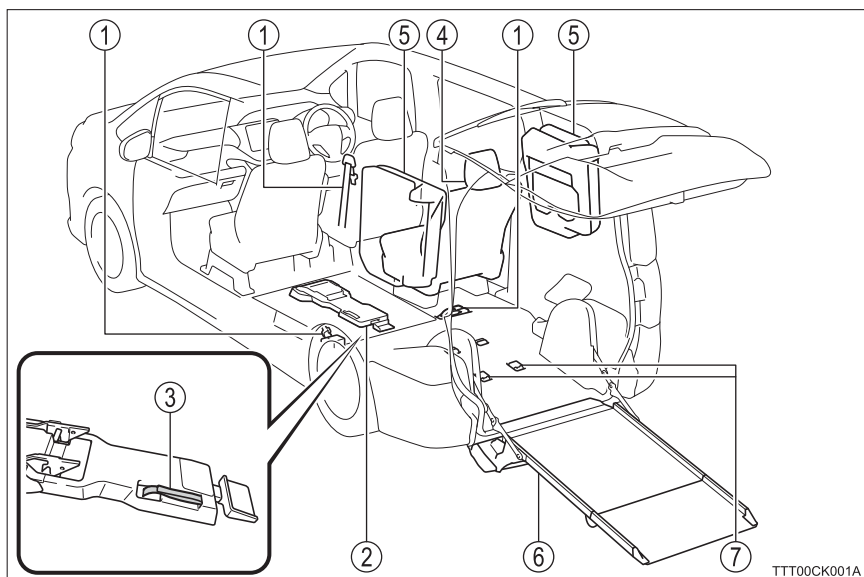
5

6

7

イラスト目次

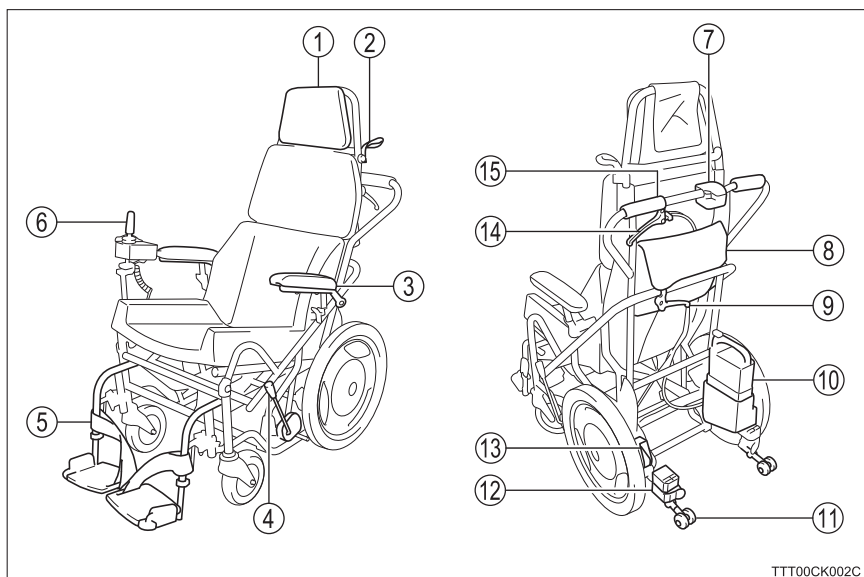
■ 車いす仕様車（スロープタイプⅢ）



① 車いす用シートベルト	P.139
着用	P.140
清掃	P.156
② ワンタッチ固定装置	
電動ウエルチェアの固定	P.107
電動ウエルチェアの固定解除	P.109
清掃	P.157
③ エマージェンシーベルト	P.111,178
④ セカンドシート	P.26
⑤ サードシート	P.26
⑥ 手動スロープ★	
展開	P.120
格納	P.122
手動スロープ前倒れ機構	P.123
清掃	P.152
電動スロープ★	
展開	P.126
格納	P.127
作動条件	P.113
清掃	P.154
作動しないときは	P.177
格納できないときは	P.179
⑦ 床面ロック	P.29

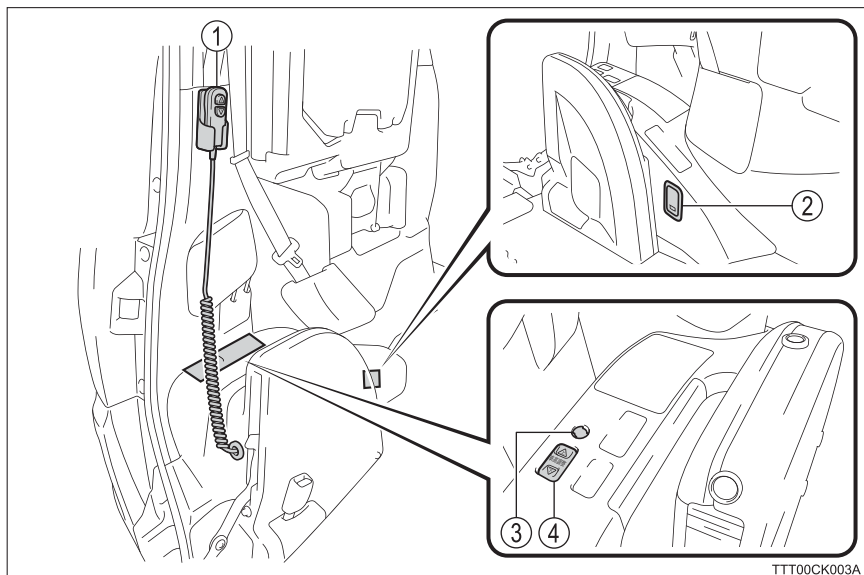
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 電動ウェルチェア



①	ヘッドレスト	P.47
②	リルータ	P.58
③	はね上げ式アームレスト	P.50
④	駐車ブレーキ	P.65
	点検	P.163
⑤	脱着式フットレスト	P.54
⑥	ジョイスティック（自操用）	P.68
⑦	コントロールパネル（介助用）	P.68
⑧	ポケットシート	P.49
⑨	チルトレバー	P.52
⑩	バッテリー	P.80
	電動ウエルチェアへの装着	P.91
	充電	P.81
⑪	転倒防止バー	P.64
⑫	足踏みペダル	P.61
⑬	電動／手押切替クラッチレバー	P.66
⑭	介助ブレーキ	P.65
	点検	P.163
⑮	介助用ハンドル	P.52

■ 車内左側後部



※：上図は説明用にすべてのスイッチ類を配置したものであり、実際を上図のような仕様は存在しません。

① 操作スイッチ※¹

作動条件	P.113
電動スロープ展開／車高降下	P.126
車高復帰／電動スロープ格納	P.127
作動しないときは	P.177

② 夜間照明灯

P.33

③ 車高降下装置異常ランプ

P.129

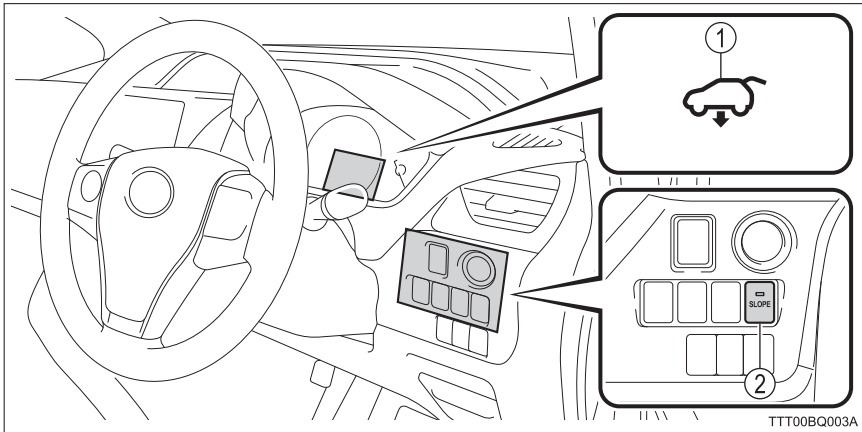
④ 車高調整スイッチ※²

作動条件	P.113
車高降下	P.120
車高復帰	P.122
作動しないときは	P.176

※¹：電動スロープ装着車に装備されます。

※²：手動スロープ装着車に装備されます。

■ 運転席まわり



- ① 車高調整インジケータ P.120, 126
- ② メインスイッチ
 - ON / OFF P.117
 - 各装置の作動条件 P.113

本書の見方



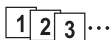
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

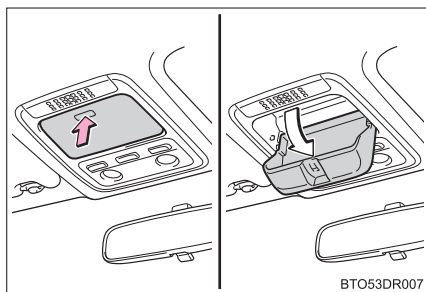
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

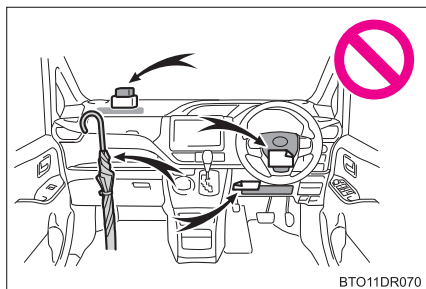
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全なドライブのために

電動ウェルチェアの車内外への 乗降について.....	14
電動ウェルチェアの固定 およびシートベルトの着用に ついて	22
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	23

電動ウェルチェアの車内外への乗降について

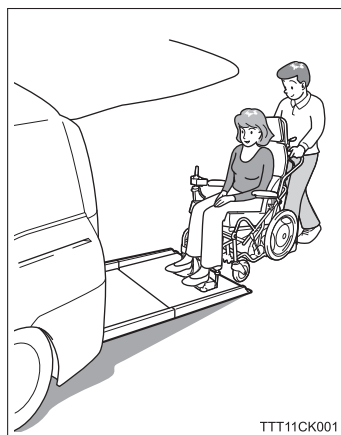
- 本書におけるウェルキャブ 車いす仕様車（スロープタイプⅢ）の操作はすべて介助の方が行ってください。
- この項目では、電動ウェルチェアの車内外への乗降について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

警告

■ウェルキャブ 車いす仕様車（スロープタイプⅢ）の操作をするときは

操作はすべて介助の方が行い、電動ウェルチェア乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。

- 電動ウェルチェア乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、電動ウェルチェアがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 急に電動ウェルチェアの乗降を行うと、電動ウェルチェアが転倒するおそれがあり危険です。（電動ウェルチェアを車外に降ろすときは特にご注意ください）
- 車内を移動するときは、電動ウェルチェア乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。



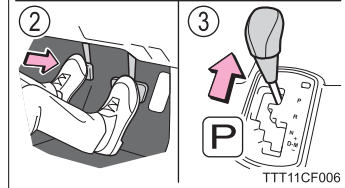
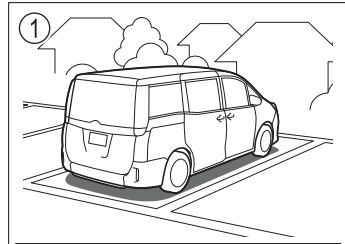
TTT11CK001

警告

■スロープを使用する前に

- 安全で平坦な場所に駐車してください。交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。

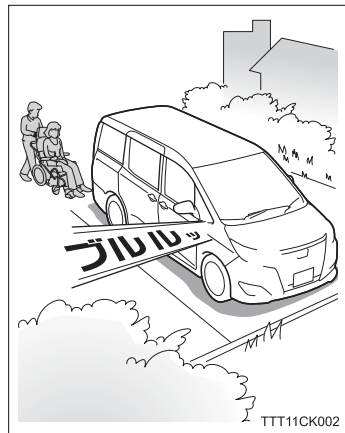
- ① 安全で平坦な場所に駐車する
- ② パーキングブレーキを確実にかける
- ③ シフトレバーをPの位置にする



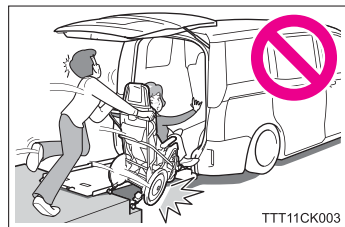
- エンジンをかけた状態で使用してください。

- ・エンジン停止状態ではバッテリーあがりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあります。
- ・エンジン停止状態では車高降下装置は作動しません。

- 乗降するときはヘッドランプを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。

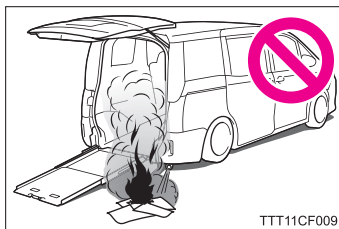


- 階段や段差を利用して電動ウェルチェアの乗り入れをしないでください。段差を利用すると電動ウェルチェアがスロープから転落したり、スロープが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

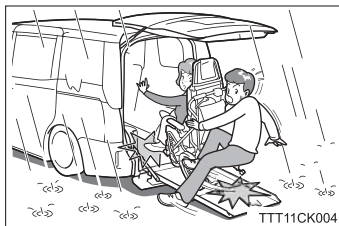


警告

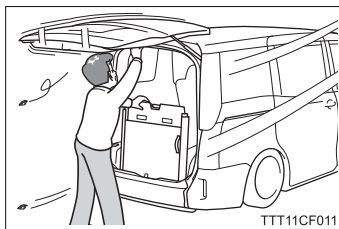
- 可燃物付近に駐車しないでください。
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。
スロープ使用時、車高降下により排気管の位置が大きくなりますので、特にご注意ください。



- 悪天候時、スロープを使用するときは、すべりやすくなりますのでご注意ください。
風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。



- 強風時、バックドアが閉まることがあります。
バックドアが頭にあたるおそれがありますので、注意してください。



■ 車高を下げる前に

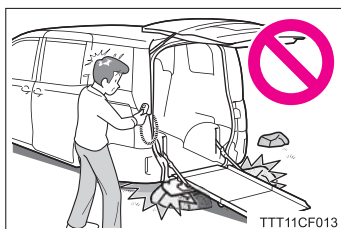
車両周辺・下側、バックドア下側や後輪付近に人や突起物などがないことを確認してください。

車両後部の車高が下がるため（バックドアも車高に合わせて下がります）、頭を打ったり、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車両を損傷するおそれもあります。

▶ 手動スロープ装着車



▶ 電動スロープ装着車



警告

■ 不測の事態により車高降下を途中でやめるときは

車高降下装置の作動途中で、次のように操作すると、ただちに車高降下が停止します。

▶ 手動スロープ装着車

車高調整スイッチの「上」「下」どちらかを短く押す

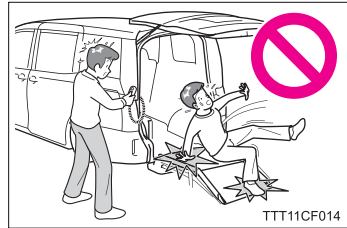
▶ 電動スロープ装着車

電動スロープの展開完了後、操作スイッチの「上」「下」どちらかを短く押す

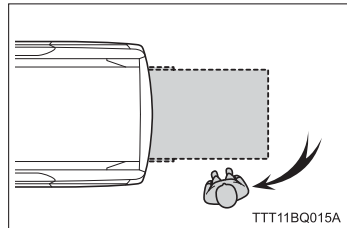
■ 電動スロープを開閉するときには（電動スロープ装着車）

- 作動範囲内に人やものがないことを確認してください。

電動スロープに手足があたったり、手足が挟まれ、ものが損傷するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



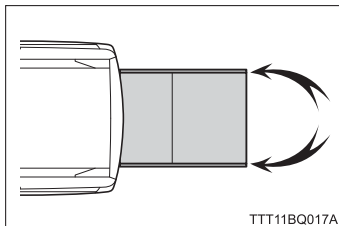
- 電動スロープを操作するときは、車両から少し離れた斜め後方で操作してください。



警告

■ スロープに電動ウェルチェアを乗降するときは

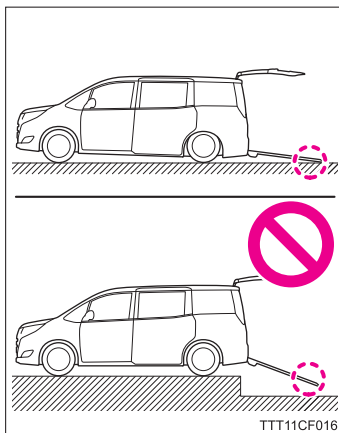
- スロープに乗降するときは、足元および電動ウェルチェアの車輪がスロープ端部より出ないように注意してください。スロープ端部より出ると、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



TTT11BQ017A

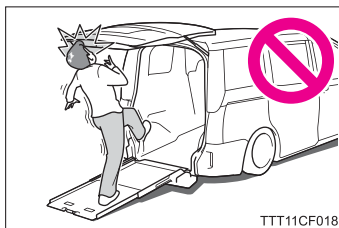
- 車高降下装置による車高降下およびスロープ展開完了後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。

段差やスロープ下部にもものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。



TTT11CF016

- 頭上の安全を確認しながらゆっくり乗り入れ、頭をバックドアやドア開口部にあてないように注意してください。(→ P.104, 147)



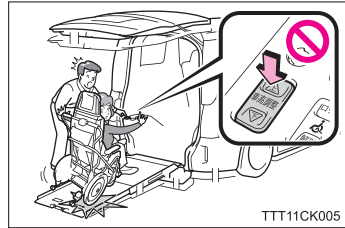
TTT11CF018

警告

- 不要なスイッチ類の操作およびシフトレバーを操作しないでください。装置の不意な作動により、スロープから電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

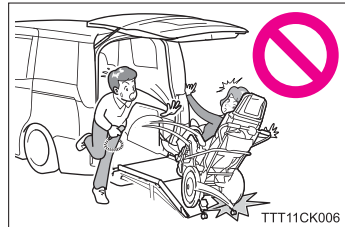
▶ 手動スロープ装着車

車高調整スイッチの「上」を押すと、車高が復帰するため、手動スロープの角度が変わります。



▶ 電動スロープ装着車

操作スイッチを押すと、電動スロープが動きます。

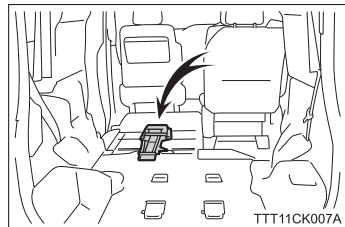


車高降下中にシフトレバーをP以外の位置にした場合は、次のように作動します。

- ・ 車高が自動復帰するため、スロープの角度が変わります。
- ・ バックドアが開いていることを知らせるため、ブザーが鳴ります。

■ 電動ウェルチェアを固定しないときは

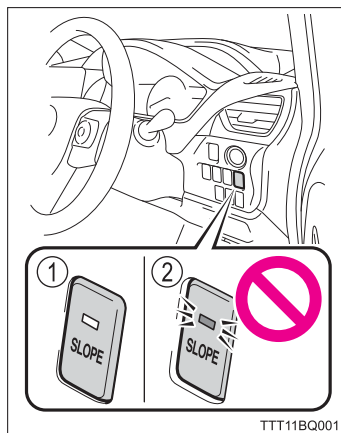
ワンタッチ固定装置を踏んだり、つまずいたりしないよう、足元に注意してください。足を滑らせて転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



警告**■ スロープを使用しないときは**

メインスイッチを OFF にしてください。
メインスイッチを ON にしていると、装
置の不意な作動により、重大な事故につな
がるおそれがあり危険です。(各装置の作
動条件→ P.113)

- ① OFF
- ② ON

**■ 助手席側スライドドアを開けて車内外に乗降するときは**

- 電動ウェルチェアが乗り入れ・固定されてい
ないときは、足元に注意してください。
ステップの端やワンタッチ固定装置に
足を乗せると、足を踏みはずし、転倒
したり車両から転落するなど、重大な
傷害を受けるおそれがあり危険です。



- 電動ウェルチェアが乗り入れ・固定されてい
るときは、運転席側スライドド
アから乗降してください。

警告

■ 車内後部のカバーについて

車内後部のカバーの上に乗ったり、座ったりしないでください。

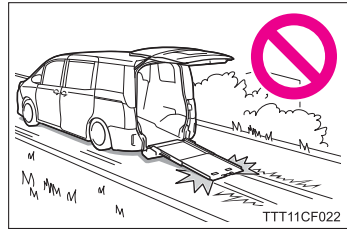
- カバーから転落してけがをするおそれがあります。
- カバーの中には装置の作動をコントロールする機器が設けてあります。過度な力が加わるとカバーの破損や機器の故障の原因になります。



■ 走行するときは

スロープを展開したまま車を移動させないでください。

スロープの損傷やスロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

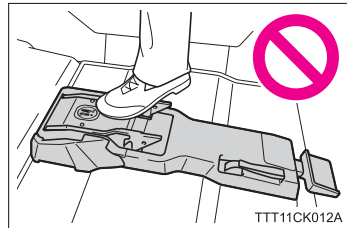


注意

■ 故障・破損を防ぐために

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、作動不良や故障の原因になります。

- ワンタッチ固定装置を踏んだり、蹴ったりしないでください。
- ワンタッチ固定装置の上にものを置かないでください。
- ワンタッチ固定装置に飲料水などをこぼしたり、ぬれたものを置かないでください。錆や故障の原因になります。



電動ウェルチェアの固定およびシートベルトの着用について

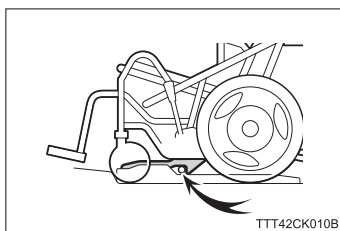
車内に乗車後の電動ウェルチェアの固定およびシートベルトの着用について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■ 走行前の電動ウェルチェア固定状態の確認

- 走行前に電動ウェルチェアが確実に固定されていることを確認してください。
(→ P.107)

確実に固定されていないと、走行中に電動ウェルチェアが動きだし、転倒するなど電動ウェルチェアの損傷や重大な事故につながるおそれがあり危険です。

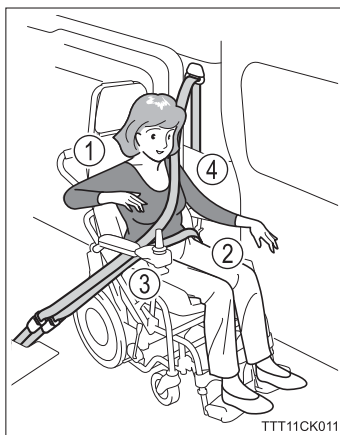


- 操作ペダルの上にももの置かないでください。
固定が解除され、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

■ 電動ウェルチェア乗車の方のシートベルト着用確認

走行中は必ずシートベルトを正しく着用してください。
正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② はね上げ式アームレストの下側を通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトのねじれがないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
・首にかかったり、肩からはずれる場合はリルータを使用してください。
(→ P.58)
・肩部ベルトのねじれがないようにしてください。



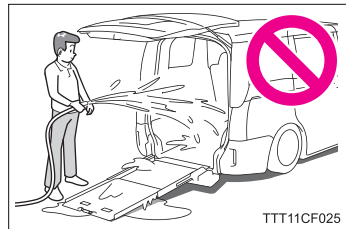
車両火災・故障・損傷を防ぐために

車両火災・故障・損傷を防ぐために、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■ 清掃するときは

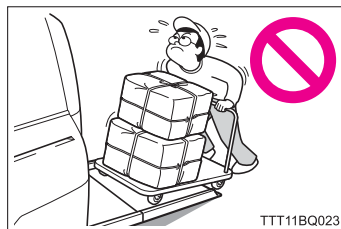
車内を水洗いしないでください。
電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあります。
万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
手入れ、清掃のしかたは、装置により異なります。P.151「お手入れのしかた」を参照し、正しく手入れ、清掃をしてください。



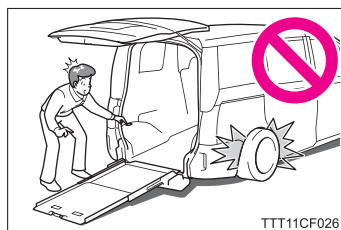
⚠ 注意**■ スロープについて**

スロープの耐荷重は 200kg です。

- スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「電動ウェルチェア (35kg) + 電動ウェルチェア乗車の方 + 手荷物 + 介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- スロープは電動ウェルチェアの乗り降り専用です。荷物を載せたり耐荷重をこえるとスロープが損傷するおそれがあります。

**■ タイヤ交換をするときは**

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。



シート・室内装備

2

2-1. シート

シートの構成および

標準車との相違点..... 26

2-2. 室内装備

夜間照明灯..... 33

収納装備一覧..... 34

シートの構成および標準車との相違点

標準車のセカンドシート・サードシートと本車両のセカンドシート・サードシートの相違点をまとめてあります。

この項目に記載されていない使用方法（シートベルトの着用やチャイルドシートの取り付けなど）は標準車と同様ですので、標準車取扱書を参照してください。

セカンドシート

1人掛け キャプテンシート	標準車との相違点	
	標準車	本車両
シート構成	左右席	右席のみ
アームレスト	左右	右のみ
シートサイドテーブル	あり	なし
横スライド	可能	不可能
前後スライド機構	-	標準車に対して 後方スライド量規制

サードシート

3人掛け スペースアップシート	標準車との相違点
床面ロック	フロア形状変更に合わせて、 格納床面ロックを装備

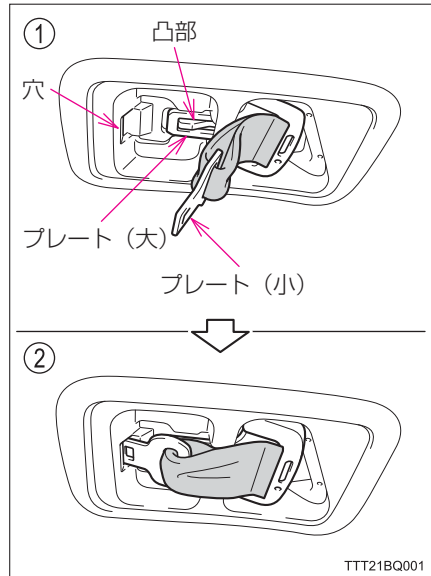
上記に伴い、サードシートの格納方法が標準車と異なります。サードシートを格納するときは、「**■**サードシートの格納のしかた（→P.27）」の方法で格納してください。

■ サードシートの格納のしかた

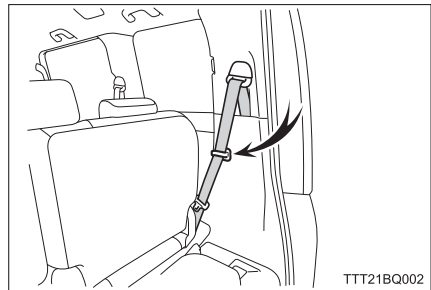
- 1 車を停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 スロープを展開する（手動スロープ前倒れ時を除く→P.120, 126）

- 3 中央席のシートベルトを格納する

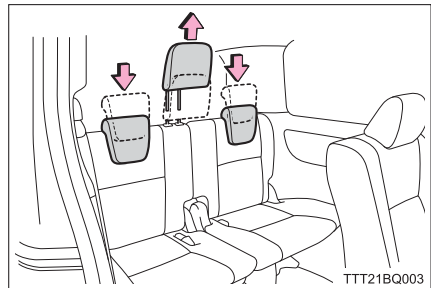
- ① プレート（大）の穴を格納箱の凸部にはめ込む
- ② プレート（小）を格納箱の穴に挿し込む



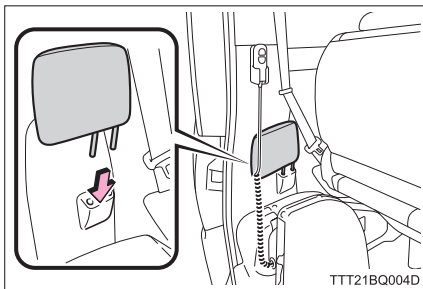
- 4 サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む



- 5 サードシート左右席のヘッドレストを下げ、中央席のヘッドレストを取りはずす

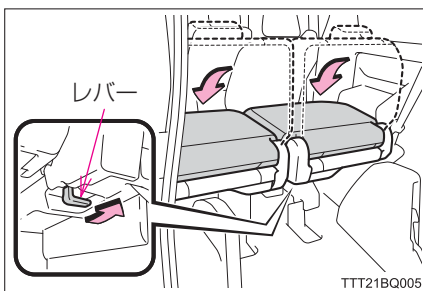


- 6 中央席のヘッドレストを車両左側後部に格納する



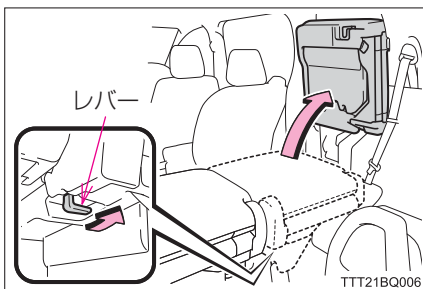
- 7 サードシート後下部のレバーを引き、背もたれを前方に倒す

レバーは引き続けしないでください。(引き続けると、シートがはね上がります)



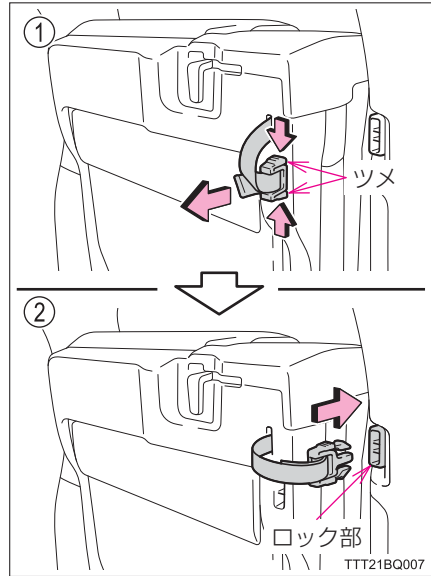
- 8 レバーをさらに引き、シートをはね上げる

シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。

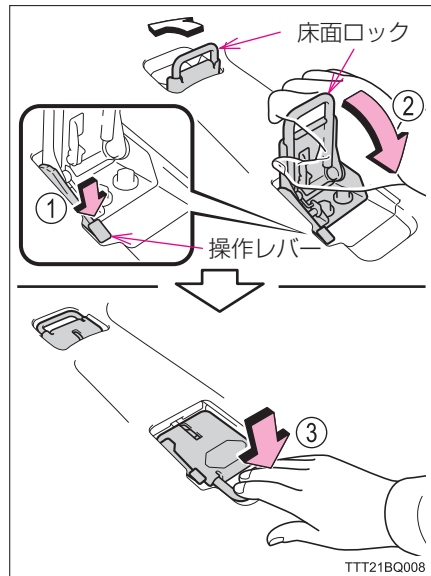


9 シートを固定する

- ① シートクッション裏側にあるシート固定ベルトの上下のツメを押して取り出す
- ② シート固定ベルトをロック部に挿し込む

**10** シートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認する**11** 床面ロックを格納する

- ① 操作レバーを押してロックを解除する
- ② 後側床面ロックを持って格納する
前側床面ロックも連動して格納されます。
- ③ 後側床面ロックを上から押さえ、完全に格納する
いっぱいまで格納すると“カチッ”と音がしてロックされます。(操作レバーがロック位置にもどります)

**12** スロープを格納する (→ P.122, 127)

■ サードシートのもどし方

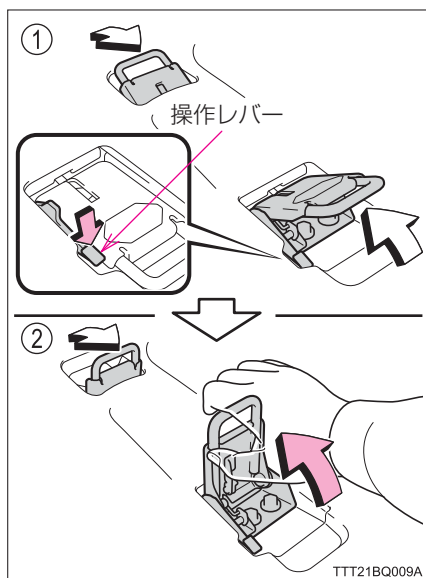
- 1 車を停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 スロープを展開する (→ P.120, 126)
- 3 床面ロックを取り出す

① 操作レバーを押す

床面ロックが少し持ちあがります。

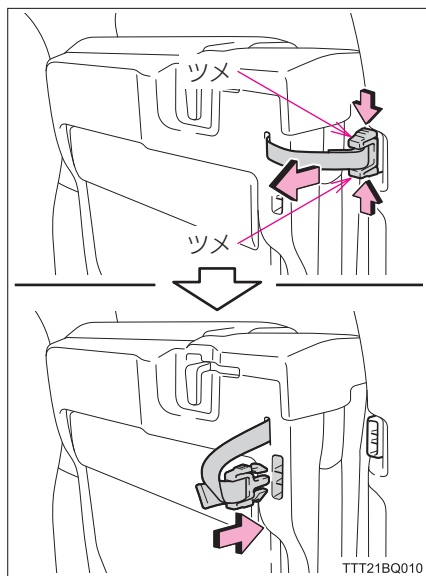
② 後側床面ロックをいっぱいまで起こす

- ・ 前側床面ロックも連動して起き上がります。
- ・ いっぱいまで起こすと、床面ロックがロックされます。

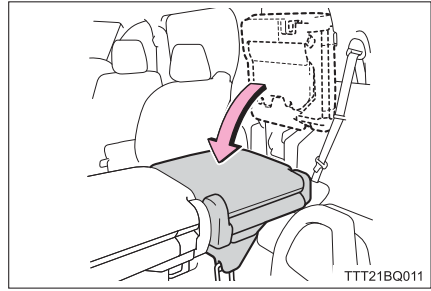


- 4 シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納する

シートを押し、ベルトをゆるめた状態でツメを押します。



- 5 シートをおろし、シート脚部を床面ロックに確実に固定させる
- ・シートをおろす動きと連動して、シート脚部が出てきます。
 - ・シートを上から押さえ、確実に固定させます。



- 6 サードシートの背もたれを起こす
- 7 ヘッドレストをもどす
- 8 シートベルトをもどす
- 9 スロープを格納する (→ P.122, 127)

警告

■ サードシートの格納およびもどす操作をするときは

- 走行中はサードシートの格納およびもどす操作をしないでください。
- サードシートを格納したときは、サードシートをシート固定ベルトで確実に固定してください。
固定しなかったり、固定していても確実に固定されていないと、サードシートが倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- サードシートを格納したときは、床面ロックを必ず格納してください。
床面ロックが起きたままだと車内を移動するときにつまずいたり、電動ウェルチェアの車輪が引っかかって転倒するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、床面ロックを破損するおそれもあります。
- 床面ロックの操作をするときは、可動部や結合部で手や足を挟まないよう、注意してください。
- サードシートをもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げ、シート脚部が床面ロックで確実に固定されたことを確認してください。
確実に固定されていないとシートが動き、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■ サードシートの操作をするときは**

- スロープが格納された状態でサードシートの背もたれを後方に倒すときは、背もたれがスロープにあたらないことを確認してください。
背もたれを倒しすぎるとスロープとあたり、損傷するおそれがあります。
- 床面ロックを格納状態から起こす前に、床面ロックの上に荷物などが載っていないことを確認してください。
荷物の重みで床面ロックの作動がさまたげられ、故障の原因になります。
- サードシートをもどす前に、床面ロックがいちばん起きた位置で確実にロックしていることを確認してください。
 - ・ 床面ロックがいちばん起きた位置かつロックしていない状態でサードシートをもどすと、サードシート脚部および床面ロックを破損するおそれがあります。
 - ・ 手動スロープ装着車の場合、床面ロックを起こさない状態で手動スロープを前倒れにし、サードシートをもどすと、サードシートの脚部が前倒れにした手動スロープにあたり、手動スロープおよびサードシートの傷付き・変形の原因になります。

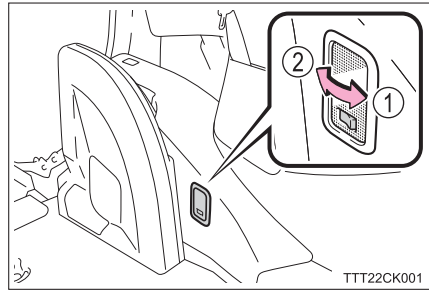
夜間照明灯

夜間の乗降時、足元を明るく照らします。

点灯のしかた

バックドアが開いているとき、スイッチを ON にする

- ① ON (点灯)
- ② OFF (消灯)



消灯のしかた

次のいずれかの状態にすると消灯します。

- バックドアを閉める
スイッチの状態に関係なく消灯します。
- スイッチを OFF にする

知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の場合、夜間照明灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

警告

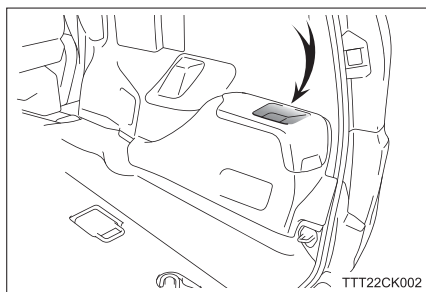
■ 点灯時および消灯直後は

夜間照明灯のレンズにふれないでください。
夜間照明灯のレンズは高温のため、やけどをするおそれがあります。

収納装備一覧

ジャッキカバートレイ

小物を置くことができます。



電動ウェルチェア

3

3-1. 電動ウェルチェア

ご使用前に 確認していただきたいこと ...	36
正しい着座姿勢	41
電動ウェルチェアへの乗降	43
電動ウェルチェアの調整	46
ヘッドレスト	47
クッション/ ポケットシート	49
はね上げ式アームレスト	50
チルトレバー	52
脱着式フットレスト	54
リルータ	58

3-2. 電動ウェルチェアの基本操作

電動ウェルチェアの 操作の流れ	59
転倒防止バー	64
ブレーキ	65
電動/ 手押切替クラッチレバー	66
コントロールパネル/ ジョイスティック	68
バッテリーの充電	80
バッテリーの 電動ウェルチェアへの装着 ...	91

ご使用前に確認していただきたいこと

この項目では、電動ウェルチェアを使用するにあたって、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

重量について

- 電動ウェルチェアの重量は、35kg（バッテリー装着時）です。
- 電動ウェルチェアの耐荷重は 100kg です。
「電動ウェルチェア乗車の方＋手荷物」の合計重量が 100kg 以下であることを確認してください。

警告

■ 電動ウェルチェアを使用するときは

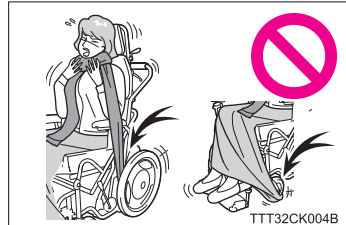
電動ウェルチェアの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で使用してください。

- 電動ウェルチェア乗車の方は、操作に慣れるまで、平坦で安全な場所で介助の方同伴のもとで走行の練習をしてください。
不慣れな状態で一般公道に出るとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 絶対に改造はしないでください。
ユニットや取り付け部を改造すると性能が低下したり、破損・事故の原因になります。
- 本取扱書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。
- 電動ウェルチェアを火気に近づけないでください。
シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック部などが変形したり、熱くなった金属部分でやけどをするおそれがあり危険です。
- お酒を飲んだり、眠くなる薬を飲んだ場合、体調が悪い時は電動ウェルチェアの使用をしないでください。
- 電動車いす以外の目的で使用しないでください。
 - ・ 座面以外の部分に腰掛けない
 - ・ 台車としてものを運ばない
 - ・ 電動ウェルチェアに寄りかかったり、歩行補助として使用しない
 - ・ けん引をしない
- 複数の人数で電動ウェルチェアにのらないでください。
この電動ウェルチェアは 1 人用です。2 人以上で乗ると破損・事故の原因になります。
- 介助の方は、電動ウェルチェアに乗って操作をしないでください。

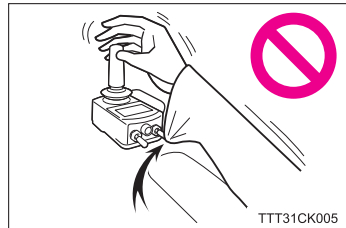
警告**■ 電動ウェルチェア走行時の服装**

次のような電動ウェルチェアに適さない服装で走行しないでください。
電動ウェルチェア乗車の方や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 丈の長いマフラー
- 裾の広いズボン・スカート



- 袖口の広い服



- 素足または下駄・サンダル履き、足にフィットしていない履き物など



 **警告****■ 走行ルートについて**

次のような場合は、介助の方が同行してください。

単独走行ではけがをするおそれがあります。

緊急時は、介助の方が電動／手押切替クラッチレバーを左右とも「手押」にして、安全な場所に移動させてください。

- 側溝や下水溝のフタ
- 砂利道や泥道
- 車体が左右に大きく傾く場所
- 雪・水溜りのある道路
スリップしてコントロールがきかなくなったり、止まらなくなるおそれがあります。
- 踏切や路面電車の線路を渡るとき
- 柵がない歩道
- 狭い道
- 横断歩道
- 駅のホーム
- エレベーター
- その他危険が予想される場所
- 不慣れな段差・坂道の上り下り
 - ・ 周りの状況を常にチェックし、安全を確認してください。
 - ・ 自操時に初めて上り下りする段差・坂道は、介助の方が同行し、安全を確認してください。
- 不慣れな道路の横断
 - ・ 特に信号機のない横断歩道では、交通状況に十分注意して渡ってください。
 - ・ 信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。
 - ・ 横断前にバッテリー残量を確認してください。
バッテリー残量が少ない場合は、横断中にバッテリー切れになり、動かなくなるおそれがあります。

 **警告****■ 走行ルートについて**

次のような場合は、走行を避けてください。

- 夜間、雨天、濃霧、強風、その他危険が予想される場合
- 交通量の多い道路、凹凸のある道、ぬかるみ、凍結路、路肩付近など、崖、川土手、海岸防波堤上、その他危険な場所
- 大きなくぼみをこえるとき
- 急な坂道
転倒したり、制動が効かなくなるおそれがあります。

■ 電動ウェルチェアで走行するときは

- 電動ウェルチェア乗車の方の身体について十分な安全確認をしてください。走行中、手足を障害物や地面にあてるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 回転している車輪に指を挟みこまないように注意してください。
- 急発進・急停車、急な方向転換を行わないでください。
- 走行中に携帯電話やスマートフォンなどを使用しないでください。使用するときは、安全な場所に停止して電動ウェルチェアの電源を切ってください。
- 混雑した場所では、歩行者や自転車の有無など、周囲の安全確認をしてから操作してください。周囲の安全を確認せずに操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 混雑した場所で停止するときには必ず電源を切ってください。(→P.72,74) 周りの人の手や腕が操作レバーに接触して不意に発進し、電動ウェルチェア乗車の方および周囲の人がけがをするおそれがあります。

 **注意****電動ウェルチェアの取り扱いについて**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、電動ウェルチェアが破損するおそれがあります。

- 電動ウェルチェアを倒したり、逆さまにしないでください。
- 電動ウェルチェアを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 次のような場所に、電動ウェルチェアや部品を放置しないでください。

- ・ 車道に近いところ
- ・ 人通りのあるところ
- ・ 路面に段差や凸凹のあるところ
- ・ 湿気の多いところ
- ・ 海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
- ・ 雨、風のあたる場所
- ・ ほこりの多い場所
- ・ 坂道
- ・ 非常口、消火器、火栓の前
- ・ 暑い日や寒い日の戸外
- ・ 直射日光の当たる場所
- ・ 子供がいたずらをするおそれのある場所
- ・ ストープなど火気を使用し高温になる場所

故障を防ぐために

降雨時・降雪時にはできるだけ使用を控えてください。

ブレーキ性能の低下や電装品に悪影響を与えたり、変色やしみ、錆の原因になります。

正しい着座姿勢

電動ウェルチェアを電動車いすとして使用するときは、次のように正しい姿勢で着座してください。

車内でシートとして使用するときは、P.96「乗降時の正しい着座姿勢」を参照してください。

- 必要に応じて、ヘッドレストを取りはずすことができます。(→ P.47)
 - 車内でシートとして使用するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。
- ① はね上げ式アームレストをもどし、両腕をはね上げ式アームレストの上、または内側におく
 - ② フレームの内側に両ひざが収まるように座る
 - ③ 脱着式フットレストを下げ、両足を脱着式フットレストに乗せる
かかとの上あたりがフットレストベルトについていることを確認します。



 **警告****■ 電動ウェルチェアを電動車いすとして使用するときは**

- 電動ウェルチェア乗車の方の足が脱着式フットレストに乗っていることを必ず確認してください。
地面と電動ウェルチェアとのあいだで足を挟まれるなど、けがをするおそれがあり危険です。
- 不整地や傾斜地および段差の乗り越えなどには十分注意してください。
電動ウェルチェアが不安定になり、転倒などのおそれがあり危険です。
- 電動ウェルチェア乗車の方の身体がはね上げ式アームレストの外側に出ていることを必ず確認してください。
通行人や障害物にあたるなど、けがをするおそれがあり危険です。
はね上げ式アームレストに腕をおいている場合は、周囲のものなどにぶつからないよう注意してください。
- 電動ウェルチェア乗車の方が、座ったまま身体を乗り出したり、強い前傾姿勢をとらないようにしてください。
電動ウェルチェアのバランスがくずれ、転倒しやすくなります。

電動ウェルチェアへの乗降

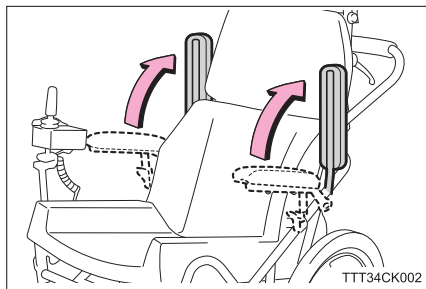
電動ウェルチェアへ乗り降りするときは、次の手順で行います。
すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

座り方

1 電動ウェルチェアに着座する前に、次の状態を確認する

- ・ 平坦な場所で左右の駐車ブレーキがかかっていること (→ P.65)
- ・ 電源が切っていること (→ P.72, 74)
- ・ 左右の電動/手押し切替クラッチレバーが「電動」になっていること (→ P.66)
- ・ 脱着式フットレストが上がっていること (→ P.54)

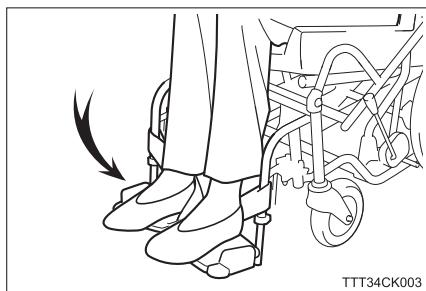
2 必要に応じて電動ウェルチェアのはね上げ式アームレストをはね上げる (→ P.50)



3 電動ウェルチェアに乗り移る

- ・ 電動ウェルチェアから落ちないようにしっかり座ります。
- ・ 2で電動ウェルチェアのはね上げ式アームレストをはね上げた場合は、下げます。(→ P.50)

4 電動ウェルチェアの脱着式フットレストを下げ、足を乗せる (→ P.54)

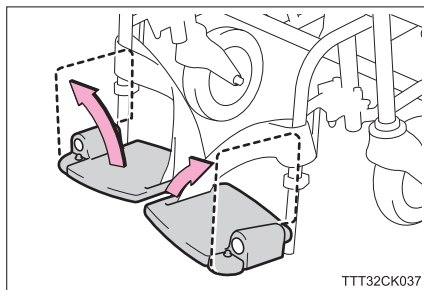


降り方

- 1 電動ウェルチェアから降りる前に、次の状態を確認する
 - ・ 平坦な場所で左右の駐車ブレーキがかかっていること (→ P.65)
 - ・ 電源が切っていること (→ P.72, 74)
 - ・ 左右の電動/手押し切替クラッチレバーが「電動」になっていること (→ P.66)
- 2 必要に応じて電動ウェルチェアのはね上げ式アームレストをはね上げる (→ P.50)

- 3 電動ウェルチェアの脱着式フットレストを上げる

脱着式フットレストを展開することができます。(→ P.54)



- 4 電動ウェルチェアから降りる

2で電動ウェルチェアのはね上げ式アームレストをはね上げた場合は、下げます。(→ P.50)

 知識

■ 脱着式フットレストについて

脱着式フットレストを展開することで、電動ウェルチェアへの乗り降りが容易になります。(→ P.54)

 警告

■ 電動ウェルチェアへ乗り降りするときは

- 平坦な場所で電動ウェルチェアに乗り移ってください。
傾斜のある場所で乗り移ると、バランスをくずし、電動ウェルチェアから落ちてけがをするおそれがあります。
- 電源を切り、左右とも必ず電動／手押切替クラッチレバーを「電動」にし、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
電動ウェルチェアが不意に動き、電動ウェルチェア乗車の方が電動ウェルチェアから落ちてけがをするおそれがあり危険です。
- 脱着式フットレストの上で立ち上がらないでください。
フットレストから落ちてけがをしたり、フットレストが破損するおそれがあります。
- 脱着式フットレストに足を乗せて、乗り降りしないでください。
電動ウェルチェアごと転倒し、けがをしたり、フットレストが破損するおそれがあります。

■ 脱着式フットレストを展開するときは

周囲に人やものがないことを確認して操作してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

電動ウェルチェアの調整

電動ウェルチェア乗車の方に合わせて、各部を調整してください。

◆ リルータ

→ P.58

◆ ジョイスティック

ジョイスティックの位置および角度を調整できます。
トヨタ販売店までご連絡ください。

◆ 転倒防止バー

転倒防止バーの長さを調整できます。
トヨタ販売店までご連絡ください。

◆ 脱着式フットレスト

- ・ フットレストの高さを調整できます。
トヨタ販売店までご連絡ください。
- ・ フットレストベルトの長さを調整できます。(→ P.55)
- ・ フットレストを脱着できます。(→ P.55)

ヘッドレスト

必要に応じて、ヘッドレストをとりはずすことができます。

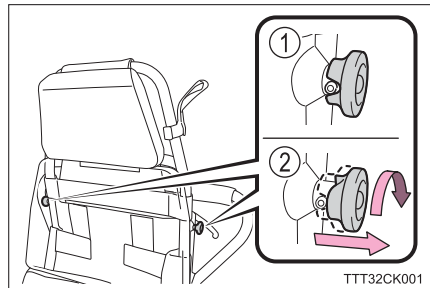
車内でシートとして使用するときには、必ずヘッドレストを取り付けてください。

ロックボタン

ヘッドレストの取り付け・取りはずしをするときは、ロックボタンを解除した状態で操作します。

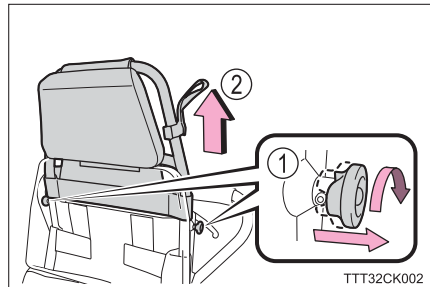
- ① ロック状態
- ② 解除状態

ロックボタンをひねりながら引っ張り出します。



ヘッドレストの取りはずし方

- ① 左右のロックボタンを解除状態にする
- ② ヘッドレストを引き抜く

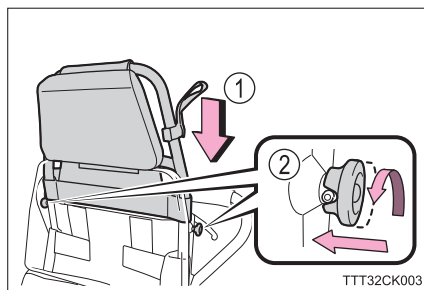


ヘッドレストの取り付け方

ヘッドレストの向きを確認してから取り付けます。

- ① 左右のロックボタンを解除状態（→P.47）であることを確認し、ヘッドレストを挿し込む
- ② ロックボタンをロック状態にする

ヘッドレストを軽く引き上げ、固定されていることを確認します。



⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

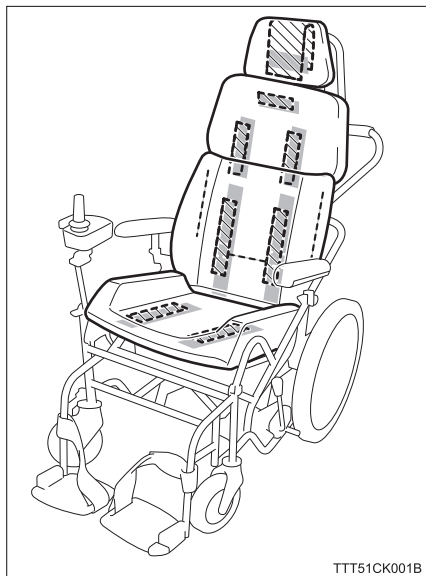
- ヘッドレストは、電動ウェルチェア専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい向きで取り付ける
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを引き上げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま車を走行しない
- ヘッドレストの取り付け・取りはずしをするときは、指を挟むなどけがをすおそれがあるため、十分注意する

クッション／ポケットシート

クッション

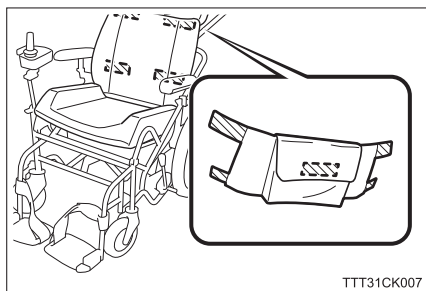
クッションは、面ファスナーで貼り付けられています。

 面ファスナー



ポケットシート

小物を入れることができます。



警告

■クッションを取りはずしたときは

クッションを取りはずしたまま、電動ウェルチェアに座らないでください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

はね上げ式アームレスト

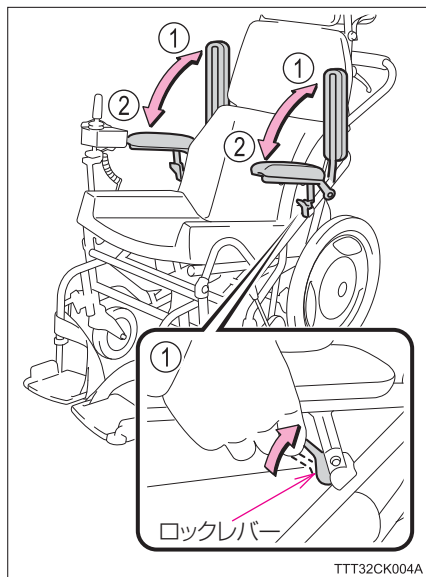
はね上げ式アームレストを上げた状態にすると、電動ウェルチェアへの乗り移りが容易になります。

① 上げる

ロックレバーを押しながら操作します。

② 下げる

"カチン" と音がするまで下げます。



 **警告****■ 電動ウェルチェアを電動車いすとして使用するときは**

- はね上げ式アームレストを下げてください。
 - ・ はね上げ式アームレストを上げた状態で使用すると電動ウェルチェア乗車の方の上体が不安定になり、電動ウェルチェアから転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 手足や衣服が車輪に巻き込まれるなど、重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- はね上げ式アームレストにもものをかけないでください。
リヤタイヤに干渉し、リヤタイヤがロックする可能性があり、衝突や転倒のおそれがあります。

■ 電動ウェルチェアを持ち上げるときは

電動ウェルチェアを持ち上げるときは、ベースパイプを2人で持ってください。
(→ P.160)
はね上げ式アームレストなどを持って電動ウェルチェアを持ち上げると、思わぬ事故の原因になります。

チルトレバー

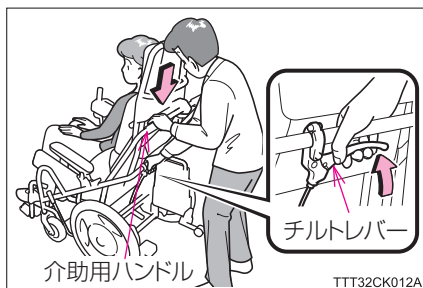
背もたれと座面をチルトダウンさせることにより、安定した姿勢で着座することができます。

チルトダウンのしかた

- 1 操作前に、次の状態を確認する
 - ・ 安全で平坦な場所に駐車していること
 - ・ 電動ウェルチェア乗車の方が正しい姿勢で乗車していること (→ P.41)
 - ・ 左右の駐車ブレーキがかかっていること (→ P.65)

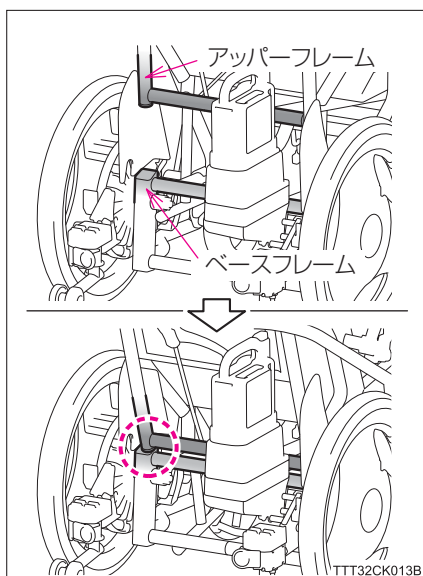
- 2 チルトレバーを握りながら、介助用ハンドルをゆっくりと押し下げる

- ・ 動作前に、電動ウェルチェア乗車の方に声をかけてください。
- ・ 背もたれと座面が下がりきるまで、押し下げます。



- 3 チルトレバーから手を離し、チルトダウンが完了していることを確認する

アッパーフレームがベースフレームに接していることを確認します。



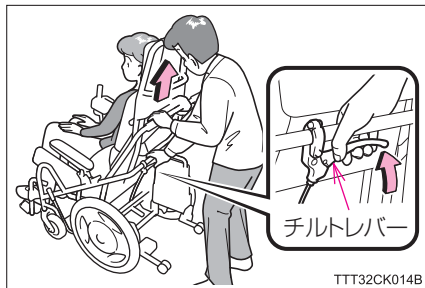
もどし方

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・安全で平坦な場所に駐車していること
- ・電動ウェルチェア乗車の方が正しい姿勢で乗車していること（→ P.41）
- ・左右の駐車ブレーキがかかっていること（→ P.65）

2 チルトレバーを握りながら、介助用ハンドルをゆっくりと引き上げる

- ・動作前に、電動ウェルチェア乗車の方に声をかけてください。
- ・背もたれと座面が上がりきるまで、引き上げます。



3 チルトレバーから手を離す

知識

■ 車内に乗り入れるときは

電動ウェルチェアは、チルトダウンした状態で、車内に固定できるよう設計されています。車内に乗り入れるときは、必ずチルトダウンをしてください。

■ チルト操作をするときは

電動ウェルチェアに人が座っている状態でチルト操作を行うと容易です。

注意

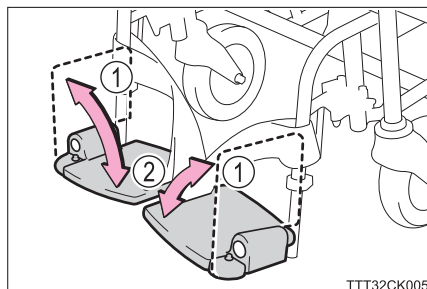
■ 損傷を防ぐために

電動ウェルチェアをチルトダウンした状態の、最低地上高は 50mm です。路面の状態に注意して使用してください。

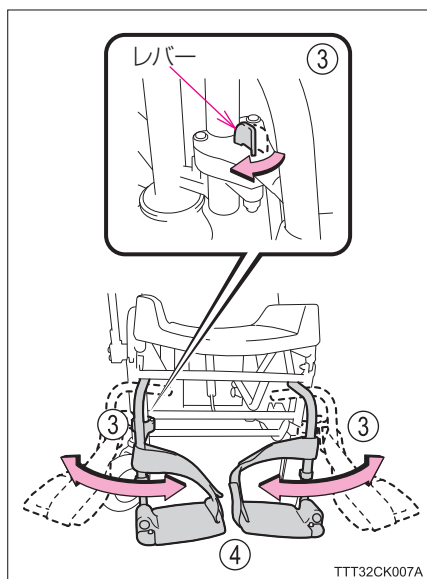
脱着式フットレスト

電動ウェルチェアでの移動時および車両への乗降時、必ず脱着式フットレストを下げ、乗車の方の足がフットレストの上に乗っていることを確認してください。

- ① 上げる
- ② 下げる



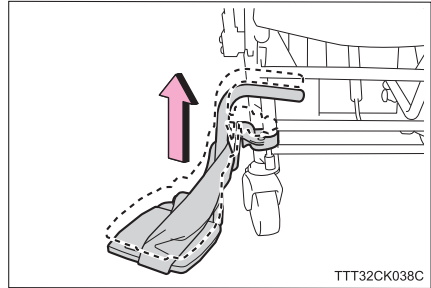
- ③ 展開
展開するときは、レバーを外側に引きながら操作します。
- ④ 格納
"カチン"と音がするまで操作します。



脱着式フットレストの脱着方法

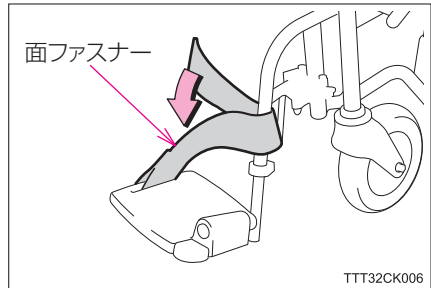
脱着式フットレストを90° 展開した状態で (→ P.54) 上に引き上げます。

取り付けは、逆の手順で行います。



フットレストベルト

電動ウェルチェア乗車の方の足の状態に合わせて調整します。

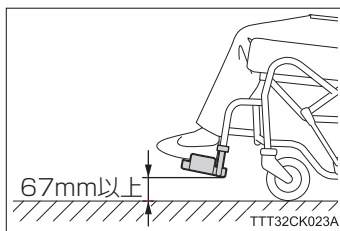


 知識

■ 脱着式フットレストの高さについて

電動ウェルチェア乗車の方の身体に合わせて、フットレストの高さを調整することができます。

- ・ 人が電動ウェルチェアに座った状態で地面とのすき間が67mm以上になるよう調整してください。
- ・ 使用工具および調整方法はトヨタ販売店にお問い合わせください。



警告**■ 脱着式フットレストを操作するときは**

- 必ず先端部を持って操作してください。
回転部近くを持つと指などを挟み、けがをするおそれがあります。



- 必ず脱着式フットレストを格納したことを確認してください。
脱着式フットレストを格納せず走行をすると、人やものにあたりに、思わぬ事故の原因になります。

■ 脱着式フットレストをはずしたときは

電動ウェルチェアの走行をしないでください。
走行するときは、脱着式フットレストを取り付け、フットレストに足を乗せてください。電動ウェルチェア乗車の方のバランスがくずれ、転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意**■ 損傷を防ぐために**

- 電動ウェルチェアを車内外に乗降するときは、脱着式フットレストの高さが67mm以上あることを確認してください。
車内床面やワンタッチ固定装置に干渉し、損傷するおそれがあります。
- 電動ウェルチェアで走行するときは、路面の状態に注意してください。
走行時に地面と干渉し、脱着式フットレストが損傷するおそれがあります。

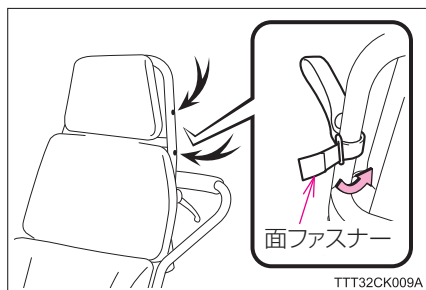
リルータ

肩部ベルトが首にあたり、肩からはずれて腕にかかってしまうときは、肩部ベルトをリルータに通します。

位置調整

適切な高さの穴にリルータを挿し込み、ベルトを巻き付ける

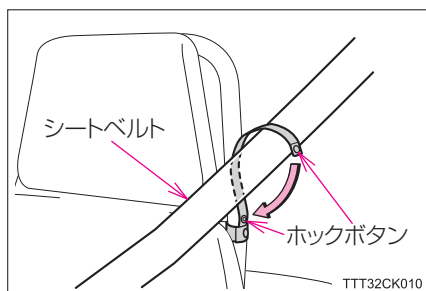
面ファスナーでしっかりと貼り合わせます。



使い方

シートベルトを巻くように折り返し、リルータを取り付ける

ホックボタンをしっかりとはめます。



警告

■ リルータを使用するときは

以下のことを確認してください。

リルータの取り付けが不十分だと、シートベルトが身体の不適切な位置にかかり、思わぬけがにつながるおそれがあり危険です。

- リルータがしっかりとヘッドレストのパイプの穴に挿し込まれていること
- リルータがヘッドレストのパイプにベルトでしっかりと巻きつけられた状態で、面ファスナーが貼り合わせられていること
- リルータのホックボタンがしっかりとハマり、とめられていること

電動ウェルチェアの操作の流れ

安全な場所で、まわりに注意して操作をしてください。

電動ウェルチェアを操作する前に

操作前に、次の状態を確認します。

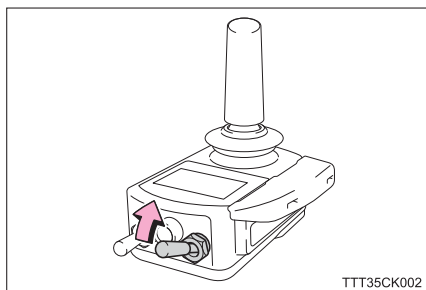
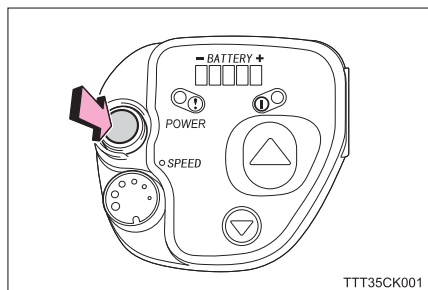
- ・ 転倒防止バーが展開されていること (→ P.64)
- ・ 電動ウェルチェア乗車の方が正しい乗車姿勢であること (→ P.41)
- ・ 左右の駐車ブレーキがかかっていること (→ P.65)
- ・ 左右の電動/手押切替クラッチレバーが「電動」になっていること (→ P.66)
- ・ バッテリーが装着されていること (→ P.91)

基本操作

1 電源スイッチを入れる

▶ コントロールパネル (→ P.72)

▶ ジョイスティック (→ P.74)



2 速度調整をする

▶ コントロールパネル

速度調整ダイヤルを調整します。(→ P.73)

▶ ジョイスティック

速度切替スイッチで調整します。(→ P.75)

3 左右の駐車ブレーキを解除する（→ P.65）

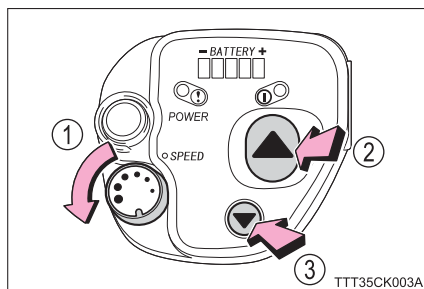
4 動作確認をする

少しずつ操作し、正常に動くことを確認します。

▶ コントロールパネル

介助用ハンドルをしっかりと握って操作します。

- ① 速度を最低に設定する
- ② 前進スイッチを短く押す
- ③ 後進スイッチを短く押す

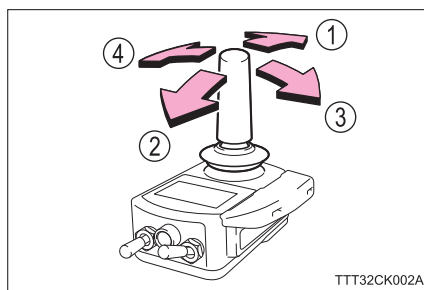


▶ ジョイスティック

操作レバーをゆっくりと、少しだけ傾け、中央にもどします。

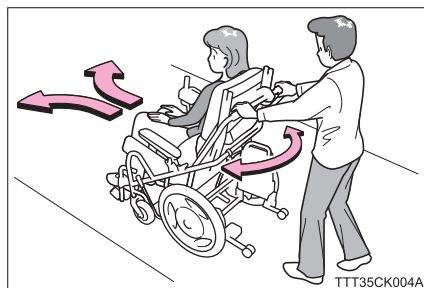
操作レバーをもどしたとき、電動ウェルチェアが正常に停止することを確認します。

- ① 前
- ② 後
- ③ 右
- ④ 左



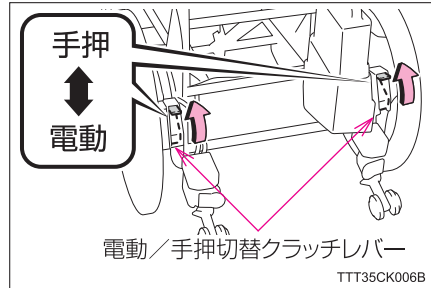
進行方向の変更、旋回のしかた（コントロールパネル）

介助用ハンドルをしっかりと握って操作します。

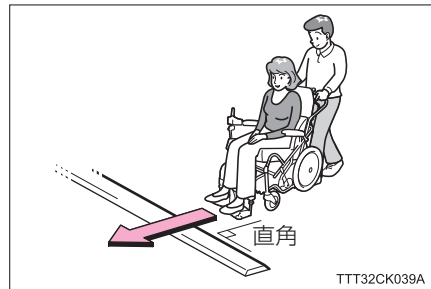


段差の乗りこえ方

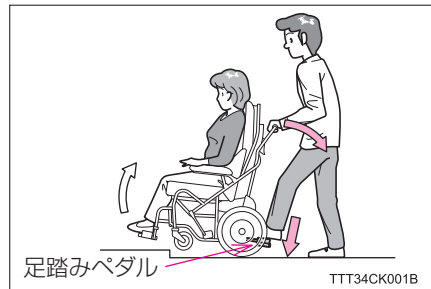
段差を乗りこえる場合は、左右の電動／手押切替クラッチレバーを「手押」にし、介助の方が行ってください。



- ① 段差に対して直角に電動ウェルチェアを近付ける



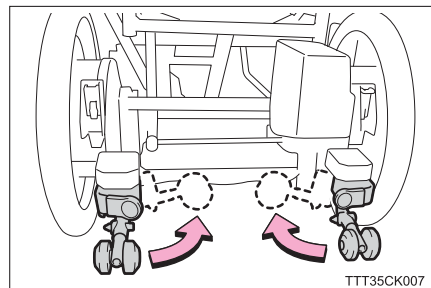
- ② 足踏みペダルを踏みながら、介助用ハンドルを後方に引き下げ、前輪を上げる



▶ 大きな段差を乗りこえる場合

大きな段差を乗りこえる場合は、転倒防止バーを折りたたむ（→ P.64）

段差を乗りこえた後は、すみやかに転倒防止バーを展開してください。



 知識

■ 電動走行時について

電動／手押切替クラッチレバーが「電動」の場合、以下の状態ではブレーキがかかります。

- ・ 電源が入っていないとき
- ・ 電源が入った状態で、走行操作をしていないとき

■ 電動操作ができないときは

電動ウェルチェアのバッテリーあがりや故障などにより、電動操作ができないときは、左右の電動／手押切替クラッチレバーを「手押」に切りかえ、移動させます。電動／手押切替クラッチレバーが「電動」のときにくらべて、軽い操作力で電動ウェルチェアを移動させることができます。

 **警告****■ 走行するときは**

以下のことをお守りください。

- 急な坂道で電動ウェルチェアを使用しないでください。
転倒したり、制動が効かなくなるおそれがあります。
- 下り坂で急に曲がらないでください。また急な坂道での横断や斜め走行はしないでください。
バランスをくずし、転倒するおそれがあります。
- 坂道や段差を下りる場合は、後進で下りてください。
前進で下りると電動ウェルチェア乗車の方が前のめりになり、電動ウェルチェアから落ちてけがをするおそれがあります。
- 走行中に電源を切ったり、バッテリーを抜かないでください。
リヤタイヤにブレーキがかかり、電動ウェルチェア乗車の方や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 背もたれに重い荷物をかけたり、ポケットシートに重いものを入れて運転しないでください。
上り坂でうしろに倒れやすくなり、電動ウェルチェア乗車の方や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- はね上げ式アームレストにもものをかけないでください。
リヤタイヤに干渉し、リヤタイヤがロックする可能性があり、衝突や転倒のおそれがあります。
- ジョイスティックにもものをかけないでください。
操作の邪魔になるだけでなく、ジョイスティックから手を離しても、かけているものの重さでジョイスティックがもどらず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- USB 電源ポートに USB 機器を接続したまま走行しないでください。
 - ・ 障害物に衝突したときにジョイスティックが破損するおそれがあります。
 - ・ 接続した USB 機器のケーブルが操作レバー・リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因になります。
- 電動／手押切替クラッチレバーを「手押」にする場合は、平坦な場所で左右の駐車ブレーキをかけ、電源を切った状態で行ってください。
- 段差以外で、介助用ハンドルに下方向へ力を入れないでください。
電動ウェルチェアの前輪が上がり、バランスをくずしやすくなります、

転倒防止バー

後方への転倒を防止します。走行時は常に左右の転倒防止バーを展開した状態にしてください。

介助走行時に、転倒防止バーを折りたたむことによって大きな段差の乗りこえができます。段差を乗り越えた後はすみやかに転倒防止バーをもどしてください。

電源を切った状態で行います。

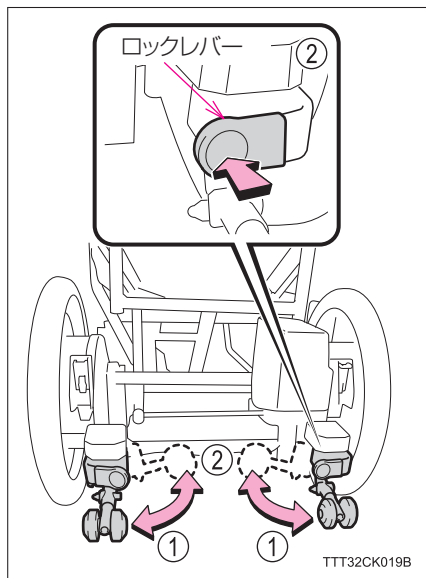
(→ P.72, 74)

① 展開する (通常)

- ・ 左右の転倒防止バーを外側にまわします。
- ・ いっぱいまでまわすと"カチャン"と音がしてロックされます。

② 折りたたむ

- ・ ロックレバーを押しながら、転倒防止バーを内側にまわします。
- ・ "カチャン"と音がするまでまわします。



⚠ 警告

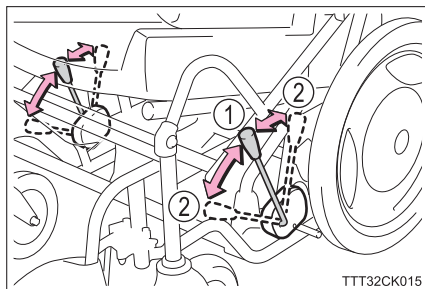
■ 走行するときは

- 転倒防止バーを折りたたんだままで走行すると転倒するおそれがあります。転倒防止バーを必ず展開して走行してください。
- 段差を乗り越えた後は、すみやかに左右の転倒防止バーを展開してください。

ブレーキ

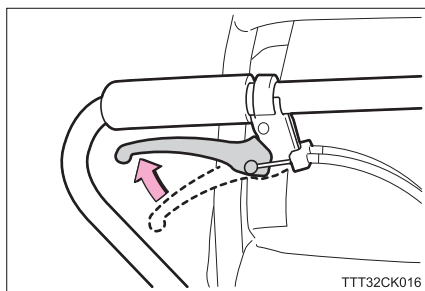
駐車ブレーキ

- ① リヤタイヤのブレーキ解除
- ② リヤタイヤのブレーキがかかる



介助ブレーキ

レバーを握っているあいだ、リヤタイヤのブレーキがかかります。



警告

■ ブレーキについて

- 介助ブレーキは、駐車用としては使用できません。
- 駐車ブレーキを使用するときは、左右ともかけてください。
片側のみかけると電動ウエルチェアが思わぬ方向に動いたり、転倒などのおそれがあり危険です。
- 電動ウエルチェアから離れるときは必ず左右の駐車ブレーキをかけてください。
電動ウエルチェアが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 電動ウエルチェアに乗り降りするとき、駐車ブレーキのレバーに衣服などを引っかけて転倒しないよう注意してください。

電動／手押切替クラッチレバー

電動走行、手押走行の切りかえができます。

切りかえるときは、平坦で安全な場所に駐車してから行います。

電源を切った状態で行います。

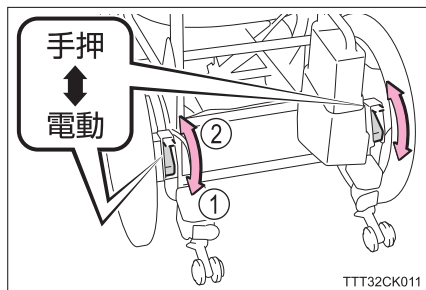
(→ P.72, 74)

① 電動（通常）

電動走行ができます。

② 手押

ブレーキが解除され、介助の方が手で押して移動することができます。



知識

■ 作動条件について

電動／手押切替クラッチレバーが左右とも「電動」になっていないと、電源を入れた状態でコントロールパネルおよびジョイスティックを操作しても、電動ウエルチェアは動きません。

■ 電動走行時について

電動／手押切替クラッチレバーが「電動」の場合、次の状態では、ブレーキがかかります。

- ・ 電源が入っていないとき
- ・ 電源が入った状態で、走行操作をしていないとき

 **警告****■ 走行するとき**

- 走行中に電動／手押切替クラッチレバーを操作しないでください。
 - ・ 電動走行中に電動／手押切替クラッチレバーを「手押」に切りかえると、モーターによるブレーキの効果がなくなり、坂道では電動ウェルチェアが暴走するおそれがあります。
 - ・ 手動走行中に電動／手押切替クラッチレバーを「電動」に切りかえると、リヤタイヤにブレーキがかかり、ショックで身体が前方に投げ出されたり、電動ウェルチェアが故障・破損するおそれがあります。

- 傾斜のある場所では電動／手押切替クラッチレバーを「手押」に切りかえないでください。電動ウェルチェアが不意に動き出し、衝突や転倒するおそれがあります。

電動／手押切替クラッチレバーを「手押」にする必要があるときには、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切った状態で介助の方がレバーの切りかえを行ってください。

■ 電動ウェルチェアへ乗り降りするときは

電源を切り、左右とも必ず電動／手押切替クラッチレバーを「電動」にし、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

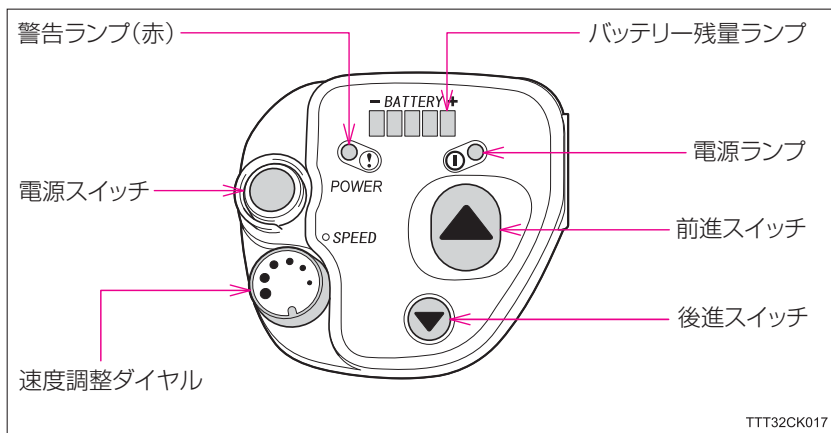
電動ウェルチェアが不意に動き、電動ウェルチェア乗車の方が電動ウェルチェアから落ちてけがをするおそれがあり危険です。

コントロールパネル／ジョイスティック

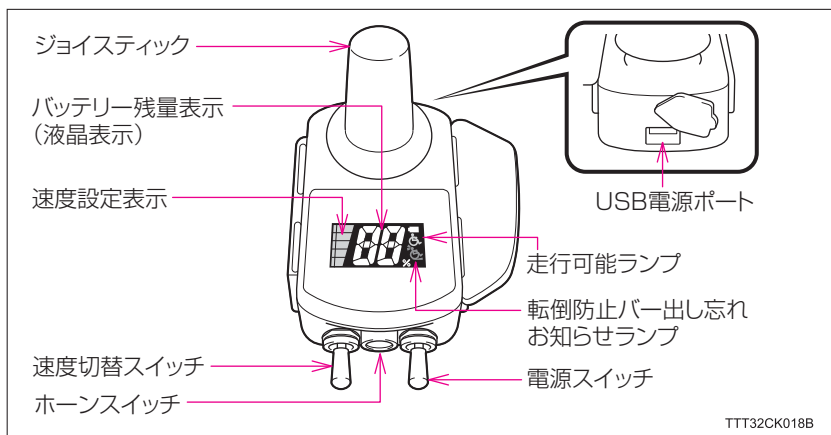
電動ウェルチェアを電動で操作することができます。

コントロールパネルとジョイスティックは同時に操作できません。使用する側のみ電源を入れてください。(両方の電源を入れた場合、先に電源を入れた側のみ操作できます)

◆ コントロールパネル (介助用)



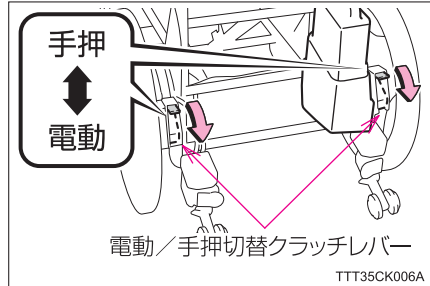
◆ ジョイスティック (自操用)



コントロールパネル／ジョイスティックの電源を入れる前に

次の状態を確認してください。

- ・ バッテリーが装着されていること
(→ P.91)
- ・ 左右の電動／手押切替クラッチレバーが「電動」になっていること

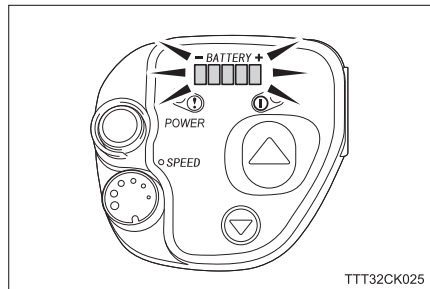


バッテリー残量の確認

▶ コントロールパネル

走行中は、バッテリー残量ランプでいつでもバッテリー残量を確認することができます。

バッテリー残量は 20% 刻みで表示されます。



- ・ バッテリー残量が約 10% 以下の状態で電源スイッチを入れると、警告ランプ（赤）が点滅し、ブザーが“ピピピピ”と 4 回鳴ります。
- ・ 走行中にバッテリー残量が 10% 以下になった場合も同様に警告ランプ（赤）が点滅しブザーが鳴ります。早めに充電してください。

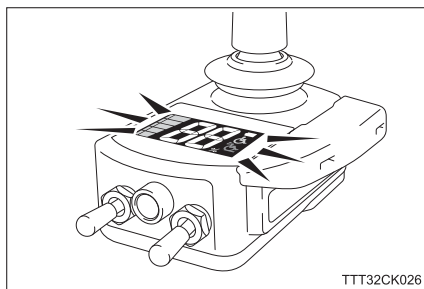
バッテリー残量ランプが点灯せず、警告ランプ（赤）が点灯または点滅している場合はバッテリー切れです。

バッテリーを充電しても警告ランプ（赤）が点灯して動かないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

▶ ジョイスティック

走行中は、バッテリー残量表示でいつでもバッテリー残量を確認することができます。

バッテリー残量は 20% 刻みで表示されます。



- ・ バッテリー残量が約 10% 以下の状態で電源スイッチを入れると、バッテリー残量表示が点滅し、ブザーが“ピピピピッ”と 4 回鳴ります。
- ・ 走行中にバッテリー残量が 10% 以下になった場合も同様にバッテリー残量表示が点滅しブザーが鳴ります。早めに充電してください。
- ・ バッテリーがなくなると、バッテリー残量表示が“E”で点滅し、ブザーが“ピー”と長く 1 回鳴り、電動ウェルチェアは停止します。

□ 知識

■ 作動条件について

電動／手押切替クラッチレバーが左右とも「電動」になっていないと、電源を入れた状態でコントロールパネルおよびジョイスティックを操作しても、電動ウェルチェアは動きません。

■ 電源について

電源を入れると微弱電流が流れますので、使用しないときは電源を切ってください。電動ウェルチェアのバッテリーあがりの原因になります。

■ USB 電源ポートについて

USB 機器を接続することで、バッテリーから給電することができます。

- 給電専用です。通信機能はありません。
- 容量は 500mA です。
500mA をこえる USB 機器の充電はできません。

 **警告****■ 電動ウェルチェアを電動車いすとして使用するときは**

- 必ずはね上げ式アームレストを使用してください。
はね上げ式アームレストをはね上げたままだと電動ウェルチェア乗車の方の身体が不安定になったり、転落のおそれがあり危険です。
- 必ず電動ウェルチェア乗車の方の足が脱着式フットレストに乗っていることを確認してください。
地面と電動ウェルチェアとのあいだで足を挟まれるなど、けがをするおそれがあります。
- 電動ウェルチェアの車輪に強い衝撃や力を与えないでください。
車輪の変形やリンクの曲がりなどにより車輪の格納ができなくなるおそれがあります。

■ 走行ルートについて

→ P.38

 **注意****■ USB 電源ポートについて**

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、USB 電源ポートが破損するおそれがあります。

- USB コネクタ以外のものを挿し込まないでください。
- 使用しないときは、ゴムキャップを閉めてください。

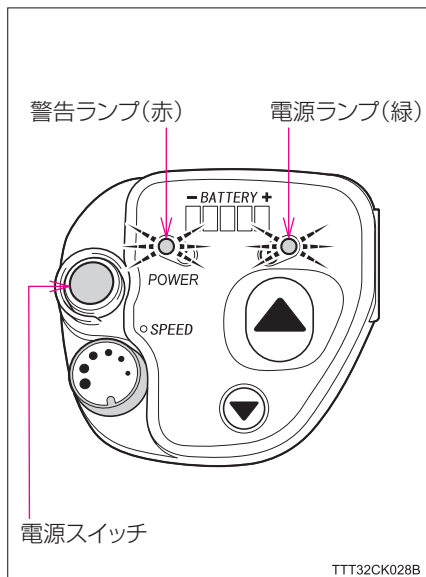
コントロールパネルを使用して電動ウェルチェアを操作するときは

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・ バッテリーが装着されていること (→ P.91)
- ・ 左右の電動／手押切替クラッチレバーが「電動」になっていること (→ P.66)

2 コントロールパネルの電源スイッチを押し、電源を入れる

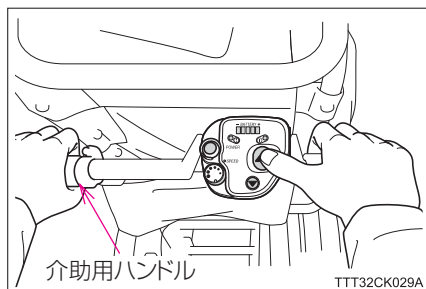
- ・ ランプがすべて点灯したあと、警告ランプ (赤) が消えます。
- ・ バッテリー残量ランプと電源ランプ (緑) が点灯した状態になります。



3 必要に応じて速度調整をする (→ P.73)

4 コントロールパネルの操作をする

介助用ハンドルをしっかりと握って操作します。



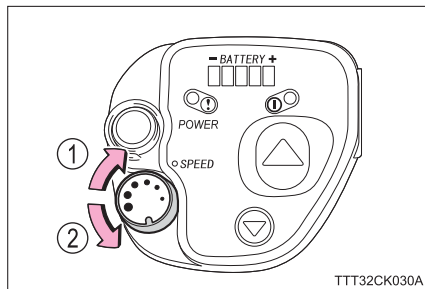
5 使用後はコントロールパネルの電源スイッチを押し、電源を切る

電源ランプ (緑) が消灯します。

■速度調整のしかた（コントロールパネル）

速度調整ダイヤルを動かして速度調整をします。

- ① 高速走行
時計まわりに動かします。
- ② 低速走行
反時計まわりに動かします。



□ 知識

■コントロールパネルの電源が入らないときには

ジョイスティックの電源が入っているとコントロールパネルの電源が入りません。いったん両方の電源を切ったあとでコントロールパネルの電源を入れてください。

■コントロールパネルの設定速度について

- 電源を入れたときの速度は、前回使用したときに調整した速度になります。
- 最高速度は約 4.5km / h です。

▲ 警告

■介助走行をするときは

介助用ハンドルに下方向への力をかけないでください。

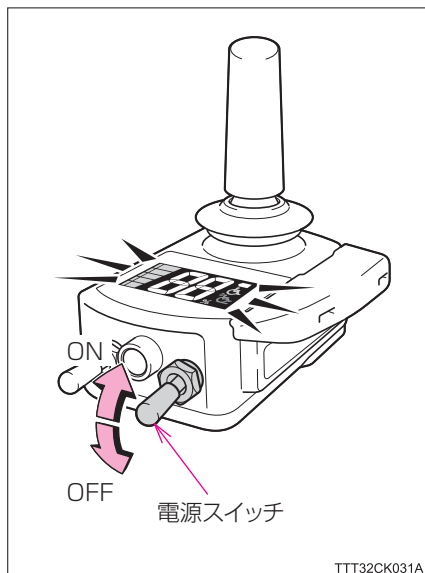
下方向へ力をかけながら走行すると、電動ウエルチェアの前輪が浮きやすく、電動ウエルチェアが転倒するおそれがあり危険です。

ジョイスティックを使用して電動ウェルチェアを操作するときは

- 1 操作前に、次の状態を確認する
- ・ バッテリーが装着されていること (→ P.91)
 - ・ 左右の電動/手押切替クラッチレバーが「電動」になっていること (→ P.66)

- 2 ジョイスティックの電源スイッチを ON にし、電源を入れる

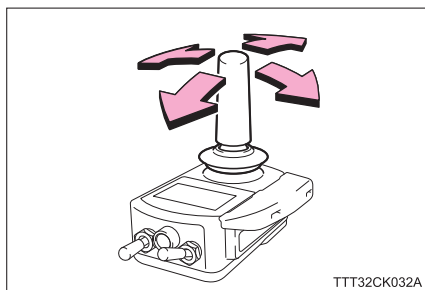
- ・ ランプがすべて点灯します。
- ・ 転倒防止バー出し忘れお知らせランプが消えます。(→ P.68)
- ・ バッテリー残量表示になります。



- 3 必要に応じて速度調整をする (→ P.75)
- 4 左右の駐車ブレーキを解除する (→ P.65)

- 5 ジョイスティックを操作し、電動ウェルチェアを動かす

移動したい方向にジョイスティックをゆっくりと倒します。
必要に応じて速度切替スイッチで速度を調整してください。

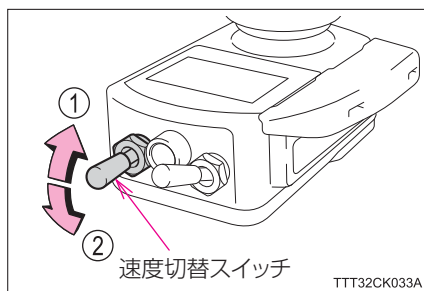


- 6 使用後はジョイスティックの電源スイッチを OFF にし、電源を切る

■ 速度調整のしかた（ジョイスティック）

速度切替スイッチを上下に動かして速度調整をします

- ① 高速走行
- ② 低速走行



□ 知識

■ ジョイスティックの電源が入らないときには

コントロールパネルの電源が入っているとジョイスティックの電源が入りません。いったん両方の電源を切ったあとでジョイスティックの電源を入れてください。






■ ジョイスティックの設定速度について

- 電源を入れたときの速度は、前回使用したときに調整した速度になります。
- 最高速度は約 4.5km / h です。

 知識

■ 表示・ブザーについて

動作や状況に応じて次のように表示・ブザーが変わります。

表示	ブザー	動作・状況
 (点滅)	—	コントロールパネルの電源が入ったまま、ジョイスティックの電源を入れたとき
 (点滅)	ピッ	電動／手押切替クラッチレバーが「手押」の状態ジョイスティックを操作したとき
 (点滅)	ピー---	ジョイスティックを倒した状態で、ジョイスティックの電源を入れたとき
 (交互表示)	ピピー---... ピピー---...	電源が入っている状態で転倒防止バーが折りたたまれている場合
 (交互表示)	ピー...ピー...	走行中、モーターにかかる負担が大きすぎるとき

■ 位置調整について

ジョイスティックの取り付け位置を調整することができます。トヨタ販売店までご連絡ください。

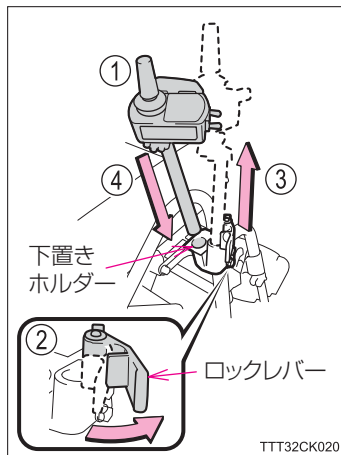
知識

■ 下置きホルダーについて

テーブルなどに近づく場合、下置きホルダーを使用すると便利です。使用するときには、ジョイスティックを取りはずします。

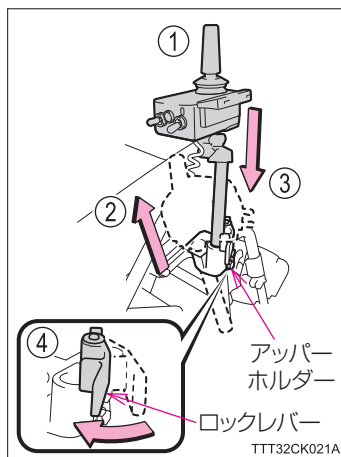
▶ 取りはずし方法

- ① ジョイスティックの電源を切る
- ② ロックレバーを解除する
- ③ ジョイスティックを上引き抜く
- ④ 下置きホルダーにジョイスティックを挿し込む



▶ 取り付け方法

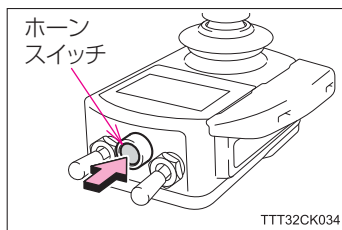
- ① ジョイスティックの電源が切っていることを確認する
- ② 下置きホルダーからジョイスティックを引き抜く
- ③ ジョイスティックをアッパーホルダーに挿し込む
- ④ ロックレバーをロックする



知識

■ ホーン機能について

ジョイスティックのホーンスイッチを押すと、警笛（ホーン）が鳴ります。



■ オートパワーオフ機能について

電源を入れた状態で操作レバーを 10 分間操作しないと、自動的に電源が OFF になります。続けて走行する場合は一度電源を切って、1 秒以上経過してから再度電源を入れ直してください。

■ いたずら防止機能について

電動ウェルチェアから離れる時など、他の人に電動ウェルチェアを操作されても動かないようにすることができます。

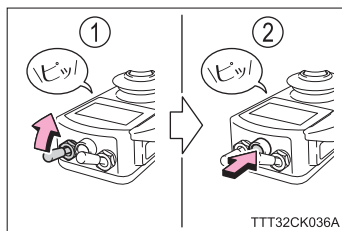
▶ 設定方法

- ① ジョイスティックの電源を入れる
- ② 速度切替スイッチを下向きに押し続ける
"ピッ"と音が鳴るまで押し続けます。
- ③ ホーンスイッチを押し続ける
"ピッ"と音が鳴るまで押し続けます。



▶ 解除方法

- ① 速度切替スイッチを上向きに押し続ける
"ピッ"と音が鳴るまで押し続けます。
- ② ホーンスイッチを押し続ける
"ピッ"と音が鳴るまで押し続けます。



 **警告****■ ジョイスティックを取りはずすときは**

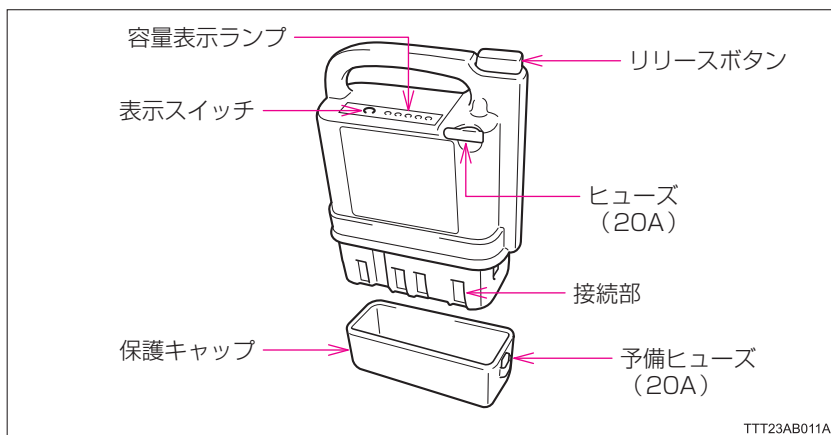
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になります。

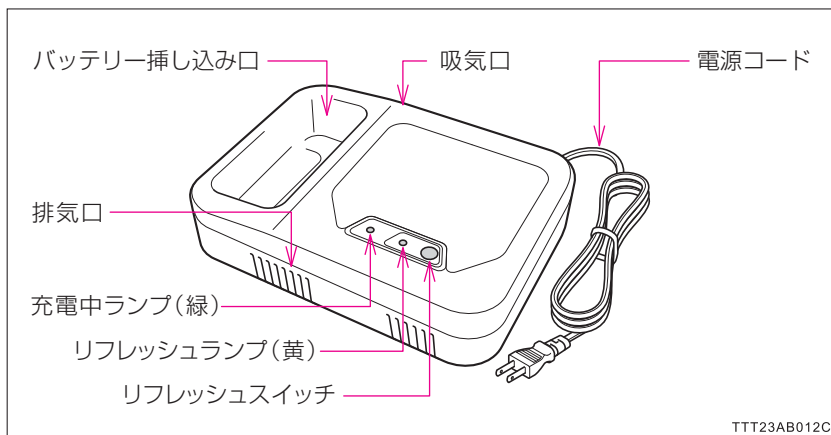
- ジョイスティックの電源を入れた後にジョイスティックを取りはずしたり、ジョイスティックを取りはずした後に電源を入れないでください。
ジョイスティックの操作レバーが倒れ、不意に電動ウエルチェアが動き思わぬ事故の原因になります。
- ジョイスティックを取りはずした状態では絶対にジョイスティックでの電動走行をしないでください。

バッテリーの充電

◆ バッテリー



◆ 充電器



バッテリーの充電のしかた

お買い上げ時、バッテリーは充電されておりません。充電してからお使いください。なお、充電は次のような場所で行ってください。

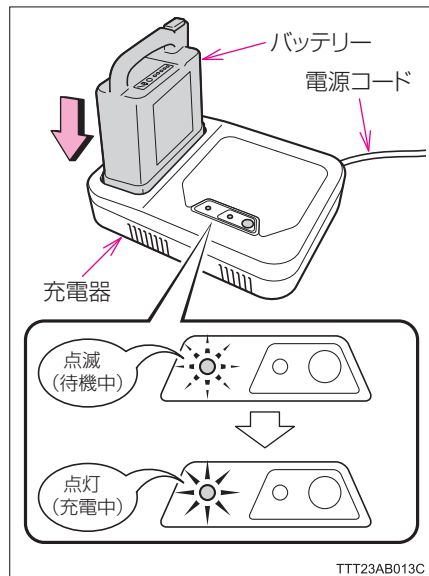
- 屋内の涼しく風通しのよいところ
- 充電中の温度が 10 ～ 25℃に保たれるところ
- 平坦で安定のよいところ
- 屋外で雨にぬれたり、洗面所など水がかかるところは避けてください。ショートしたり、感電するおそれがあり危険です
- 車両電源での充電は行わないでください
- 幼児やペットがいたずらしそうなおところは避けてください。けがをしたり、機器を破損するおそれがあります

- 1 電源コードを充電器側とコンセント側に、プラグ部分を持って挿し込む

AC100～240V、50／60Hzの入力電源に対応しています。

- 2 バッテリーを充電器の挿し込み口に突きあたるまでしっかりと挿し込む

- ・ バッテリーが適温であれば、充電中ランプ（緑）が点灯して充電が始まります。
- ・ バッテリーの温度が 0℃以下もしくは 40℃以上の範囲にあると、適温になるまで充電中ランプ（緑）が点滅します。バッテリーが適温になると、ランプが点灯して自動的に充電が始まります。

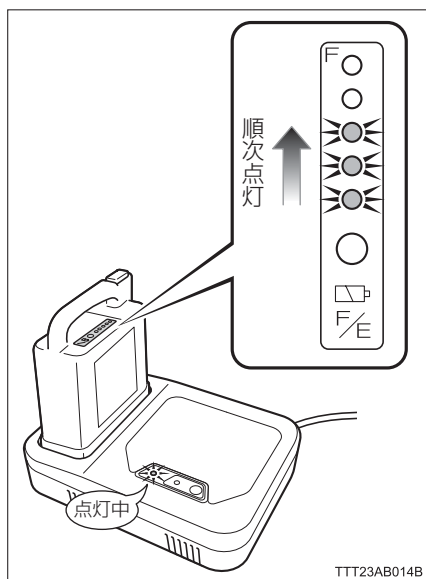


TTT23AB013C

- ① 充電中は、バッテリーの容量表示ランプが順次点灯し、充電のすすみ具合を表示します。

充電は約2～3時間で完了します。

- ② 充電が完了すると、自動的に充電器の充電中ランプ（緑）とバッテリーの容量表示ランプが消灯します。



TTT23AB014B

充電が終了したら

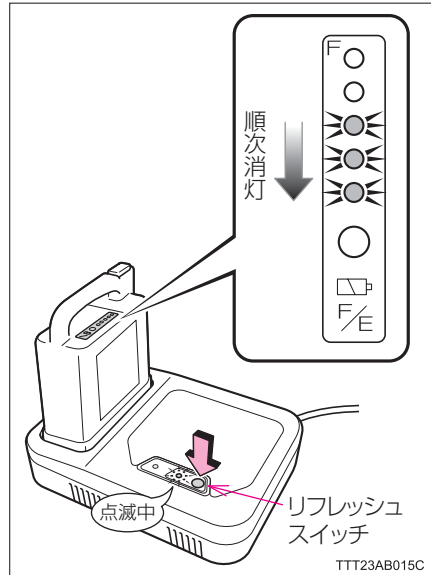
- 1 電源コードのプラグ部分を持って、コンセントから引き抜く
- 2 バッテリーを充電器から取りはずす

リフレッシュ充電のしかた

リフレッシュ充電が必要になると、バッテリーを充電器の挿し込み口に挿し込んだとき、リフレッシュランプ（黄）が点滅します。バッテリーを長持ちさせ、走行距離の低下を防ぐため、リフレッシュランプ（黄）が点滅したら、必ずリフレッシュ充電を行ってください。

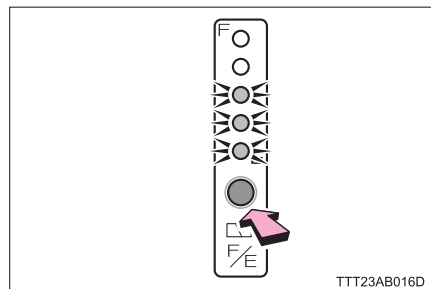
リフレッシュランプ（黄）が点滅しているあいだ（約1分）に、リフレッシュスイッチを押す

- ① リフレッシュランプ（黄）が点灯して、残ったバッテリーの放電を開始します。
- ② 放電中は、バッテリーの容量表示ランプが順次消灯し、放電のすすみ具合をお知らせします。
- ③ 放電が完了すると、自動的に充電が始まります。



バッテリーの残量チェックのしかた

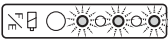


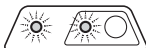
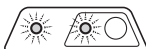
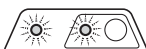
バッテリーの表示スイッチを押す
容量表示ランプが点灯し、バッテリーの残量をお知らせします。



充電中に異常が生じたときは

充電中にバッテリーか充電器に異常が発生すると、充電器の充電中ランプ（緑）、リフレッシュランプ（黄）およびバッテリーの容量表示ランプが点滅して異常をお知らせします。

充電器は非分解構造です。充電器の異常が発生した場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

バッテリー	充電器	原因・処置
 1・3・5 番目 点滅	 緑・黄の 同時点滅	バッテリーの温度が充電に適していません。 バッテリーの温度が適温になるまで待つてから充電を始めてください。
 4 番目点滅		バッテリー内部の異常です。新しいバッテリーに交換してください。 交換する際は、トヨタ販売店にご連絡いただき、リサイクルをお願いします。
	 緑・黄の 早い交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接点不良のおそれがあります。バッテリー側、充電器側の接点部を点検して、ゴミつまりなどがあつたら取り除いてください。 また、接点部に汚れがある場合は、接点を変形させたり、傷付けないように注意して乾いた布でふき取ってください。 ・ バッテリーのヒューズが切れているおそれがあります。バッテリーの側面にあるヒューズのフタを開けてヒューズを点検し、切れていれば保護キャップ上の予備ヒューズに交換してください。(20A ブレードヒューズ)
	 緑・緑・緑・黄 の順次周期点滅	充電器に異常があります。新しい充電器に交換してください。
	 緑・緑・黄 の順次周期点滅	

バッテリーの長期保管

バッテリーは自己放電によりバッテリーの残量が減ります。長期間使用しないで保管する場合は、バッテリーを充電して高温になる場所を避けて保管してください。(0～25℃が推奨保管温度です)

バッテリーのリサイクル

劣化して交換したバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源のため、リサイクルの際は、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ 充電について

- バッテリーの充電中、充電器の状態により冷却ファンがまわったり停止する作動音が聞こえることがあります。
- バッテリー保護のため、バッテリー温度が0～40℃の範囲外の場合は、充電を開始しません。適温になってから充電してください。待機時間は条件により異なりますが、1～2時間かかります。
- 夏の暑い日中に走行した直後のバッテリーは高温になりますので、充電の前に自然に冷ましてください。

■ 走行距離について

バッテリーフル充電、常温25℃の直線平坦路連続走行時の最高速度・電動走行距離は次のとおりです。

最高速度	電動走行距離	充電時間（家庭用電源）
約 4.5km / h	約 16km / 1 充電	約 3 時間 / 個 (常温時)

地形や温度、充電方法によっては、走行距離が短くなる場合があります。

- 登坂走行や段差乗り越えなどの多いところでの走行は、平地にくらべてバッテリーの消費電力が増えるため、走行距離は短くなります。
- 気温が高すぎたり低すぎるとバッテリーの働きが弱まり、走行距離が短くなります。(10℃～30℃が推奨環境温度です)

 知識**■ 充電中ランプについて**

- 充電時のバッテリー温度は、バッテリーの寿命に大きく影響します。充電器はバッテリーから温度情報を読み込み、充電を管理します。
- 充電中にバッテリーか充電器に異常が発生すると、表示ランプを点滅させて異常箇所をお知らせします。

■ リフレッシュランプについて

ニッケル水素バッテリーは、完全に放電させてから充電すると、バッテリー機能を回復させて走行距離の低下を防ぐことができます。充電器はバッテリーのリフレッシュ充電が必要なとき、リフレッシュランプを点滅させ、お知らせします。

■ リフレッシュ充電について

- リフレッシュ充電は通常、3～13時間かかります。高い温度の場所では、さらに時間がかかる場合があります。
就寝前にリフレッシュ充電を開始し、翌朝まで放置すると、効率的に充電できます。
- リフレッシュのお知らせがあった場合でも、短時間に充電を完了したいときは、そのまま放置すれば約1分後に充電が始まります。

■ 自己放電について

バッテリーは使用しなくても自然に残量が減っていきます。

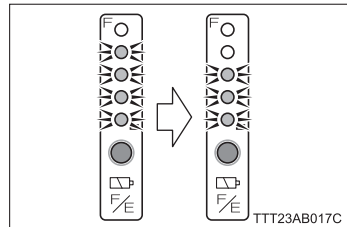
- 長期間使用しない場合でも、定期的に容量表示で残量を確認して適宜、再充電してください。長期保管時に充電できない場合は、自己放電を抑えるために、バッテリーのヒューズをはずしてください。（ヒューズをはずすと容量表示ランプが正しく表示しなくなりますが、再充電することで正常にもどります）
- 自己放電は保管温度に影響を受け、特に高温で加速します。（0℃～30℃が推奨保管温度です）
- 電動ウェルチェアに装着したまま保管すると、わずかですがバッテリーを消費します。長期間使わない場合は電動ウェルチェアから取りはずし、高温になる場所を避けて保管してください。

知識

■ バッテリーの劣化について

バッテリーは正しく使っていても月日がたつと徐々に性能がおとろえていきます。

- ニッケル水素バッテリーの寿命は使い方や使用環境により異なりますが、約1年間もしくは約300サイクルが目安です。(充電完了後の容量表示が、新品時の約60%に減少します)
- ニッケル水素バッテリーを少しだけ使って、すぐに充電し直すような使い方をくり返すと、実際に使える容量が減少することがあります。この場合はリフレッシュ充電を行ってください。(→ P.83)
- 劣化が進むと容量表示が不安定になります。トヨタ販売店にご相談いただき、早めに新品バッテリーに交換されることをおすすめします。
- バッテリーの劣化がすすむにつれて、充電が完了したときでも、5番目、4番目…と順次容量表示ランプが消灯してきます。充電完了状態で5番目と4番目の2つのランプが点灯しなくなったときがバッテリー交換の目安としてください。



■ ヒューズを交換したあとは

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換してもコントロールパネルおよびジョイスティックの電源が入らないとき

 **警告**

バッテリーや充電器はまちがった取り扱いをすると、発熱・破裂・感電の原因になります。必ず次のことをお守りください。

■ バッテリーの取り扱いについて

● バッテリーは小型ですが、大きなエネルギーを蓄えています。使い方を誤ると機器の損傷につながったり、場合によってはやけどや火災を引き起こすおそれがあり危険です。

- ・ 電動ウェルチエア以外に使ったりしないでください。
- ・ 分解や改造をしないでください。
- ・ 火に近づけたり火の中に入れてたりしないでください。
- ・ 水に入れたり、水をかけたりしないでください。
- ・ 幼児やペットが近づくところで保管しないでください。
- ・ 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- ・ バッテリーが変形していたり、いつもはしない臭いがするなど、今までとは異なる症状が起きた時にはバッテリーを使わないで、トヨタ販売店までご連絡ください。
- ・ 壊れたり傷んだバッテリーは使用しないでください。
- ・ 幼児やペットが近づくところではバッテリーの充電をしないでください。

● バッテリーの充電をするときは、必ず P.80 の充電器を使用し、家庭用電源から充電してください。
火災やバッテリー破損のおそれがあり危険です。

■ 充電器の取り扱いについて

● 充電器の使い方を誤ると機器の損傷につながったり、場合によってはやけどや火災を引き起こすおそれがあり危険です。

- ・ 傷んだコードは使用しないでください。
- ・ 水に入れたり、ぬれた手で充電器を触らないでください。
- ・ 分解・改造をしないでください。
- ・ 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- ・ 充電器が変形していたり、いつもはしない臭いがするなど、今までとは異なる症状が起きた時には充電器を使わないで、トヨタ販売店までご連絡ください。
- ・ 平坦な場所で使用してください。
- ・ 使用後は電源プラグをコンセントに挿したままにしないでください。

● 充電中は充電器の吸気口、排気口をふさがらないでください。

 **警告****■ バッテリーのヒューズについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと電動ウエルチェア・バッテリーの故障や火災、けがを
するおそれがあります。

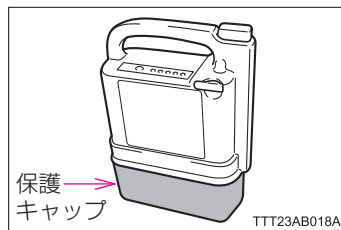
- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- バッテリーを改造しない

⚠ 注意**■ リフレッシュ充電について**

リフレッシュ充電のお知らせを無視して充電を続けると、バッテリーの容量表示が不正確になってきます。リフレッシュ充電のお知らせが始まったら、3回目までの充電のあいだに必ずリフレッシュ充電を実施してください。

■ 故障を防ぐために

- バッテリーおよび充電器に強い衝撃を与えたり、落とさないでください。故障の原因になります。
- バッテリー挿し込み口には、手やものを入れないでください。バッテリー挿し込み口に異物がないか確認してください。もしあれば取り除いてからバッテリーを挿し込んでください。
- 取りはずしたバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管してください。接点部が露出していると、ショートするおそれがあります。

**■ 損傷を防ぐために**

- 充電器の接点を変形させたり、傷付けたりしないでください。
- 充電済みのバッテリーをさらに充電しないでください。温度が上昇してバッテリーの寿命を短くします。
- 次のようなところで充電しないでください。バッテリーの性能が低下したり、破損の原因になります。
 - ・ 直射日光が当たる場所やストーブのそばなど高温になるところ、また寒冷地などでは、冬期に氷点下に気温が下がるところは避けてください。バッテリー温度が熱すぎたり冷たすぎたりすると、充電が始まりません。
 - ・ 充電器の上やまわりにもものを置かないでください。充電中に充電器が発熱し、機能が低下するおそれがあります。
- 電源コードを引っばって抜かないでください。断線の原因になります。

バッテリーの電動ウェルチェアへの装着

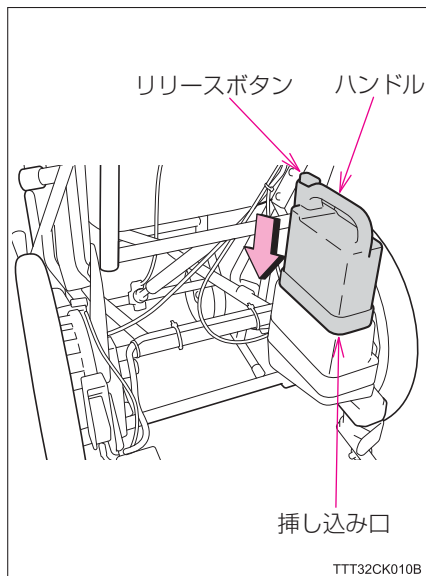
バッテリーを電動ウェルチェアに取り付けるときは

1 次の状態を確認する

- ・ 左右の電動／手押切替クラッチレバーが「手押」になっていること (→ P.66)
- ・ 左右の駐車ブレーキがかかっていること (→ P.65)
- ・ 電動ウェルチェアがチルトダウンしていないこと (→ P.52)

2 バッテリーのハンドルを持ち、挿し込み口にバッテリーを挿し込む

電動ウェルチェア側の挿し込み口とバッテリー側の接続部に異物・水分および汚れなどが無いことを確認します。



3 左右の電動／手押切替クラッチレバーを「電動」にし、動作確認をする

バッテリーを電動ウェルチェアから取りはずすときは**1** 次の状態にする

- ・ 左右の電動／手押切替クラッチレバーが「手押」になっていること（→ P.66）
- ・ 左右の駐車ブレーキがかかっていること（→ P.65）
- ・ 電動ウェルチェアがチルトダウンしていないこと（→ P.52）

2 バッテリーを挿し込み口から取りはずす

リリースボタンを押しながらハンドルを持ち、バッテリーを持ち上げます。

 **知識**

■ バッテリーの脱着について

電動ウェルチェアがチルトダウンした状態では、バッテリーの脱着はできません。

電動ウェルチェアの 車内外への乗り降り

4

4-1. ご使用前に

確認していただきたいこと

ご使用前に

確認していただきたいこと ... 94

乗降時の正しい着座姿勢 96

4-2. 電動ウェルチェアの

車内外への乗降

操作の流れ 98

電動ウェルチェアの

車内への乗車・固定 105

電動ウェルチェアの

固定解除・車外への降車 109

作動条件の確認 113

メインスイッチ 117

車高調整および

スロープの展開・格納 120

車いす用シートベルト 139

車両に電動ウェルチェアを

積み込むときは 145

走行する前に 149

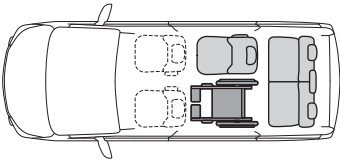
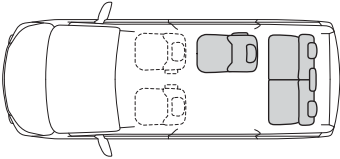
ご使用前に確認していただきたいこと

電動ウェルチェアでスロープ上を移動し、車に乗り降りします。

車高降下装置で車両後部の車高を低下させ、電動ウェルチェアの車内外への乗り降りを容易にします。

操作はすべて介助の方が行ってください。

室内レイアウト

室内レイアウト	乗車人数
	<p>電動ウェルチェア ご利用時</p> <p>乗車人数 7名 (6名+電動ウェルチェア 1名)</p>
	<p>電動ウェルチェアを ご利用しないとき</p> <p>乗車人数 6名</p>

重量について

スロープの耐荷重は 200kg です。

- スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「電動ウェルチェア (35kg) + 電動ウェルチェア乗車の方 + 手荷物 + 介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- 手動スロープ装着車で手動スロープを前倒れにしたときは、手動スロープの上に載せる荷物の重量が 200kg 以下であることを確認してください。

スマートエントリー&スタートシステムについて

スマートエントリー&スタートシステムでのバックドアの施錠・解錠ができません。

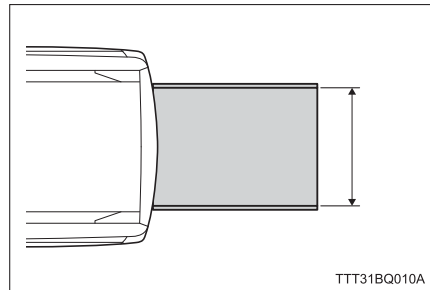
バックドアを開閉するときは、車両側のワイヤレスリモコン（→標準車取扱書の「ワイヤレスリモコン」）で全ドアを解錠してから、バックドアを開けてください。

路面について

スロープは水平で平坦な場所での使用が条件になります。
また、車両周辺・下側に突起物などがないことを確認してください。

スロープ内幅について

スロープ種類	内幅
手動スロープ★	750mm
電動スロープ★	740mm



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗降時の正しい着座姿勢

車両へ乗り降りするときは、次のように正しい姿勢で着座してください。
電動ウェルチェアを電動車いすとして使用するときは、P.41「正しい着座姿勢」を参照してください。

- ① ヘッドレストを取り付ける
(→ P.48)
- ② はね上げ式アームレストを下げ、
両腕をはね上げ式アームレスト
の内側におく
- ③ 両ひざをそろえてはね上げ式
アームレストの内側に収まるよ
うに座る
- ④ 脱着式フットレストを下げ、両
足を脱着式フットレストにのせ
る
フットレストベルトにかかるとが
ついて
いることを確認します。
- ⑤ 電動ウェルチェアをチルトダ
ウンさせる (→ P.52)



 **警告****■車両へ乗り降りするときは**

- 電動ウェルチェアに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボデーにあたり、電動ウェルチェアでの乗車が困難になりますのでご注意ください。
- 必ず電動ウェルチェア乗車の方の足が脱着式フットレストに乗っていることを確認してください。
車両床面と電動ウェルチェアとのあいだで足を挟まれるなど、けがをするおそれがあります。
- 脱着式フットレストの上で立ち上がらないでください。
脱着式フットレストが破損したり、脱着式フットレストから落ちてけがをするおそれがあります。
- 頭上や手足に注意してください。
頭や手足をドア開口部にあてるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→ P.104)
- 電動ウェルチェア乗車の方の手や足が、電動ウェルチェアの内側にあることを確認してください。
車内の部品やシートで手足や腕を挟み、けがをするおそれがあります。

操作の流れ

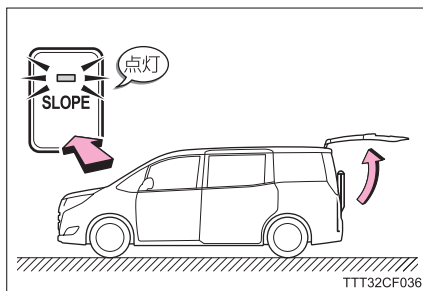
電動ウェルチェアを車内外に乗降するときは、次の手順で行います。

- すべての操作は必ず介助の方が行ってください。
- ここでは、人が座っている電動ウェルチェアを電動で車両に乗り入れるときの手順を記載しています。

電動ウェルチェアに人が座っていない場合は、「車両に電動ウェルチェアを積み込むときは」を参照してください。(→P.145)

電動ウェルチェアを車内に乗り入れ・固定するときは

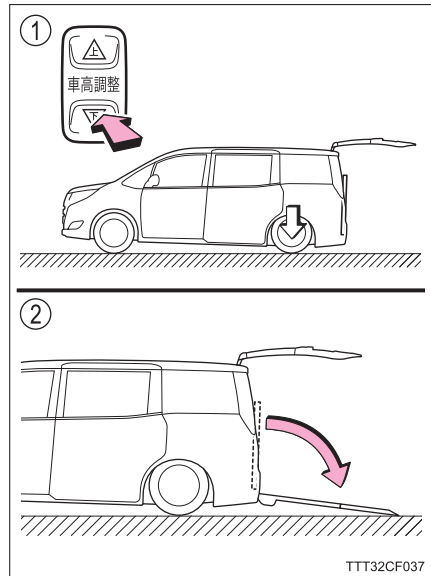
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 メインスイッチをONにし、バックドアを開ける(→P.117)



3 車高降下およびスロープを展開する

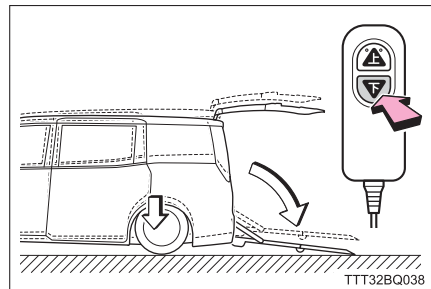
▶ 手動スロープ装着車

- ① 車高調整スイッチの「下」を押し、車高降下させる
(→ P.120)
- ② 手動スロープを展開する
(→ P.121)



▶ 電動スロープ装着車

操作スイッチの「下」を押し続け、電動スロープを展開・車高降下させる (→ P.126)

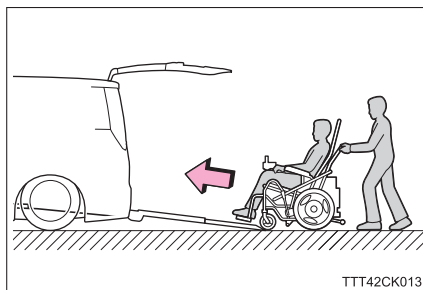


- 4 サードシートを格納する (→ P.27)
- 5 助手席シート前後位置を調整する (→標準車取扱書の「フロントシート」)
- 6 電動ウェルチェアをチルトダウンさせる (→ P.52)

- 7 電動ウェルチェアの電源を入れ、最低速度で車内に乗り入れる (→ P.105)

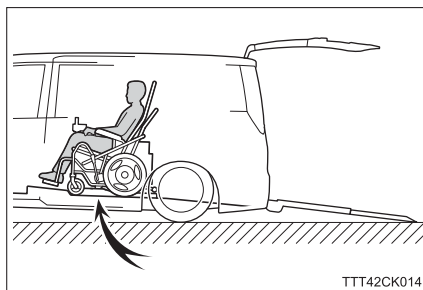
コントロールパネルを操作し、車内のガイドライン (黄) にリヤタイヤが通るように、所定の位置まで乗り入れませす。

※人が電動ウェルチェアに座っていないときは P.145 を参照してください。



- 8 電動ウェルチェアを車内に固定する (→ P.107)

ワンタッチ固定装置に、電動ウェルチェアを押し込み、ロックさせます。



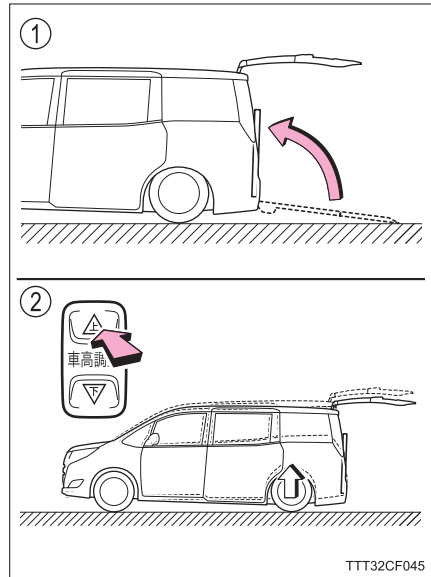
- 9 電動ウェルチェアの駐車ブレーキを左右ともかけ、電動ウェルチェアの電源を切る

9 車いす用シートベルトを着用する (→ P.140)

10 スロープを格納および車高復帰させる

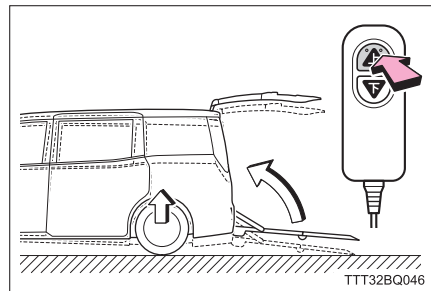
▶ 手動スロープ装着車

- ① 手動スロープを格納する (→ P.122)
- ② 車高調整スイッチの「上」を押し、車高復帰させる (→ P.122)



▶ 電動スロープ装着車

操作スイッチの「上」を押し続け、車高復帰・電動スロープを格納する (→ P.127)



11 バックドアを閉め、メインスイッチを OFF にする (→ P.117)

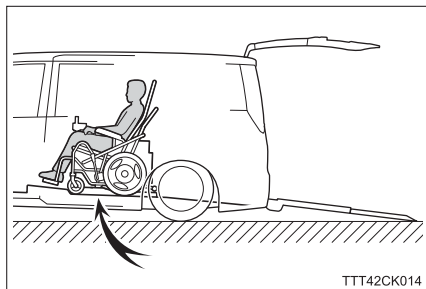
電動ウェルチェアを車外に降ろすときは

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 2 メインスイッチを ON にし、バックドアを開ける (→ P.117)
- 3 車高降下およびスロープを展開する(手動スロープ装着車→P.120 / 電動スロープ装着車→P.126)
- 4 サードシートを格納する (→ P.27)
- 5 車いす用シートベルトをはずす (→ P.142)
- 6 電動ウェルチェアの駐車ブレーキを左右とも解除し、コントロールパネルの電源を入れる

- 7 電動ウェルチェアの固定を解除する (→ P.109)

ワンタッチ固定装置の解除ペダルを足で操作して解除しながら、電動ウェルチェアを後進させます。

※人が電動ウェルチェアに座っていないときは P.145 を参照してください。



- 8 電動ウェルチェアを車外に降ろす (→ P.110)
コントロールパネルを操作し、最低速度でスロープを降ります。
- 9 スロープを格納および車高復帰させる(手動スロープ装着車→P.122 / 電動スロープ装着車→P.127)
- 10 バックドアを閉め、メインスイッチを OFF にする (→ P.117)

 知識

■ 電動ウェルチェアの車内外への乗降操作をするときは

夜間や、天候がよくない日など車内が暗い場合は、室内灯および夜間照明灯を点灯してください。(→ P.33)

 **警告**
■ ウェルキャブ 車いす仕様車（スロープタイプⅢ）の操作をするときは

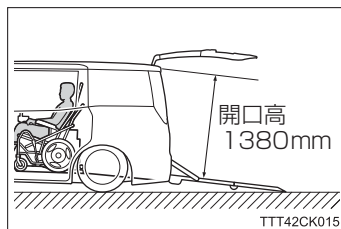
- 悪天候時、スロープを使用するときは、すべりやすくなりますのでご注意ください。
風の強い場所や風雨の強い日、また降雨時や降雪時などは特に注意してください。(→ P.16)
- スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから電動ウェルチェア乗り入れてください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。
- 手動スロープ展開後（手動スロープ装着車）、または電動スロープ・車高降下装置の作動完了後（電動スロープ装着車）、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- スロープに電動ウェルチェアを乗せたときは、不要なスイッチ類を押ししたり、シフトレバーをP以外の位置にしないでください。
装置の不意な作動により、スロープから電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 手動スロープ装着車の場合、車高調整スイッチの「上」側を押すと、スロープの角度が変わり、電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 電動スロープ装着車の場合、操作スイッチの「上」を押すと、電動スロープ・車高降下装置が作動し、電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ シフトレバーをP以外の位置にすると、車高が自動復帰するため、スロープの角度が変わり、電動ウェルチェアが転落するおそれがあり危険です。(バックドアが開いていることを知らせるブザーが鳴ります)

警告

■ 電動ウェルチェアの車内外への乗降操作をするときは

操作はすべて介助の方が行い、電動ウェルチェア乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。

- 電動ウェルチェアの通路上（スロープ上および車内）に、人やものがないことを確認してください。
- 電動ウェルチェア乗車の方の手や足が電動ウェルチェアの内側にあることを確認してください。
車内の部品やシートで手や足を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作中、介助の方は電動ウェルチェアから離れないでください。
電動ウェルチェアが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通過してください。
中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは電動ウェルチェアがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。電動ウェルチェアの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。
スロープに電動ウェルチェアを乗り入れるときや乗り入れ後に車外へ出る（もどる）とき、頭上の注意がおそれになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。



- 脱着式フットレストの高さが67mm以上あることを確認してください。
フットレストの高さが低いと、車内床面やワンタッチ固定装置に引っかかり、転倒するおそれがあります。
- 車内を移動するときは、ガイドライン（黄）のあいだに左リヤタイヤを沿わせてください。（→ P.106）
ガイドラインを大きくはずれると、車内床面の段差に乗り上げ、電動ウェルチェアごと転倒するおそれがあり危険です。

電動ウェルチェアの車内への乗車・固定

電動ウェルチェアを車内に乗り入れ・固定します。

すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

固定を解除し、車外に降りる方法は、P.109を参照してください。

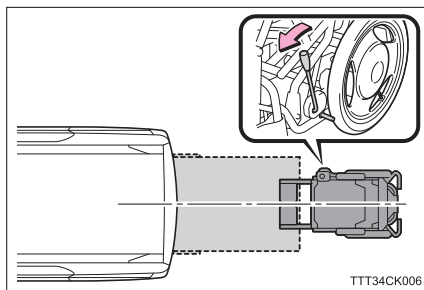
車内への乗り入れ

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・スロープが展開されていること（手動スロープ装着車→P.120 / 電動スロープ装着車→P.126）
- ・サードシートが格納されていること（→P.27）
- ・助手席シートが前方にスライドされていること
- ・助手席シートバックテーブルが格納されていること
- ・電動ウェルチェアのヘッドレストが取り付けられていること（→P.48）
- ・電動ウェルチェアがチルトダウンされていること（→P.52）
- ・電動ウェルチェア乗車の方が正しく着座していること（→P.96）
- ・転倒防止バーが展開されていること（→P.64）

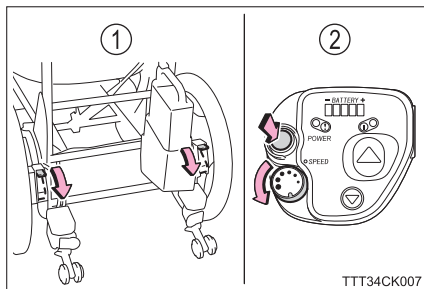
2 電動ウェルチェアをスロープの手前で停止し、駐車ブレーキを左右ともかける（→P.65）

- ・電動ウェルチェアの中央付近と、スロープの中央付近を合わせます。
- ・ジョイスティックの電源が入っていないことを確認します。



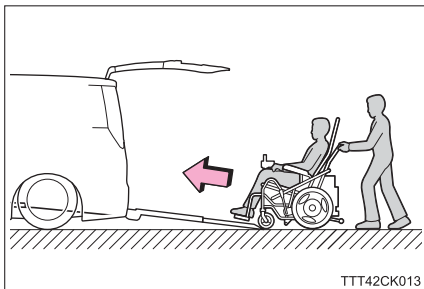
3 コントロールパネルの電源を入れ、速度設定をする

- ① 左右の電動／手押し切替クラッチレバーが「電動」になっていることを確認する
- ② コントロールパネルの電源を入れ、速度調整ダイヤルを最低速度に設定する

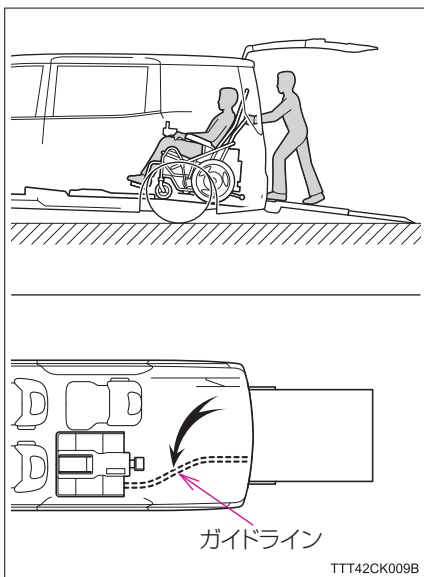


4 電動ウェルチェアを車内へ乗り入れる

駐車ブレーキを解除し、コントロールパネルの前進スイッチを押しながら、スロープを上ります。

**5** 電動ウェルチェアをワンタッチ固定装置の前まで乗り入れる

車内床面のガイドライン（黄）のあいだに左リヤタイヤを沿わせて前進します。



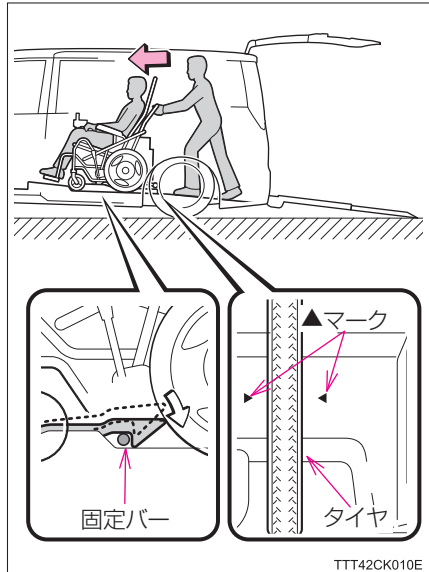
電動ウェルチェアの固定

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・ 電動ウェルチェアがワンタッチ固定装置の前まで乗り入れていること
- ・ ワンタッチ固定装置の周辺に、人やものがないこと

2 コントロールパネルの前進スイッチを押しながら電動ウェルチェアを車両前方へ押し込む

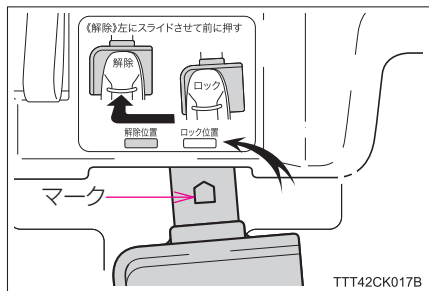
- ・ 固定バーがワンタッチ固定装置にはまりこむまで前進スイッチを押します。
- ・ 両方のフックが固定バーにかかっていることを確認します。
- ・ 左右のリヤタイヤが▲マークの位置にあることを確認します。



TTT42CK010E

3 固定バーがワンタッチ固定装置に固定されたことを確認する

- ・ 解除ペダルのマークが「ロック位置」にあることを確認します。
- ・ 電動ウェルチェアを前後にゆすり、ガタつきがないことを確認します。



TTT42CK017B

4 左右の駐車ブレーキをかけ、コントロールパネルの電源を切る

以上で電動ウェルチェアの固定は完了です。次に車いす用シートベルトを着用します。(→ P.139)

 知識

■ 電動ウェルチェアの固定を確認するときは

夜間や、天候がよくない日など車内が暗い場合は、室内灯および夜間照明灯を点灯してください。(→ P.33)

 警告

■ 電動ウェルチェアの車内外への乗降操作をするときは

→ P.104

■ 電動ウェルチェアを車内へ乗り入れ・固定するときは

- 電動／手押切替クラッチレバーを「手押」に切りかえないでください。
電動ウェルチェアと電動ウェルチェア乗車の方の重みで、電動ウェルチェアが予期せぬ動きをし、事故の原因になります。
- 電動ウェルチェアをいきおいよく押し込まないでください。
電動ウェルチェア乗車の方がシートや車内の部品にあたり、けがをするおそれがあります。
- ワンタッチ固定装置のフックが片側だけロックした場合は、いったん解除し、うしろに下がってから、再度固定し直してください。(→ P.109)

■ 電動ウェルチェアを固定したあとは

- ワンタッチ固定装置のロックを解除しないでください。
電動ウェルチェアが固定されず、走行中に電動ウェルチェアが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 電動ウェルチェアを前後にゆすり、ガタつきがないことを確認してください。
ガタつきがある場合は、いったん解除してから、再度固定し直してください。

 注意

■ ワンタッチ固定装置に電動ウェルチェアを固定するときは

- コントロールパネルの前進スイッチを押し続けしないでください。
固定完了後も前進スイッチを押し続けると、ワンタッチ固定装置や電動ウェルチェアの故障の原因になります。
- ワンタッチ固定装置に、電動ウェルチェアをいきおいよくぶつけたりしないでください。
ワンタッチ固定装置や電動ウェルチェアの故障の原因になります。

電動ウェルチェアの固定解除・車外への降車

電動ウェルチェアの固定を解除し、車外に降車します。

すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

電動ウェルチェアの固定解除

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・ スロープが展開されていること（手動スロープ装着車→P.120 / 電動スロープ装着車→P.126）
- ・ サードシートが格納されていること（→P.27）
- ・ 電動ウェルチェア乗車の方が正しく着座していること（→P.96）
- ・ 車いす用シートベルトがはずしてあること（→P.142）
- ・ リルータがシートベルトからはずしてあること（→P.58）
- ・ 転倒防止バーが展開されていること（→P.64）
- ・ ワンタッチ固定装置の周辺に、人やものがないこと
- ・ 左右の電動/手押し切替クラッチレバーが「電動」になっていること（→P.66）

2 コントロールパネルの電源を入れ、電動ウェルチェアの駐車ブレーキを左右とも解除する

最低速度に設定されていることを確認します。

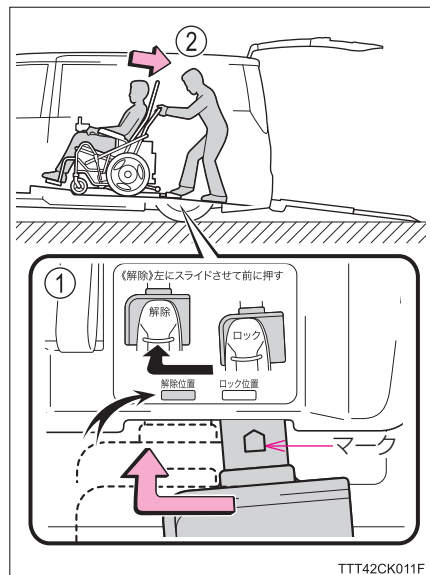
3 ワンタッチ固定装置のロックを解除する

① 解除ペダルを足で矢印のように動かす

- ・ 解除ペダルのマークが「解除位置」にくるまでスライドし、奥に突き当たるまで車両前方に押し込みます。
- ・ ワンタッチ固定装置のフックが上にあがります。

② 解除ペダルを車両前方に押し込んだまま、コントロールパネルの後進スイッチを押す

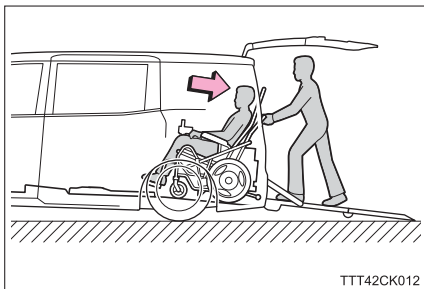
固定バーがフックからはずれたことを確認し、足を解除ペダルから離します。



4 コントロールパネルの後進スイッチを押しながら電動ウェルチェアを車外に降ろす（→P.110）

車外へ降車

- 1 操作前に、電動ウェルチェアの固定が解除されていることを確認する
- 2 電動ウェルチェアを車外に降ろす
 - ① コントロールパネルの後進スイッチを押しながら、電動ウェルチェアを動かす
介助用ハンドルをしっかり持ち、うしろに注意しながら操作してください。
 - ② 電動ウェルチェアをスロープ外まで降ろしたら、スイッチから指を離す



 知識

■ワンタッチ固定装置の解除ペダル操作が重いときは
▶ 横スライドが重い場合

電動ウェルチェアを固定した状態で、電動ウェルチェアに乗車の方が降車し荷重が変わった場合など、解除ペダルの横スライド操作が重くなる場合があります。

その場合は、以下の対処をしてください。

- ・再度電動ウェルチェアに座る
- ・エマージェンシーベルトを使用する

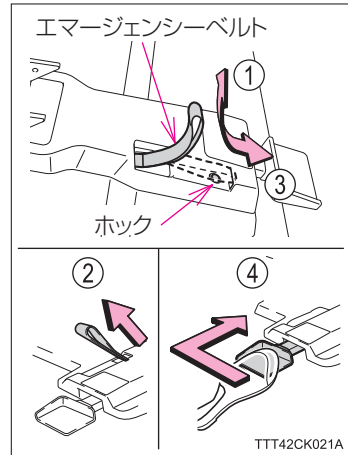
①ワンタッチ固定装置左側のエマージェンシーベルトを取り出す

ベルトの先端を引っ張り出し、ホックをはずします。

②エマージェンシーベルトを引く

- ・車両後方にまっすぐ引きます。
- ・ベルトの黒い縫い目が見えるまで、しっかりと引きます。

③エマージェンシーベルトをもとにもどす
 ホックをとめ、ベルトの先端を格納します。

④足を解除ペダルに乗せ、解除操作をする
 (→ P.109)

▶ 前スライドが重い場合

上り坂で停車した場合など、解除ペダルの車両前方へのスライド操作が重い場合は、電動ウェルチェアを車両前方に電動操作しながら解除操作してください。

解除操作が完了したら、前進スイッチから手を離してください。

 **警告****■ ワンタッチ固定装置のロックを解除するときは**

- コントロールパネルの後進スイッチを押しながら解除操作をしないでください。
フックが上がると同時に電動ウェルチェアが後方に飛び出し、介助の方が転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 解除ペダルに足を乗せたまま、電動ウェルチェアをうしろに動かしすぎないでください。
電動ウェルチェアに足を轆かれるなど、けがをするおそれがあり危険です。
- ワンタッチ固定装置の可動部に手や足を近づけないでください。
手や足を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトがリルータからはずれていることを確認してください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 電動ウェルチェアの車内外への乗降操作をするときは

→ P.104

■ 電動ウェルチェアを車外へ降ろすときは

電動／手押切替クラッチレバーを「手押」に切りかえないでください。
電動ウェルチェアのブレーキが解除されたとたん、電動ウェルチェアが動き出し、スロープからすべり落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エマージェンシーベルトについて

エマージェンシーベルトを使用したあとは、もとにもどしてください。
ワンタッチ固定装置の樹脂ボードが損傷するおそれや、ベルトを踏んで滑ったりつまずいたりするなど、思わぬ事故の原因になります。

 **注意****■ 故障・損傷を防ぐために**

- シートベルトを脱着するときは、手やシートベルトがジョイスティックのスイッチにあたらないよう、注意してください。
ジョイスティックの故障の原因になります。
- エマージェンシーベルトは車両後方にまっすぐ引いてください。
ベルトがかみ込み、もどらなくなるおそれがあります。
もどらなくなった場合は、トヨタ販売店までご連絡ください。

作動条件の確認

作動条件について

車高降下装置、電動スロープ★は、次の作動条件をすべて満たす場合に作動します。

- 作動条件をすべて満たさない状態でスイッチを押すと、“ピー”とブザーが鳴ります。(→ P.115)
- 作動途中で作動条件を満たさなくなると、“ピー”とブザーが鳴り、装置の作動が停止します。(→ P.115)
- 複数の装置のスイッチを同時に操作すると、“ピー”とブザーが鳴り、装置の作動が停止します。(→ P.115)

装置	作動条件
車高降下装置 電動スロープ★	エンジン「かかっている」
	シフトレバー「Pの位置」
	メインスイッチ「ON」
	バックドア「開」 (車高降下時／電動スロープ★展開時のみ)

 知識

■ ブザーについて

動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

▶ 全車

ブザー	動作・状況
ピー (2 秒間)	車両のバッテリー再接続時

▶ 手動スロープ装着車

ブザー	動作・状況
ピーッ…ピーッ…※	車高降下装置が作動しているとき

※： 傾斜地や車両の前輪を輪止めに強くあてた状態でブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけている場合、まれに警告ブザー“ピー (2 秒間)” が鳴ることがあります。

▶ 電動スロープ装着車

ブザー	動作・状況
ピーッ (0.3 秒間)	操作スイッチを押して電動スロープが作動するとき
ピーッ…ピーッ…	車高降下中
	電動スロープ格納中
ピピッ	電動スロープの展開および車高降下が完了したとき
	電動スロープが格納完了したとき

 知識

■ 警告時のブザーについて

動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

▶ 全車

ブザー		動作・状況
警告時	ピー...	バックドアを開けた状態で、シフトレバーをP以外の位置に動かしたとき
	ピー...※1	作動条件をすべて満たさない状態で各装置のスイッチを操作したとき 複数の装置のスイッチを同時に操作したとき（作動停止）
	ピー（2秒間）	各装置の作動中、作動条件を1つでも満たさなくなったとき（各装置の作動停止） 車高降下装置の保護により、車高降下装置の作動が停止したとき※2,3
	ピー（5秒間）	車高降下装置が作動を開始してから95秒以上経過しても、作動完了しないとき※4

※1：スイッチを押しているあいだ、鳴り続けます。

※2：エンジンスイッチ“ON”★またはイグニッションONモード★の状態では10分以上待機してから、車高調整スイッチ★または操作スイッチ★を押します。（手動スロープ装着車→P.120／電動スロープ装着車→P.126）

※3：傾斜地や車両の前輪を輪止めに強くあてた状態でブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけている場合も、まれに鳴ることがありますが、異常ではありません。

※4：ブレーキペダルを踏んで作動を中断させた場合、中断させている時間も作動時間を含みます。

 知識

▶ 電動スロープ装着車

ブザー		動作・状況
警告時	ピー…	電動スロープ作動途中で操作スイッチから指を離れたとき※5
		電動スロープ格納中、車高降下装置の保護により車高復帰が同時に作動しないとき※6,7

※5：操作スイッチを押すまで鳴り続けます。

※6：エンジンスイッチ“ON”★またはイグニッションONモード★の状態でも10分以上待機してから操作スイッチを押します。（→P.128）

※7：傾斜地や車両の前輪を輪止めに強くあてた状態でブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけている場合も、まれに鳴ることがありますが、異常ではありません。

■ バックドアについて

バックドアが完全に閉まっていないときにシフトレバーをP以外の位置に動かすとブザーが鳴ります（→P.115）。ブザーが鳴ったときはバックドアとボデーのあいだに異物がかみ込んでいないことを確認し、バックドアを確実に閉めてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

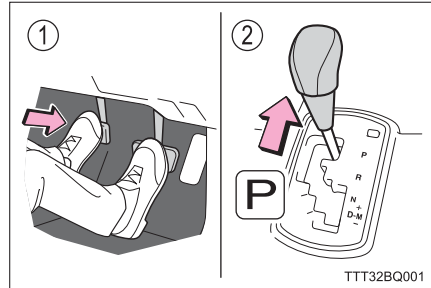
メインスイッチ

メインスイッチ ON のしかた

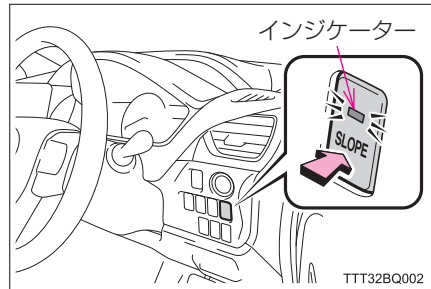
電動ウェルチェアの乗降・固定に関係するすべての操作をする前に、メインスイッチを押し、インジケーターを点灯させます。

- 1 車両を安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま、駐車する

- ① パーキングブレーキをかける
- ② シフトレバーをPの位置にする



- 2 メインスイッチを押す
インジケーターが点灯します。

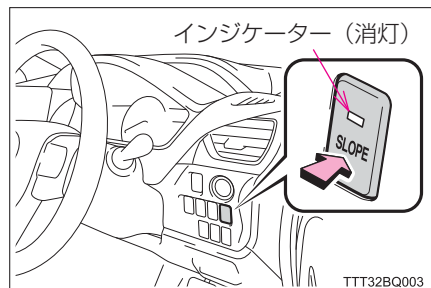


- 3 車両周辺・下側および後輪付近に人や突起物がないことを確認する

- 4 バックドアを全開にする

メインスイッチ OFF のしかた

メインスイッチを押す
インジケーターが消灯します。



 **警告****■車両を駐車するときは**

- 安全で平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にしてください。(→P.15)
交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。
- エンジンをかけた状態で使用してください。
 - ・エンジン停止状態ではバッテリーあがりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあります。
 - ・エンジン停止状態では車高降下装置は作動しません。
- 乗降するときはヘッドランプを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。
- 階段や段差を利用して電動ウェルチェアの乗り入れをしないでください。(→P.15)
段差を利用すると電動ウェルチェアがスロープから転落したり、スロープが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 可燃物付近に駐車しないでください。(→P.16)
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。
スロープ使用時、車高降下により排気管の位置が大きく下がりますので、特に注意してください。

■スロープを使用しないときは

必ずメインスイッチをOFFにしてください。

メインスイッチをONにしていると、誤って次の操作をした場合、装置の不意な作動により、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

- 車高調整スイッチが押された場合、車高降下装置が作動します。(手動スロープ装着車)
- 操作スイッチが押された場合、電動スロープおよび車高降下装置が作動します。(電動スロープ装着車)

 **注意****■ 破損を防ぐために**

バックドアを閉めるときは、スロープが確実に格納されていることを確認してください。

バックドアおよびスロープが破損するおそれがあります。

車高調整およびスロープの展開・格納

車高降下装置はエアサスペンションにより車両後部の車高を低下させ、電動ウェルチェアの車内外への乗り降りを容易にします。

装着されているスロープの種類により、操作方法が異なります。
お乗りのお車に該当する項目を参照してください。

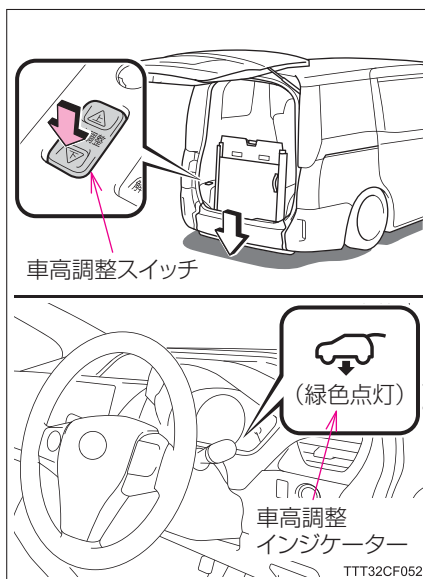
操作前の確認事項

- 車高降下装置および電動スロープ（電動スロープ装着車）の作動条件を確認してください。（→ P.113）
- パーキングブレーキを確実にかけ、ブレーキペダルを踏まずに操作してください。
ブレーキペダルを踏んだまま操作すると、車高降下・復帰完了しません。

車高降下および手動スロープの展開のしかた（手動スロープ装着車）

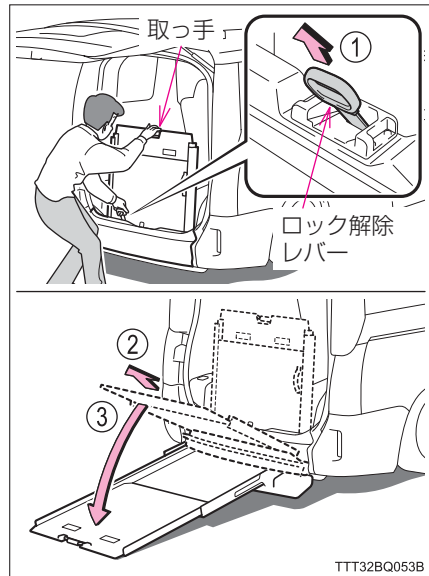
- 1 車高調整スイッチの「下」を押し、車高降下させる

- ・ 車高降下が始まり“ピーッ…ピーッ…”とブザーが鳴り始めたら、スイッチから指を離します。（メーター内の車高調整インジケーター緑色点灯）
- ・ 車高が下がりきると自動的に停止し、ブザーが鳴りやみます。



2 手動スロープを展開する

- ① 手動スロープ先端の取っ手を片方の手で持ち、もう片方の手でロック解除レバーを引き、スロープのロックを解除する
- ② 手動スロープ先端の取っ手をしっかり持って、手動スロープを車外へゆっくり引き出す
- ③ 手動スロープをできるだけいっぱいまで引き出したら、静かに接地させる

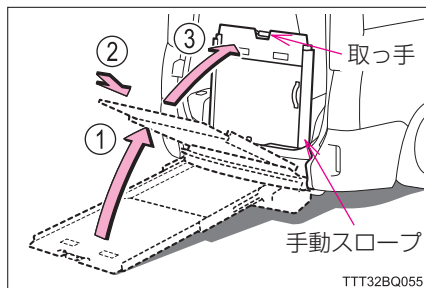
**車高降下を途中でやめるときは**

不測の事態により、車高降下を途中でやめたいときは、作動途中で車高調整スイッチの「上」「下」どちらかを押し、車高降下が停止します。再度車高調整スイッチの「上」「下」どちらかを押し、押した方向に車高が変化します。

手動スロープの格納および車高復帰のしかた（手動スロープ装着車）

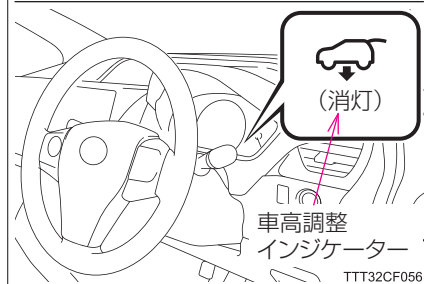
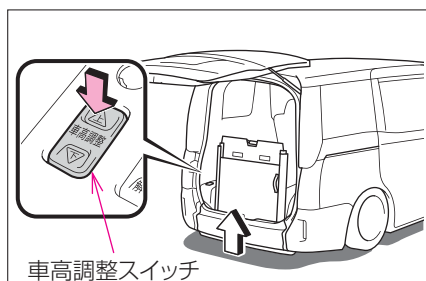
1 手動スロープを格納する

- ① 手動スロープ先端の取っ手をしっかり持って、手動スロープを少し持ち上げる
- ② 手動スロープをいっぱいまで静かに押し込む
- ③ 手動スロープをゆっくり立てて、静かに格納する
 - ・ いっぱいまで格納すると“カチ・カチ”と音がしてロックされます。
 - ・ 手動スロープ先端の取っ手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認します。



2 車高調整スイッチの「上」を押し、車高復帰させる

- ・ 車高復帰が始まり“ピーッ…ピーッ…”とブザーが鳴り始めたら、スイッチから指を離します。
- ・ 車高がもどりきると自動的に停止し、ブザーが鳴りやみます。（メーター内の車高調整インジケーター消灯）



手動スロープ前倒れ機構（手動スロープ装着車）

手動スロープを使用しないときは、手動スロープを前倒れにすることができます。

手動スロープ前倒れ後、サードシートを着座状態にすることもできます。

■手動スロープの前倒れ・もどす操作をする前に

1 車両を安全で平坦な場所に駐車し、エンジンを停止する

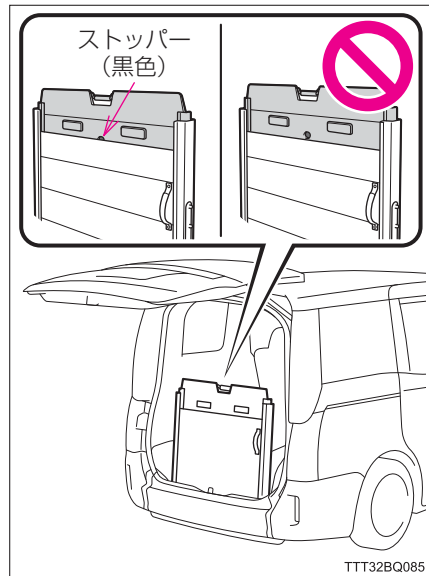
2 サードシートを格納する（→ P.27）

手動スロープ前倒れ後にサードシートを着座状態にもどすときは、床面ロックは起こしたままにしておきます。

3 手動スロープを格納する
（→ P.122）

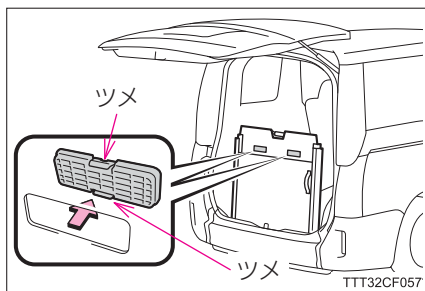
格納後、次のことを確認します。

- ・ 手動スロープ先端の取っ手を持って前後左右にゆすり、起立位置で確実にロックしていること
- ・ 手動スロープがいっぱいまで押し込まれ、ストッパー（黒色）が半分くらい隠れた状態になっていること



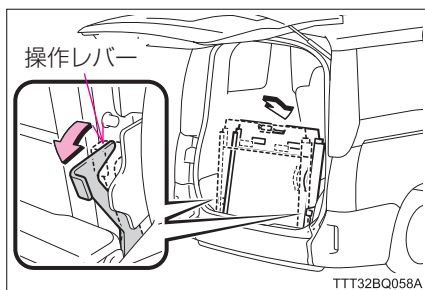
■ 手動スロープの前倒れのしかた

- 1 手動スロープ左右のカバー（黒色）のツメを押したまま、カバーを車両前方に引き抜く（床面ロック起立時のみ）



- 2 手動スロープ左右の操作レバーを同時に引き、ロックを解除する

手動スロープが車両前方に傾きます。



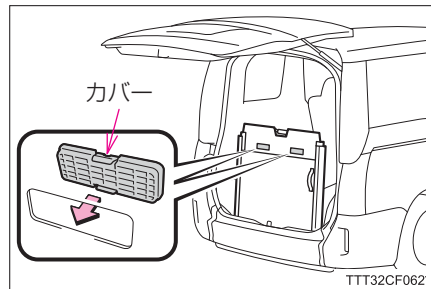
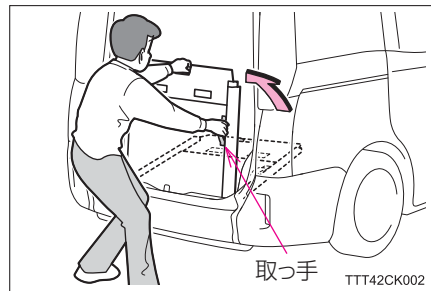
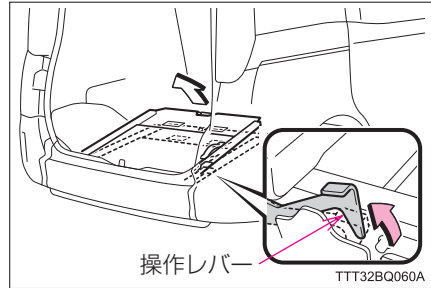
- 3 手動スロープ中央付近を押し、前方に倒す

“カチッ”と音がするまで倒し、確実にロックさせます。



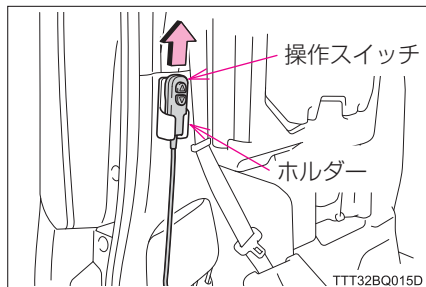
■ 手動スロープの起こし方

- 1 左手で手動スロープ中央付近を押さえながら、右手で手動スロープ右側の操作レバーを引き、ロックを解除する
 - ・ 左側の操作レバーは操作しないでください。
 - ・ ロック解除後、手動スロープから左手を離すと手動スロープが起き上がりますので、顔や身体を手動スロープに近付けないでください。
- 2 手動スロープ先端の取っ手と、右側の取っ手を持ち、手前に起こす
 - ・ “カチッ” と音がするまで起こし、確実にロックさせます。
 - ・ 取っ手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認します。
- 3 手動スロープ左右のカバー（黒色）を車両前方からはめる



電動スロープの展開および車高降下のしかた（電動スロープ装着車）

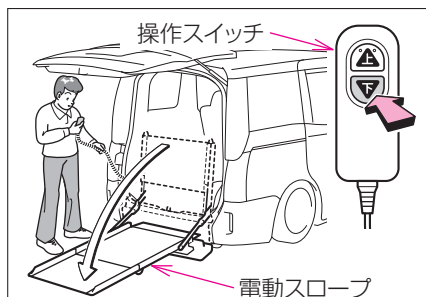
- 1 操作スイッチをホルダーから取り出す



- 2 電動スロープ作動範囲周辺の安全を確認後、操作スイッチの「下」を押し続け、電動スロープを展開および車高降下させる

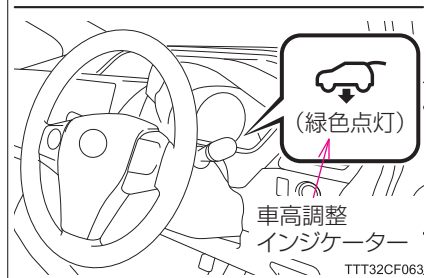
- ① “ピーッ” とブザーが鳴り、電動スロープの展開・車高降下が同時に開始します。

- ・ 車高が下がり始めると、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点灯します。
- ・ 車高降下が完了するまで“ピーッ…ピーッ…” とブザーが鳴り続けます。



- ② 電動スロープが完全に展開したら、操作スイッチから指を離します。

- ・ 操作スイッチから指を離しても車高降下は継続し、車高降下が完了すると“ピピッ”とブザーが鳴ります。
- ・ 電動スロープが完全に展開する前にスイッチから指を離すと、電動スロープの展開・車高降下を停止し、“ピー…”とブザーが鳴り続けます。(→ P.116)



- 3 操作後、操作スイッチをホルダーにもどす

■ 電動スロープ展開完了後の車高降下を途中でやめるときは

不測の事態により、車高降下を途中でやめたいときは、作動途中で操作スイッチの「上」「下」どちらかを押すと、車高降下が停止します。再度操作スイッチの「上」「下」どちらかを押すと、押した方向に作動します。

■ 車高復帰および電動スロープの格納のしかた（電動スロープ装着車）

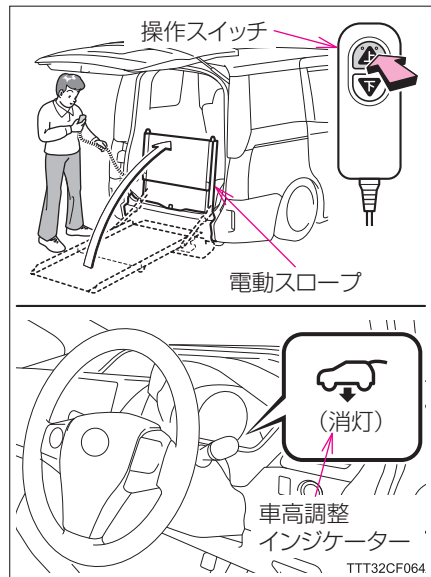
- 1 操作スイッチをホルダーから取り出す（→ P.126）
- 2 電動スロープ作動範囲周辺の安全を確認後、操作スイッチの「上」を押し続け、車高復帰および電動スロープを格納する

- ① “ピーッ” とブザーが鳴り、電動スロープの格納・車高復帰が同時に開始します。

電動スロープが格納完了するまで“ピーッ…ピーッ…”とブザーが鳴り続けます。

- ② 電動スロープが完全に格納し“ピピッ”とブザーが鳴ったら、操作スイッチから指を離します。

- ・ 操作スイッチから指を離しても車高復帰が継続します。
- ・ “ピピッ”とブザーが鳴る前にスイッチから指を離すと、“ピー…”とブザーが鳴り続けます。（→ P.116）
- ・ 車高がもどりきると自動的に停止します。（メーター内の車高調整インジケーター消灯）



- 3 操作後、操作スイッチをホルダーにもどす

■ 電動スロープ格納完了後の車高復帰を途中でやめるときは

作動途中で操作スイッチの「下」を押すと、車高復帰が停止します。再度操作スイッチの「上」「下」どちらかを押すと、押した方向に作動します。

 知識**■ 車高復帰忘れ防止機能について**

万一、車高復帰を忘れた場合、シフトレバーをP以外の位置に操作すると、車高が自動復帰します。

■ 車高降下装置について

- ブレーキペダルを踏んだまま車高調整スイッチ★または操作スイッチ★を押すと、車高降下時は10秒間作動後・車高復帰時は15秒間作動後に作動を中断します。(電動スロープ装着車の場合、操作スイッチを押し続ければ、電動スロープの作動は継続します)
- 車高復帰中にブレーキペダルを踏むと、車高復帰を中断します。ブレーキペダルを踏んでいる時間が95秒未満であれば、ブレーキペダルから足を離すと、車高復帰を再開します。
- 車高降下装置の作動を95秒以上中断させると“ピー”とブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキペダルから足を離し、車高調整スイッチ★または操作スイッチ★の「上」を押すと、車高復帰を再開します。
- 傾斜地や車両の前輪を輪止めに強くあてた状態でブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけた場合、通常の“ピーッ…ピーッ…”ではなく、まれに“ピー(2秒間)”というブザーが鳴ることがありますが、異常ではありません。
- 車高降下・復帰操作を短時間にくり返し(目安として4分間に3回以上)行うと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止(保護)のため、しばらく作動しなくなることがあります。
 - ・ エンジンスイッチ“ON”★またはイグニッションONモード★の状態でも10分以上待機してから車高調整スイッチ★または操作スイッチ★を押すと、再度車高降下装置が作動します。
 - ・ 再度車高降下装置が作動しなくなった場合は、エンジンスイッチ“ON”★またはイグニッションONモード★の状態でも70分以上待機してから車高調整スイッチ★または操作スイッチ★を押すと、再度車高降下装置が作動します。
- 氷・雪または石などがボデーに接触していると、車高降下を行っても車高降下速度が遅くなったり、車高降下が完了しないことがあります。この場合、エンジンを停止してから障害物を取り除いてください。
- エンジンを停止すると、気温の変化により多少車高がかわることがあります。その場合、エンジンを始動するとともにもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 車高降下装置の作動音について

次のようなときに、エアサスペンションが作動し、車両左側後方からコンプレッサまたはバルブの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- スイッチ操作による車高調整時
車高調整スイッチ★または操作スイッチ★により、車高をかえたとき
- オートレベリング機能※による車高調整時
 - ・ 乗員や荷物など積載条件の変化により車高が変わり、車高調整が作動したとき
 - ・ エアサスペンションの温度変化により車高が変わり、車高調整が作動したとき
 - ・ 縁石に乗ったり降りたりして、車高調整が作動したとき
 車高が変化しても、一定時間経過しないと車高降下装置は作動しません。
(作動までの時間は条件によって異なります)

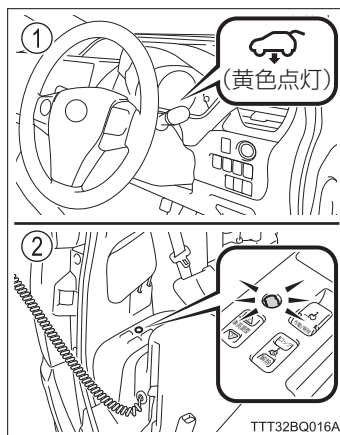
※：乗員の数や荷物などの積載条件が変わっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

■ 車高降下装置のシステムに異常が発生したときは

車高降下・復帰を中断し、次のように異常が発生したことをお知らせします。

- ① メーター内の車高調整インジケーター：
黄色点灯
- ② 左リヤデッキサイド部の車高降下装置
異常ランプ：黄色点灯

上記の場合は、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。



 知識**■ 車高調整インジケーターおよび車高降下装置異常ランプについて**

作動確認のためにエンジンスイッチを“ON” ★またはイグニッション ON モード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

■ 手動スロープについて（手動スロープ装着車）

手動スロープ引き出し部のレールをときどき点検し、石などの異物がつまっていないことを確認してください。異物がつまると、手動スロープの引き出し・格納ができなくなります。手動スロープの引き出し・格納がしづらくなったときは、手動スロープの清掃をしてください。（→ P.152）

■ 手動スロープが起立状態以外でロック解除レバーを操作したときは（手動スロープ装着車）

手動スロープ前倒れまたは前倒れ途中および起こす途中でロック解除レバーを引いてしまった場合、手動スロープの展開方向のロックが半がかり状態になります。次の操作をし、手動スロープをロックさせてください。

- ① バンパー部分を前後左右にゆすり、手動スロープの展開方向のロックが半がかり状態であることを確認する
- ② 手動スロープ先端の取っ手と、右側の取っ手を持って手前に起こし、ロックさせる（→ P.125）
- ③ 手動スロープ先端の取っ手を持ち、通常の展開・格納操作をする（→ P.120, 122）

■ ヘッドランプ光軸切りかえ機能（LED ヘッドランプ装着車）

ヘッドランプ点灯時、通行人や対向車がまぶしくないように、車高降下中、ヘッドランプの光軸を自動で切りかえます。

 **警告****■エアサスペンションについて**

次の状況ではエンジンを停止してください。
エンジンがかかった状態だと、オートレベリング機能※により車高が変わり、
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- タイヤチェーンを装着するとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

※：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、
自動で車高を制御する機能

 **警告****■ 車高調整およびスロープを使用するときは**

- 車両周辺・バックドア下側に人がいないこと、車両下側や後輪付近に突起物などが無いことを十分確認してください。
車高降下時、車両後端が大きく下がるため、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車両を損傷するおそれもあります。
バックドアも車高に合わせて動くため、バックドア端部などで顔や頭を打たないように注意してください。
- 操作前にパーキングブレーキを確実にかけ、車高降下装置作動中はブレーキペダルを踏まないでください。
ブレーキペダルから足を離したとき、車高が急にかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車高降下中、シフトレバーをP以外の位置にしないでください。
P以外の位置にすると車高が自動復帰し、転倒するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
バックドアが開いていることを知らせるため、“ピー”とブザーが鳴ります。
(→ P.115)
- 手動スロープ展開後（手動スロープ装着車）、または電動スロープ・車高降下装置の作動完了後（電動スロープ装着車）、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にもものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- スロープを展開したまま車を移動させないでください。
そのまま移動するとスロープが損傷したり、スロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ 車高調整および手動スロープを使用するときは（手動スロープ装着車）**

- 必ず車高を下げて手動スロープを使用してください。
車高を下げずに人が乗ったりすると、手動スロープが損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 手動スロープのロックを解除するときは、必ず片方の手で手動スロープ先端の取っ手を持ってください。
手動スロープ先端の取っ手を持たずに手動スロープのロックを解除すると、手動スロープが不意に倒れ、けがをするおそれがあります。
- 手動スロープの引き出し・格納をするときは、必ず手動スロープ先端の取っ手を持って操作してください。
手動スロープ先端の取っ手以外の場所を持って操作すると、格納部やレール部で手を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- 手動スロープの引き出し・格納途中で絶対に手動スロープ先端の取っ手から手を離さないでください。
手動スロープが落下し、足にあたってけがをしたり、手動スロープが損傷するおそれがあります。
- 手動スロープの引き出し・格納をするときは、足元に注意しながら行ってください。
手動スロープと地面のあいだで足を挟んだり、足が手動スロープにあたってけがをするおそれがあります。また、つまずいて転倒するおそれがあります。
- 手動スロープを引き出すときは、できるだけいっぱいまで引き出してください。
いっぱいまで引き出さずに使用すると、手動スロープが急角度になって乗降が困難になったり、路面によっては乗降時スライド部分が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 手動スロープに電動ウェルチェアを載せたときは、車高調整スイッチを押さないでください。
手動スロープの角度が変わり、手動スロープから電動ウェルチェアが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあります。

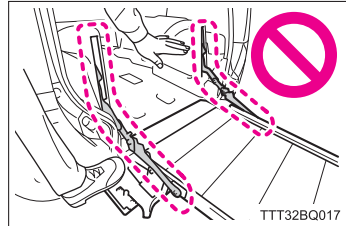
 **警告****■ 手動スロープの前倒れ・起こす操作をするときは（手動スロープ装着車）**

- 手動スロープを前倒れにするときは、手動スロープを倒す方向に人がいないことを確認してください。
手動スロープ前倒れ時、手動スロープが人にあたり、けがをするおそれがあります。
- 手動スロープを前倒れにするときは、手動スロープ中央付近を押してください。
手動スロープ両端のレール部などを持つと、手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- 手動スロープ前倒れ状態で右側の操作レバーを操作するときは、手動スロープに顔や身体を近付けないでください。
操作レバーを操作してロックが解除されると手動スロープが起き上がり、顔や身体にあたり、けがをするおそれがあります。
- 手動スロープを起こすときは、必ず手動スロープ先端の取っ手と、右側の取っ手を持って操作してください。
取っ手以外の場所を持って操作すると、ロック部や可動部で手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- 手動スロープの左右のカバー（黒色）を取りはずしたときは、手動スロープを使用する前に、必ずカバーを取り付けてください。
カバーを取りはずしたまま手動スロープを使用すると、車内外への乗降時、つまりいてけがをするおそれがあります。

警告

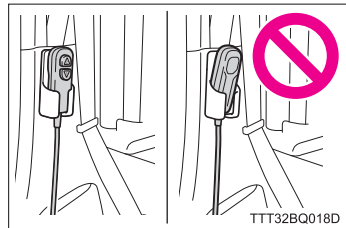
■ 車高調整および電動スロープを使用するときは（電動スロープ装着車）

- 電動スロープの作動範囲内に人がいないことを確認し、作動範囲内で操作しないでください。
 - ・ 作動範囲内にいると電動スロープが手足にあたり、手足を巻き込まれるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 電動スロープは車両から少し離れた斜め後方で操作してください。電動スロープが手足にあたるなど、けがをするおそれがあり危険です。
- 電動スロープ展開・格納時、電動スロープおよび支持プレート付近にふれないでください。
手足を電動スロープに巻き込まれるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ 操作スイッチを収納するときは（電動スロープ装着車）

操作スイッチを使用しないときは、ホルダーに正しい方向で収納してください。ホルダー以外の場所に収納したり正しい方向で収納しないと、車高が変化したり、電動スロープが思わぬ動きをして重大な事故につながるおそれがあり危険です。



 **注意****■故障・損傷・破損を防ぐために**

- 砂利道など凹凸面のある路面では車高降下時、スロープの変形およびバンパー表面を傷付けるおそれがありますのでご注意ください。
- ドアを開けた状態で車高降下させるときは、ドア下部にドアと接触するおそれがあるようなものがないことを確認してください。
- 長期間にわたって駐車する場合、車高が自然に低下することがあります。（エンジンを始動すると、もとにもどります）
長期間にわたって車両を駐車するときは、車高が下がった場合に、ボデーと接触するおそれのあるようなものがないことを確認してください。

- 高圧洗浄機を使用するときは、エアサスペンション部およびコンプレッサ部に直接水が当たらないようにしてください。
水圧が高いため、直接水が当たるとエアサスペンション部の部品が破損するおそれがあります。



- スロープ格納時、サードシートの背もたれが後方に倒れていないことを確認してください。
サードシートの背もたれが損傷するおそれがあります。

 注意

■故障・破損・損傷を防ぐために（手動スロープ装着車）

- 車高を下げる前に、手動スロープが格納されていることを確認してください。手動スロープが傷付くおそれがあります。
- 手動スロープを格納したときは、取っ手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認してください。確実にロックしていないと、走行中異音が発生したり、バックドアにあたり損傷するおそれがあります。
- 手動スロープを前倒れにする前に、手動スロープがいっぱいまで押し込まれていることを確認してください。（→ P.123）
いっぱいまで押し込まれていない状態で手動スロープを前倒れにすると、床面ロックにあたり、損傷するおそれがあります。
- 手動スロープを前倒れにする前に、サードシートが格納されていること、および倒す方向にものが置かれていないことを確認してください。
そのまま手動スロープを前倒れにすると、手動スロープがサードシートやものにあたり、損傷するおそれがあります。
- 手動スロープを前倒れにする前に、床面ロックが格納またはいちばん起きた位置で確実にロックしていることを確認してください。
床面ロックが格納またはいちばん起きた位置かつロックされていない状態で手動スロープを前倒れにすると、手動スロープが床面ロックにあたり、手動スロープおよび床面ロックが傷付き・変形するおそれがあります。
- 床面ロックが起きた状態で手動スロープを前倒れにするときは、必ず左右のカバー（黒色）を取りはずしてください。
カバーが取り付けられたまま手動スロープを前倒れにすると、カバーと床面ロックがあたり、カバーおよび床面ロックが傷付き・破損するおそれがあります。また、手動スロープが完全に前倒れにできず、ロックがかかりません。
- 手動スロープを展開した状態で、操作レバーを操作しないでください。
スロープの変形や、地面との接触によるバンパー傷付きの原因になります。

 注意

■ 故障・損傷を防ぐために（電動スロープ装着車）

- 電動スロープを手動で開閉しないでください。
電動スロープの故障の原因になります。
- 電動スロープの上および周辺に、何も無い状態で操作してください。
電動スロープの故障の原因になります。
- 操作スイッチはコードを持って引っ張ったり、からませないでください。
コードが断線するおそれがあります。
- 操作スイッチの切り替え操作をするときは、1 秒以上たってから行ってください。
瞬時に「上」「下」の切り替えを行うと車高降下装置・電動スロープが故障するおそれがあります。
- 操作スイッチを断続的に押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- 操作スイッチは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 分解しない
 - ・ 落としたり、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲料水などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
(防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください)
- 操作スイッチの清掃にシンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。
- 操作スイッチを使用しないときは、ホルダーに正しい方向で収納してください。
使用時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。
- バックドアを閉めるときは、操作スイッチやコードをバックドアに挟み込まないように注意してください。
操作スイッチが破損したり、コードが断線するおそれがあります。

車いす用シートベルト

3点式のシートベルトです。

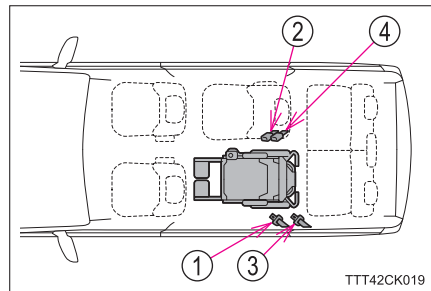
身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前へ倒れそうなきときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

シートベルトは正しく着用しないと十分な効果を発揮せず、危険な場合があります。次の方法に従って走行前に必ず着用してください。

シートベルトの着用は介助の方が行ってください。

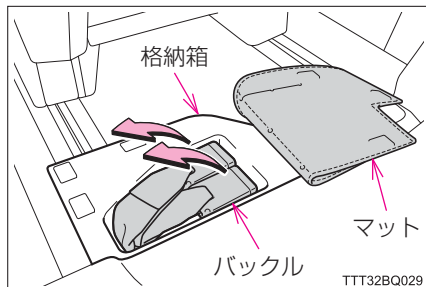
シートベルトの構成

- ① 腰部ベルト用プレート
- ② 腰部ベルト用バックル
- ③ 肩部ベルト用プレート
- ④ 肩部ベルト用バックル



着用のしかた

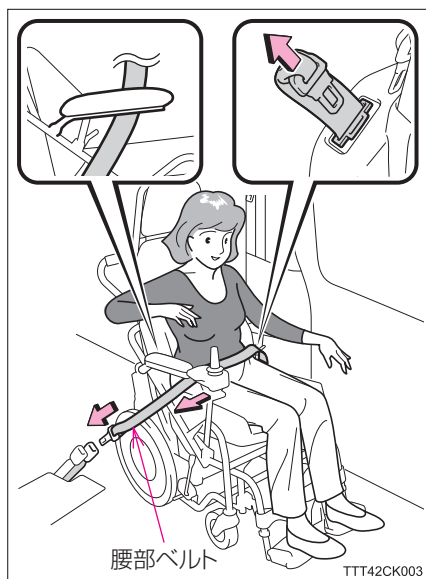
- 1 マット全体をめくり、バックルを格納箱から取り出す
バックル取り出し後、マットをもちます。



- 2 腰部ベルトを持って引き出す
ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

- 3 腰部ベルトを電動ウェルチェアの左右のはね上げ式アームレストの下側を通し、腰部ベルトを装着する

- ・ “カチッ” と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。
- ・ バックルは電動ウェルチェアに近い側のものを使用してください。

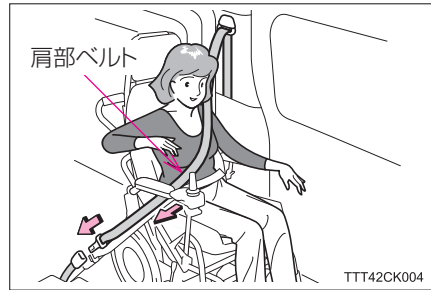


4 肩部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

5 肩部ベルトを電動ウェルチェア右側のはね上げ式アームレストの下側を通し、肩部ベルトを装着する

“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。

**正しく着用するには**

シートベルトを調整し、ベルトにねじれがないことを確認し、次のとおり正しく着用する

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 腰部ベルトを電動ウェルチェアの左右のはね上げ式アームレストの下側を通し、腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ③ 肩部ベルトを電動ウェルチェア右側のはね上げ式アームレストの下側を通す
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれる場合は、リルータを使用してください。(→ P.58)

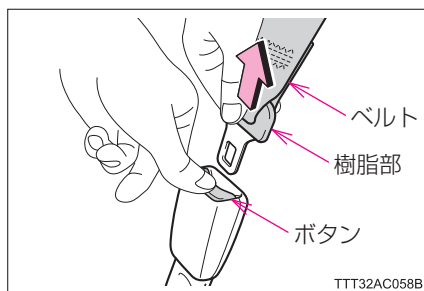


はずし方

1 バックルのボタンを押してプレートをはずす

- ① プレートの樹脂部とベルトを持つ
- ② バックルのボタンを押す
- ③ プレートの樹脂部とベルトを持ったまま、ベルトを巻き取らせる

リルータを使用している場合ははずしてください。(→ P.58)

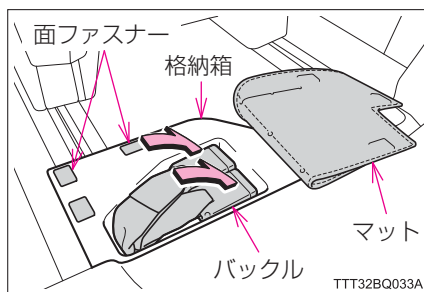


2 着用した位置の車いす用シートベルトのバックルおよびプレートを格納する

▶ バックル

マット全体をめくり、バックルを格納箱に格納する

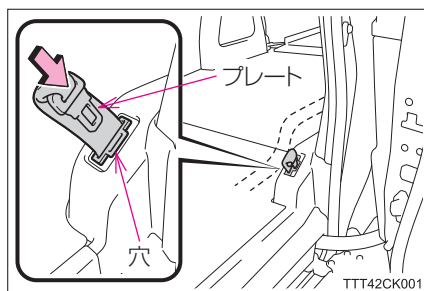
バックル格納後、マットをもどし、面ファスナーを貼り合わせます。



▶ 腰部ベルトのプレート

プレートを穴に挿し込み収納する

ベルトにねじれがなく、確実に挿し込まれたことを確認してください。



 知識

■ シートベルトがロックしたまま引き出せないときは

一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

 警告

■ シートベルトを着用するときは

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行き、正しく着用されていることを確認してください。
シートベルトは正しく着用しないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 3点式シートベルトは必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方を着用してください。
- シートベルトを着用するときは、必ず電動ウエルチェアが固定されていることを確認してください。
電動ウエルチェアの固定が悪いと電動ウエルチェアが動き出し、電動ウエルチェア乗車の方のシートベルトが正しく着用できなくなり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトは必ずはね上げ式アームレストの下側を通してください。
シートベルトがはね上げ式アームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトをはずすときは

プレートバックルからはずすときは、必ずプレートの樹脂部を手で持ってからバックルのボタンを押してください。
プレートの樹脂部を持つてはずさない、プレートがいきおいよくもどり、顔などにあたり、けがをするおそれがあります。

■ シートベルトを着用しないときは

車いす用シートベルトを着用しないときは、必ずバックルを格納箱に格納し、マットをもどしてください。
バックルが床面に放置されていたりマットがもどされていないと、電動ウエルチェア乗降時および車内での移動時、つまずいて転倒したり、バックルを破損するおそれがあります。

 **注意****■ シートベルトについて**

- 電動ウェルチエア乗り入れ前にシートベルトの点検をし、シートベルトにほつれ・すり切れが起きたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- シートベルトを脱着するときは、手やシートベルトがジョイスティックのスイッチにあたらないよう、注意してください。
- シートベルトが汚れるとシートベルトの巻き取りがしづらくなることがあります。ベルトの巻き取りがしづらくなったときは、シートベルトの清掃をしてください。(→P.156)

車両に電動ウェルチェアを積み込むときは

人が座っていない電動ウェルチェアを手押で車両に乗り入れるときの手順を記載しています。

電動ウェルチェアに人が座っている場合は、P.98の「操作の流れ」を参照してください。

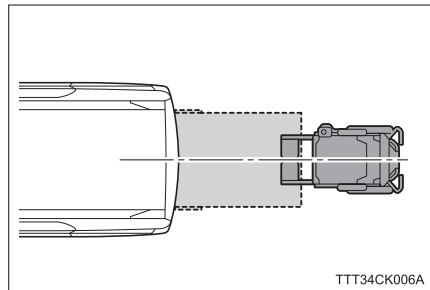
電動ウェルチェアに人が乗っていない状態では、前輪が浮きやすくなりますので、ゆっくりと手押操作をしてください。

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・スロープが展開されていること（手動スロープ装着車→P.120 / 電動スロープ装着車→P.126）
- ・サードシートが格納されていること（→P.27）
- ・助手席シートが前方にスライドされていること
- ・助手席シートバックテーブルが格納されていること
- ・電動ウェルチェアのヘッドレストが取り付けられていること（→P.48）
- ・電動ウェルチェアがチルトダウンされていること（→P.52）
- ・電動ウェルチェアに人やものが乗っていないこと
- ・左右の電動／手押切替クラッチレバーが「手押」になっていること（→P.66）
- ・転倒防止バーが展開されていること（→P.64）

2 電動ウェルチェアをスロープの手前で停止する

電動ウェルチェアの中央付近と、スロープの中央付近を合わせます。



3 電動ウェルチェアを車内へ乗り入れる

- ・介助用ハンドルをしっかり持ち、スロープを上ります。
- ・電動ウェルチェアをワンタッチ固定装置の前まで乗り入れます。

4 電動ウェルチェアを車内に固定する（→P.107）

ワンタッチ固定装置に、電動ウェルチェアを押し込み、ロックさせます。

5 電動ウェルチェアの駐車ブレーキを左右ともかける

降り方

電動ウェルチェアを積み込んだときの逆の手順で行います。

1 操作前に、次の状態を確認する

- ・スロープが展開されていること（手動スロープ装着車→ P.120 / 電動スロープ装着車→ P.126）
- ・サードシートが格納されていること（→ P.27）
- ・車いす用シートベルトがはずしてあること（→ P.142）
- ・リルータがシートベルトからはずしてあること（→ P.58）
- ・転倒防止バーが展開されていること（→ P.64）
- ・電動ウェルチェアに人やものが乗っていないこと
- ・左右の電動/手押切替クラッチレバーが「手押」になっていること（→ P.66）

2 電動ウェルチェアの駐車ブレーキを左右とも解除する

3 ワンタッチ固定装置のロックを解除する（→ P.109）

4 ゆっくりと車外に出る

知識

■ ワンタッチ固定装置の解除ペダル操作が重いときは

→ P.111, 178

警告

■ 電動ウェルチェアを手押しで車内へ乗り入れるときは

電動ウェルチェアに人やものが乗っている状態で乗り入れないでください。重量を支えきれず、電動ウェルチェアが予期せぬ動きをし、事故の原因になります。

人が座っている状態では、バッテリーを装着し、電動操作で乗り入れてください。(→ P.98)

■ 電動ウェルチェアの車内外への乗降操作をするときは

安全に十分注意しながら行ってください。

● 電動ウェルチェアの通路上（スロープ上および車内）に、人やものがないことを確認してください。

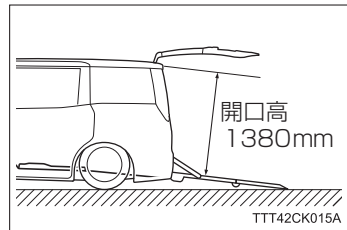
● 電動ウェルチェアから離れないでください。

電動ウェルチェアが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通過してください。中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

傾斜したスロープは電動ウェルチェアがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。電動ウェルチェアの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。

● バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。スロープに電動ウェルチェアを乗り入れるときや乗り入れ後に車外へ出る（もどる）とき、頭上の注意がおろそかになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。



● 脱着式フットレストの高さが67mm以上あることを確認してください。フットレストの高さが低いと、車内床面やワンタッチ固定装置に引っかかり、転倒するおそれがあります。

● 車内を移動するときは、ガイドライン（黄）のあいだに左リヤタイヤを沿わせてください。(→ P.106)

ガイドラインを大きくはずれると、車内床面の段差に乗り上げ、電動ウェルチェアごと転倒するおそれがあり危険です。

 **警告****■ 電動ウェルチェアを車内へ乗り入れ・固定するときは**

- 電動／手押切替クラッチレバーを「電動」に切りかえないでください。
電動ウェルチェアが予期せぬ動きをし、事故の原因になります。
- 電動ウェルチェアをいきおいよく押し込まないでください。
シートや車内の部品にあたり、電動ウェルチェアの損傷や、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ワンタッチ固定装置のフックが片側だけロックした場合は、いったん解除し、うしろに下がってから、再度固定し直してください。(→ P.109)

■ ワンタッチ固定装置のロックを解除するときは

- 解除ペダルに足を乗せたまま、電動ウェルチェアをうしろに動かしすぎないでください。
電動ウェルチェアに足を轢かれるなど、けがをするおそれがあり危険です。
- ワンタッチ固定装置の可動部に手や足を近づけないでください。
手や足を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 電動ウェルチェアを車外へ降ろすときは

- 電動／手押切替クラッチレバーを「電動」に切りかえないでください。
- 電動ウェルチェアから手を離さないでください。
電動ウェルチェアのブレーキが解除されたとたん、電動ウェルチェアが動き出し、スロープからすべり落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■ ワンタッチ固定装置に電動ウェルチェアを固定するときは**

ワンタッチ固定装置に、電動ウェルチェアをいきおいよくぶつけたりしないでください。
ワンタッチ固定装置や電動ウェルチェアの故障の原因になります。

走行する前に

車いす用シートベルト着用後、車両を次の状態にします。

- 1 スロープを格納および車高をもどす（手動スロープ装着車→P.122
／電動スロープ装着車→P.127）
- 2 バックドアを閉める
バックドアが電動ウェルチェアにあたらないことを確認しながらゆっくりと閉めます。
- 3 メインスイッチを OFF にする（→P.117）
- 4 シートを次のように調整する
 - ▶ 助手席シート
電動ウェルチェア乗車の方にあたらないことを確認しながら、前後位置・背もたれ角度を調整する
 - ▶ サードシート
サードシートに乗車するときは、サードシートを着座状態にする（→P.30）

 **警告****■ 電動ウェルチェアを車内に乗り入れたときは**

助手席シートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。

電動ウェルチェア乗車の方にあたり、けがをするおそれがあります。電動ウェルチェア乗り入れ後、助手席シートの調整をするときは、電動ウェルチェア乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

■ 助手席側サードシートへ着座するときは

ワンタッチ固定装置の解除ペダルを踏んだり、操作しないでください。

電動ウェルチェアが固定されず、事故の原因になります。

 **注意**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、電動ウェルチェアが破損するおそれがあります。

■ サードシートへ乗り降りするときは

車内を移動するとき、電動ウェルチェアに体重をかけないでください。

■ 助手席側サードシートへ着座するときは

- 電動ウェルチェアの転倒防止バーを折りたたんでください。
- 電動ウェルチェアの足踏みペダルの上に足を乗せないでください。
- 電動ウェルチェアのヘッドレスト部のバーを持たないでください。

お手入れのしかた

5

5-1. お手入れのしかた

- 手動スロープの清掃
(手動スロープ装着車) 152
- 電動スロープの清掃
(電動スロープ装着車) 154
- 車いす用シートベルトの
清掃 156
- ワンタッチ固定装置の清掃... 157
- 電動ウエルチェアの清掃..... 158
- 電動ウエルチェアを
長期間使用しないときは 160

5-2. 簡単な点検・部品交換

- ガレージジャッキ 161
- リヤタイヤの点検 162
- 駐車／介助ブレーキの点検... 163

手動スロープの清掃（手動スロープ装着車）

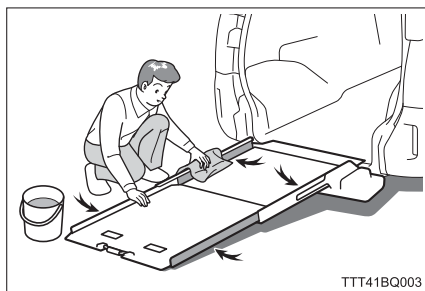
手動スロープの引き出しレール部に泥や小石、砂などの異物がつまると、手動スロープの引き出し・格納操作ができなくなります。手動スロープの清掃は、次のように行ってください。

手動スロープの清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にし、エンジンを停止する
- 2 バックドアを全開にする
- 3 手動スロープを展開する（→ P.120）
車高を降下させる必要はありません。
- 4 手動スロープを清掃する

▶ 引き出しレール部

- ① 泥や小石、砂などの異物があつたらブラシなどを使用して取り除く
- ② 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

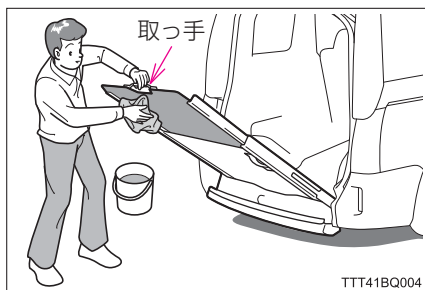


TTT41BQ003

▶ 手動スロープ全体

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

手動スロープを持ち上げた状態で手動スロープ裏面などを清掃するときは、片方の手で手動スロープ先端の取っ手を持って手動スロープを持ち上げ、もう片方の手で清掃します。



TTT41BQ004

 **警告****■ 手動スロープを清掃するときは**

- 必ずエンジンを停止してください。
誤って車高調整スイッチが押された場合、不意に車高が変化し、手足を挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手動スロープの可動部や端部、突起部などを清掃するときは、手や指を挟まないよう、十分注意してください。
- 手動スロープを持ち上げた状態で手動スロープ裏面などを清掃するときは、必ず片方の手で手動スロープ先端の取っ手を持って手動スロープを持ち上げてください。
手動スロープ先端の取っ手以外の部分を持つと、手を挟まれけがをするおそれがあります。

■ 清掃するときは

車内を水洗いしないでください。

電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

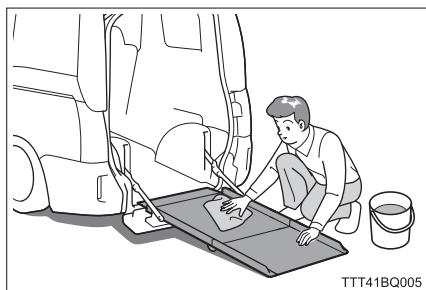
万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

電動スロープの清掃（電動スロープ装着車）

電動スロープの清掃は、次のように行ってください。

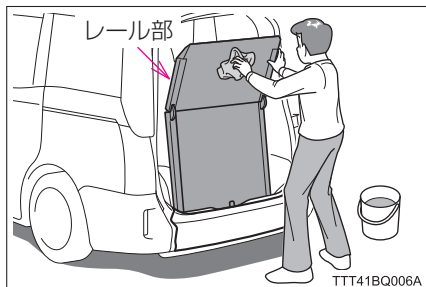
電動スロープ表面の清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 2 メインスイッチを ON にする（→ P.117）
- 3 バックドアを全開にする
- 4 電動スロープを展開・車高降下させる（→ P.126）
- 5 メインスイッチを OFF にする（→ P.117）
- 6 エンジンを停止する
- 7 電動スロープ表面を水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



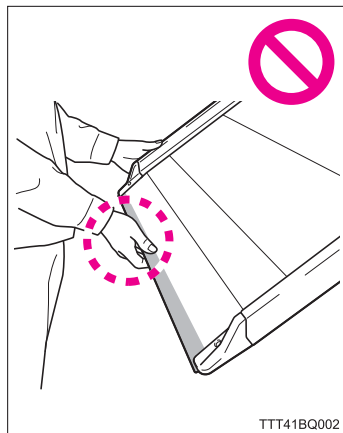
電動スロープ裏面の清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にし、エンジンを停止する
- 2 バックドアを全開にする
- 3 電動スロープのレール部を持ち、電動スロープ裏面を水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



警告**■ 電動スロープを清掃するときは**

- 必ずメインスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。
誤って操作スイッチが押された場合、不意に電動スロープが作動したり車高が変化するなどして、手足を挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 電動スロープの可動部や端部、突起部などを清掃するときは、手や指を挟まないよう、十分注意してください。
- 電動スロープを持ち上げた状態で電動スロープ裏面を清掃するときは、必ず片方の手で電動スロープのレール部をしっかりと持ってください。
 - ・ 電動スロープの接地面は絶対に持たないでください。接地面に地面との干渉による傷などができている場合、ふれたときにけがをするおそれがあります。
 - ・ 電動スロープを持ち上げて清掃するときは、手をすべらせて電動スロープを急に降ろさないよう、十分注意して清掃してください。電動スロープに手を挟まれ、けがをするおそれがあります。

**■ 清掃するときは**

車内を水洗いしないでください。

電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

車いす用シートベルトの清掃

車いす用シートベルトが汚れたときは、次のように清掃を行ってください。

清掃のしかた

中性洗剤かぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

乾くまで使用しないでください。

警告

■ シートベルトを清掃するときは

- ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用しないでください。
有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用すると、ベルトの性能が低下し、十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでベルトを使用しないでください。
- シートベルトを清掃するときは、プレートをしっかり持ち、シートベルトの状態を確認しながら行ってください。
シートベルトが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

ワンタッチ固定装置の清掃

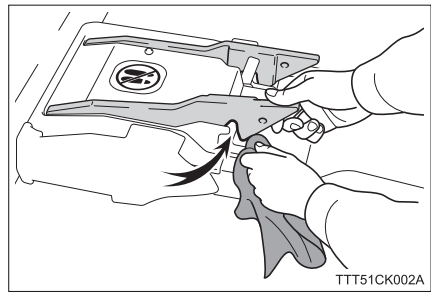
ワンタッチ固定装置のフックが汚れると、フックのもどり、解除ペダルの操作性が悪くなることがあります。次の方法でワンタッチ固定装置を清掃してください。

清掃をしても改善しない場合は、トヨタ販売店までご連絡ください。

清掃のしかた

フックを持ち上げ、清掃します。

- フックに砂やほこりなどの汚れが付着していたら、やわらかい布などで汚れをふき取る
- フック摺動部のすき間に異物がはさまっている場合は取り除く



警告

■ フックを清掃するときは

可動部、端部、突起物に十分注意してください。
フックから急に手を離すとフックが不意にもどり、けがをするおそれがありますので、フックをしっかり持ちながら行ってください。

注意

■ ワンタッチ固定装置を清掃するときは

ワンタッチ固定装置に水をかけないでください。
錆や故障の原因になります。

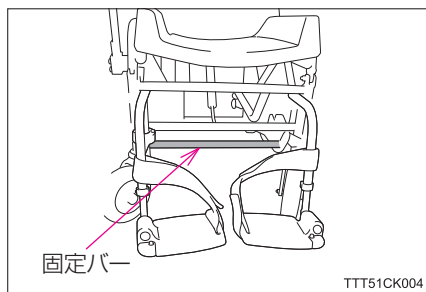
電動ウェルチェアの清掃

電動ウェルチェアが汚れたときは、クッションを取りはずして清掃することができます。

- 1 クッションを取りはずす
クッションは面ファスナーで貼り付けられています。(→ P.49)
- 2 掃除機などで大まかな汚れを取る
- 3 湿らせたやわらかい布で汚れをふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる
- 4 クッションを取り付ける

固定バーの清掃

固定バーに砂やほこりなどの汚れが付着していたら、やわらかい布などで汚れをふき取る



TTT51CK004

 **警告****■クッションを取りはずしたときは**

→ P.49

■クッションを取り付けるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、着座したときクッションがずれるなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

- 他のクッション類と重ねて使用しない
- クッションを裏返して使用しない
- クッションが面ファスナーでしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に清掃後は必ず確認を行う

 **注意****■故障を防ぐために**

シンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。

表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

電動ウェルチェアを長期間使用しないときは

電動ウェルチェアを長期間（30 日以上）使用しないときは、バッテリーを取りはずし、保管をしてください。

3 か月以上保管する場合は、バッテリーをフル充電してください。

（→ P.80）

電動ウェルチェアの保管方法

次の状態で、屋内の湿気が少ない場所に保管します。

- ・ 左右の駐車ブレーキがかかっている（→ P.65）
- ・ 左右の電動／手押し替クラッチレバーが「電動」になっている（→ P.66）
- ・ バッテリーが取りはずされている（→ P.92）
- ・ 汚れなどは拭きとる（→ P.158）

知識

■ 自己放電について

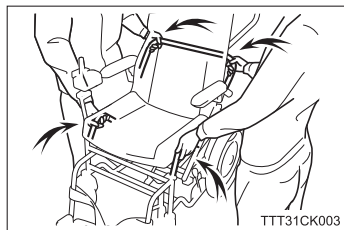
バッテリーは使用しなくても自然に残量が減っていきます。（→ P.86）

警告

■ 電動ウェルチェアを持ち上げるときは

電動ウェルチェアを持ち上げるときは、ベースパイプを 2 人で持ってください。

- はね上げ式アームレストやバッテリーの取っ手を持たないでください。
はね上げ式アームレストやバッテリーがはずれ、けがや機器の損傷の原因となります。
- 1 人で持たないでください。



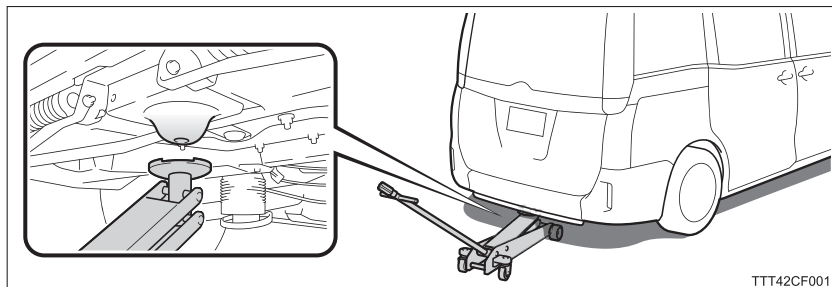
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側のセット位置およびお守りいただきたいことは標準車と同様ですので、標準車取扱書の「ガレージジャッキ」を併せて参照してください。

リヤ側のガレージジャッキのセット位置



警告

■ 車両を持ち上げるときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンがかかった状態だと、オートレベリング機能※により車高が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

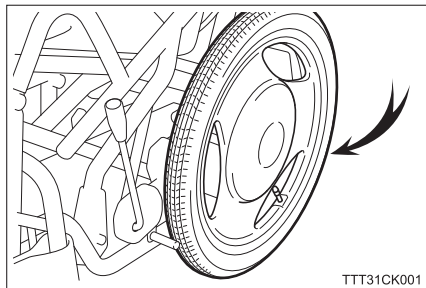
※：乗員の数や荷物などの積載条件が変わっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

リヤタイヤの点検

電動ウェルチェアを使用する前に、次のことを確認してください。
点検は介助の方が行ってください。
不具合があればトヨタ販売店までお問い合わせください。

- タイヤ溝があること
- タイヤ表面に亀裂がないこと
- タイヤに空気が入っていること

最適な空気圧は
345kPa(3.5kg / cm²)です。



TTT31CK001

警告

■ 電動ウェルチェアのリヤタイヤの空気圧について

タイヤの空気圧は常に正常に保ってください。

- タイヤの空気圧が下がると、駐車ブレーキがきかなくなるおそれがあります。
- 空気圧が正常でないと、車両への固定ができなくなるおそれがあります。

注意

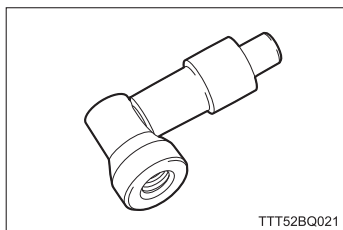
■ 電動ウェルチェアのリヤタイヤの空気圧について

タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。タイヤがパンクする原因になります。

知識

■ 空気入れの先端部が挿入口に入らない場合

空気入れの先端部の形状によっては、先端部が挿入口に入らない場合があります。このような場合は、市販のL型バルブアダプター（英式）を使用することで空気を入れることができます。



TTT52BQ021

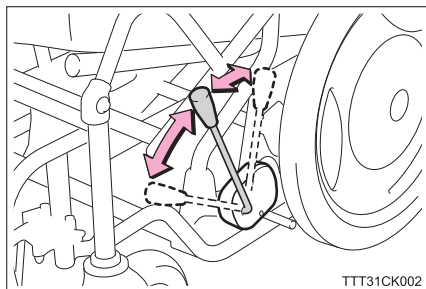
駐車／介助ブレーキの点検

電動ウエルチェアを使用する前に、次のことを確認してください。
点検は介助の方が行ってください。
不具合があればトヨタ販売店までお問い合わせください。

駐車ブレーキの点検

駐車ブレーキがかかること

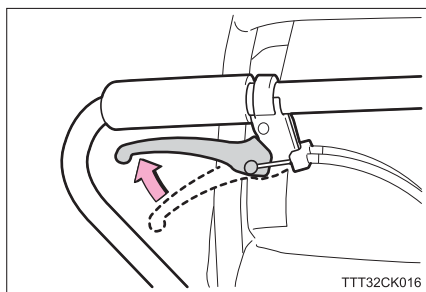
左右の駐車ブレーキをかけた状態で電動ウエルチェアを押し、タイヤが動かないことを確認します。



介助ブレーキの点検

介助ブレーキがかかること

ブレーキをかけた状態で電動ウエルチェアを押し、タイヤが動かないことを確認します。



万一の場合には

6

6-1. パンクしたときは

工具・ジャッキの取り出し... 166

6-2. 故障かな？と

お考えになる前に

ヒューズの交換 171

車高降下装置が
作動しないときは 176

電動スロープが
作動しないときは
(電動スロープ装着車) 177

ワンタッチ固定装置の
ロックが
解除できないときは 178

6-3. 緊急時の対処法

電動スロープが
格納できないときは
(電動スロープ装着車) 179

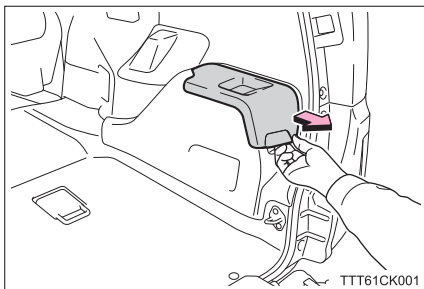
工具・ジャッキの取り出し

車内右側後部に装備されます。

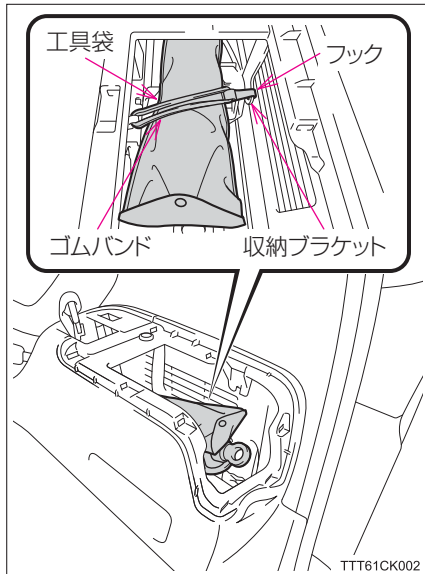
工具・ジャッキの取り扱いについては、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

工具袋・ジャッキの取り出し

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にし、エンジンを停止する
- 2 ジャッキカバーの取っ手部分を持って車両後方に引き、ジャッキカバーを取りはずす



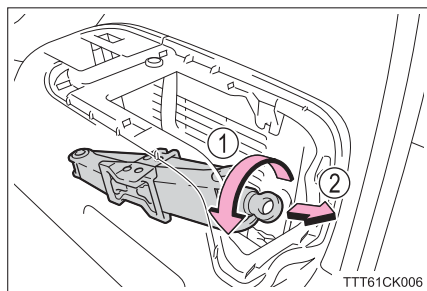
- 3 ゴムバンドのフックを収納ブラケットからはずす



- 4 工具袋を格納部から引き抜いて取り出す

5 ジャッキを取り出す

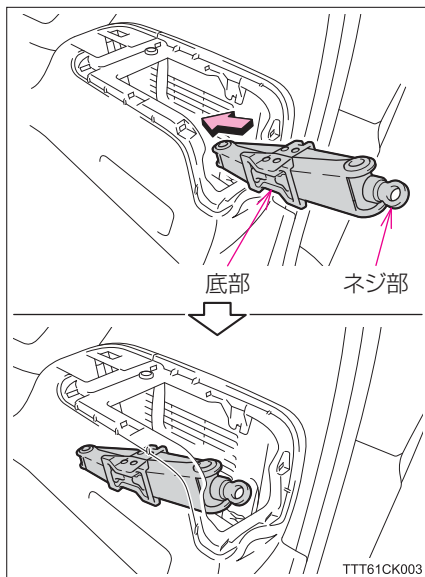
- ① ジャッキのネジ部を左にまわし、ジャッキを縮める
- ② 格納部から引き抜く



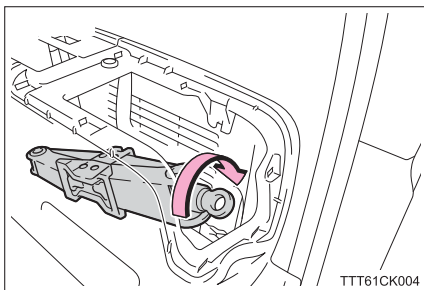
工具袋・ジャッキの格納

- 1 ジャッキの底部を車両内側・ネジ部を車両後方に向け、格納部に挿し込む

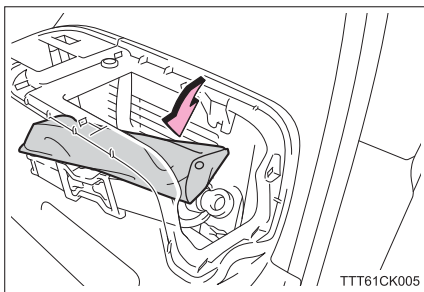
格納部に沿わせ、奥まで収納してください。(正しい向きで奥まで挿し込まないと、ジャッキカバーが閉められません)



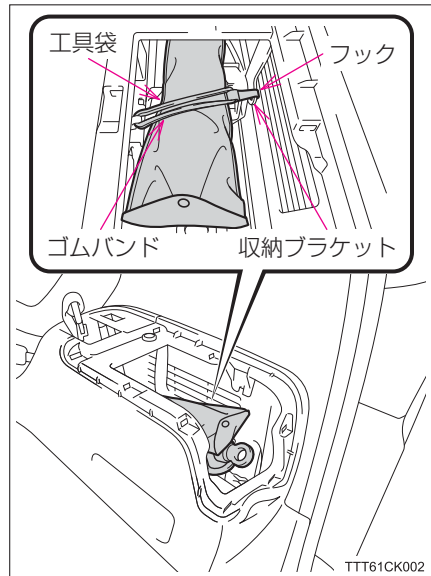
- 2 ジャッキのネジ部を右にまわしてジャッキを広げ、ジャッキが動かないようにする



- 3 工具袋をジャッキの上に置く

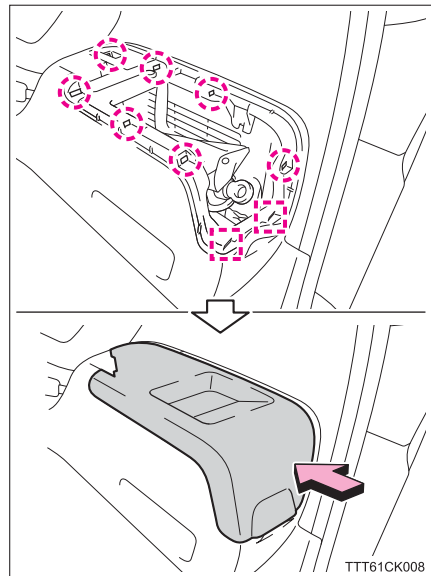


- 4 ゴムバンドのフックを収納ブラケットにかける



- 5 ジャッキカバーをもとにもどす
ジャッキカバーをトリム部の穴に挿し込み、ツメ (2 か所) を確実にはめ込みます。

- : トリム部穴
□ : ツメ挿し込み部



 知識■ **タイヤパンク応急修理キットについて**

この車両には応急用タイヤが搭載されていません。
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。タイヤパンク応急修理キットの使用方法は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

 **警告**■ **工具・ジャッキの取り出し・格納をするときは**

ゴムバンドの取り付け・取りはずし時、指などを挟まないように注意してください。

■ **工具・ジャッキを使用したあとは**

所定の場所に確実に保管してください。
車室内などに放置すると、乗降時につまずいたり、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意**■ **破損を防ぐために**

ジャッキカバーを取りはずすときは、ツメに無理な力が加わらないようにしてください。
ツメが破損するおそれがあります。

ヒューズの交換

ヒューズを点検する前に、各装置ごとの作動条件（→P.113）をすべて満たしていることを確認してください。

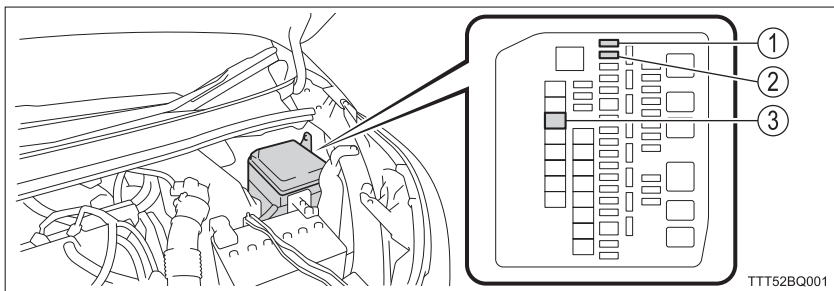
作動条件を確認したにもかかわらず、装置が正常に作動しないときは、ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ位置

■ エンジンルーム左側ヒューズボックス

エンジンルーム左側ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。



	ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
①	WELCAB NO.3	20A	ウェルキャブ ECU パワー系電源
②	WELCAB NO.2	30A	電動スロープ
③	AIR SUS	50A	車高降下装置

■ 左側リヤカバー内

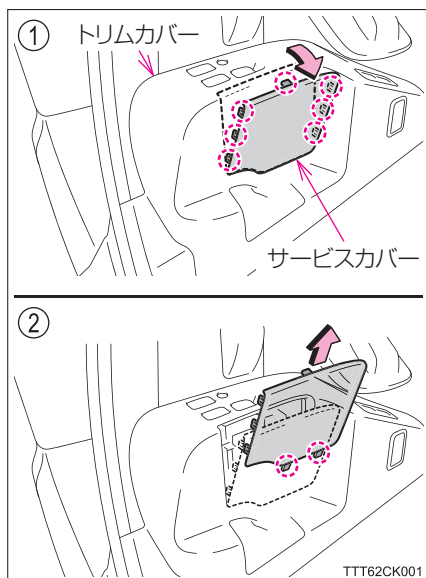
▶ 手動スロープ装着車

- 1 サービスカバーをトリムカバーから取りはずす

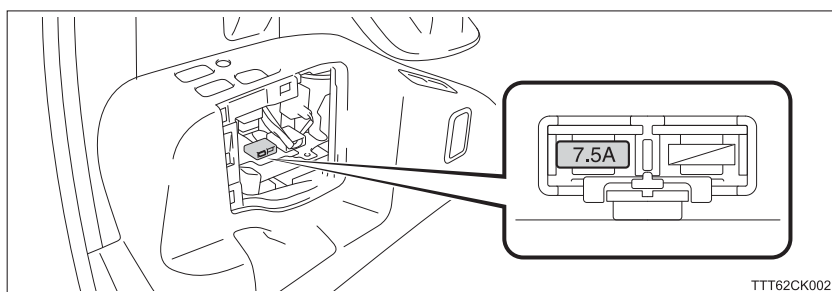
- ① サービスカバーの上側を手前に引き、サービスカバー内側のツメ7か所をはずす

○ : ツメ

- ② サービスカバーを少し上に引き上げて下側のツメ2か所をはずし、サービスカバーを取りはずす



- 2 ヒューズを点検する



ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
WELCAB_No.4	7.5A	ウェルキャブ ECU システム系電源

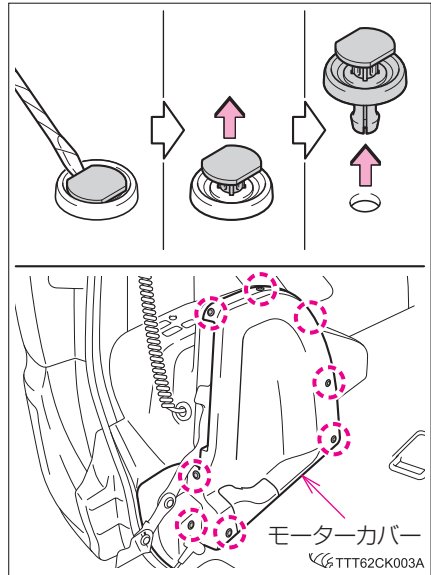
- 3 ヒューズ点検後、サービスカバーのツメをはめ込み、もともにもどす
先にサービスカバー下側のツメ2か所をトリムカバーに挿し込んでから、サービスカバー内側のツメ7か所をトリムカバーに挿し込みます。

▶ 電動スロープ装着車

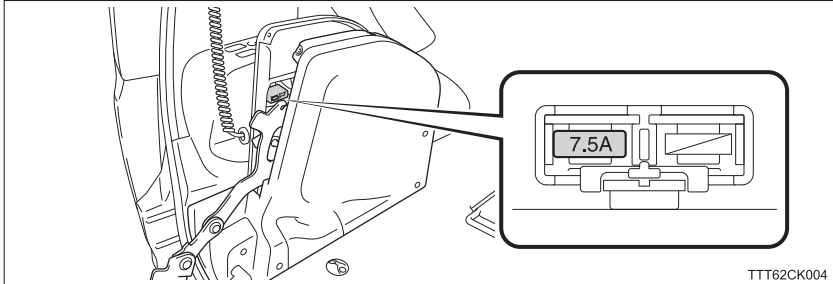
- 1 マイナスドライバーなどを使って、モーターカバーのクリップ 8 個を取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

○ : クリップ



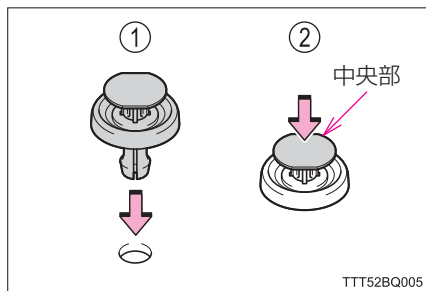
- 2 モーターカバーをずらし、ヒューズを点検する



ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
WELCAB_No.4	7.5A	ウェルキャブ ECU システム系電源

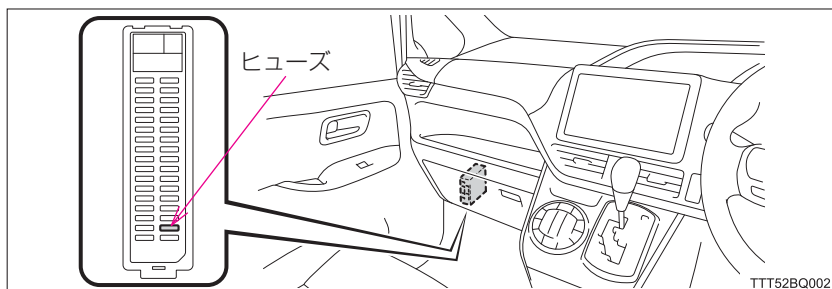
- 3 ヒューズ点検後、モーターカバーをもとにもどし、クリップを取り付ける

- ① クリップをモーターカバーに挿し込む
- ② クリップ中央部を押す



■ 助手席足元ヒューズボックス

助手席足元ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。



ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
DOME	10A	夜間照明灯

 知識

■ 車高降下装置について

- 車高降下・復帰操作をくり返し（目安として4分間に3回以上）行くと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止（保護）のため、しばらく作動しなくなることがありますが、ヒューズ切れではありません。
- メーター内の車高調整インジケーターおよび左リヤデッキサイド部の車高降下装置異常ランプが黄色点灯した場合は、車高降下装置のシステムに何らかの異常が発生していますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。（→ P.129）

■ ヒューズを交換したあとは

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置が働かないとき

 警告

■ 車の故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

車高降下装置が作動しないときは

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(→ P.113)

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P.171 ~ 173)

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対にスロープに電動ウエルチェアを乗せないでください。

■ 走行可能な車高の場合

そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 走行できない車高の場合

次の方法で車高復帰（上昇）させ、そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 1 パーキングブレーキを確実にかける
- 2 エンジンを始動する
- 3 ブレーキペダルを踏んでシフトレバーをP以外の位置に動かし、周囲の安全を確認後、ブレーキペダルから足を離す
 - ・ 車高復帰忘れ防止機能により、車高が上昇（復帰）します。(→ P.128)
 - ・ ブレーキペダルを踏んだままだと車高復帰しません。シフトレバーを動かしたあと、必ずブレーキペダルから足を離してください。
 - ・ 車高上昇が完了すると、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。(→ P.122, 127)
 - ・ 車高が変化しなかった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

電動スロープが作動しないときは（電動スロープ装着車）

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。（→ P.113）

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。（→ P.171, 173）

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に電動スロープに電動ウェルチェアを乗せないでください。

■ 電動スロープが格納されている場合

そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。
万一、電動ウェルチェア乗車の方が車内にいる状態で電動スロープが展開せず、電動ウェルチェアを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で電動ウェルチェア乗車の方のみ降ろしてください。

- 1 助手席側スライドドアを全開にする
- 2 電動ウェルチェア乗車の方を降ろす

■ 電動スロープが展開または格納途中の場合

トヨタ販売店または専門業者に P.179「電動スロープが格納できないときは（電動スロープ装着車）」の操作をご依頼ください。

ワンタッチ固定装置のロックが解除できないときは

次の処置をしてください。

電動ウェルチェアを固定した状態で、ワンタッチ固定装置の解除ペダルの操作が重くなることがあります。

▶ 横スライドが重い場合

電動ウェルチェアを固定した状態で、電動ウェルチェアに乗車の方が降車し荷重が変わるなどの理由で、解除ペダルの横スライド操作が重くなった場合は以下の対処をしてください。

- ・再度電動ウェルチェアに座る
- ・エマージェンシーベルトを使用する

① ワンタッチ固定装置左側のエマージェンシーベルトを取り出す

ベルトの先端を引っ張り出し、ホックをはずします。

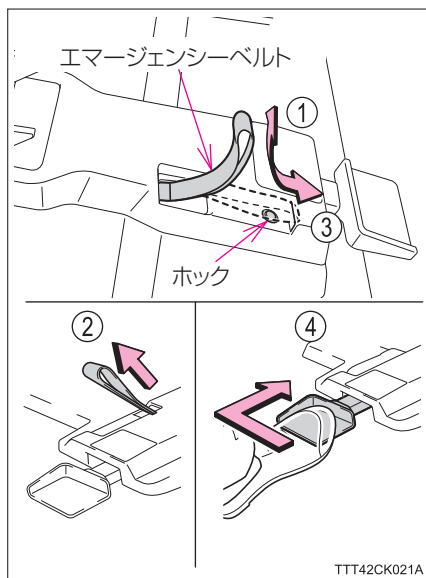
② エマージェンシーベルトを引く

- ・車両後方にまっすぐ引きます。
- ・ベルトの黒い縫い目が見えるまで、しっかりと引きます。

③ エマージェンシーベルトをもとにもどす

ホックをとめ、ベルトの先端を格納します。

④ 足を解除ペダルに乗せ、解除操作をする (→ P.109)



▶ 前スライドが重い場合

上り坂で停車した場合など、解除ペダルの車両前方へのスライド操作が重い場合は、電動ウェルチェアを車両前方に電動操作しながら解除操作してください。

解除操作が完了したら、前進スイッチから手を離してください。

電動スロープが格納できないときは（電動スロープ装着車）

万一、電動スロープが展開または格納途中で動かなくなってしまったときは、車を走行させることができません。

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換（→ P.171, 173）しても動かない場合は、トヨタ販売店または専門業者に下記の操作をご依頼ください。

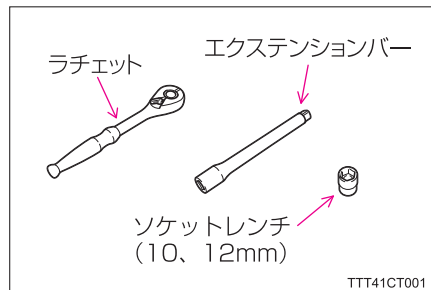
下記の操作は、緊急時の対処法です。

操作を行ったあとは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

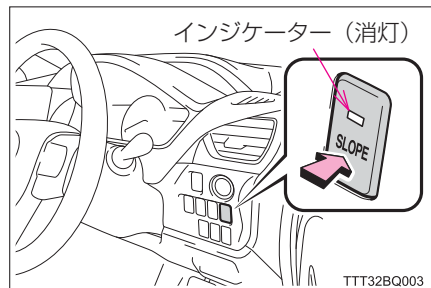
手動での電動スロープの格納のしかた

■ 使用工具について

電動スロープを手動で格納するときは、次の工具を使用します。



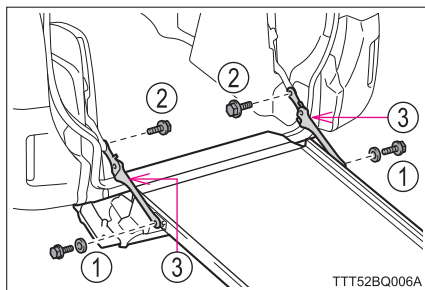
- 1 メインスイッチを OFF にする
インジケーターが消灯します。



2 エンジンを停止する

3 支持プレートのボルト（10、12mm）・ワッシャーをソケットレンチ、エクステンションバー、ラチェットを使用して取りはずす

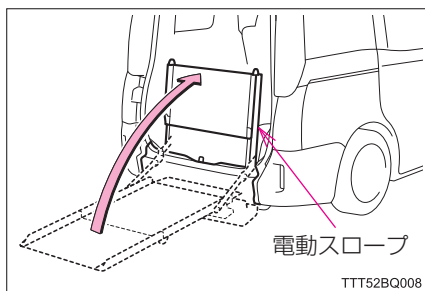
- ① 10mm ボルト・ワッシャー
- ② 12mm ボルト
- ③ 支持プレート



4 支持プレートを取りはずす（左右とも）

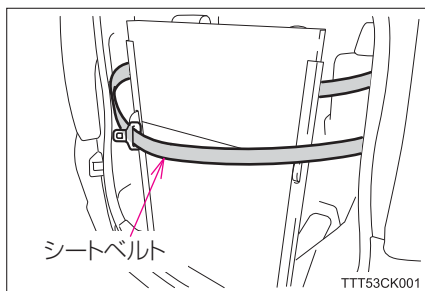
5 電動スロープを手動で格納する

- ・ 電動スロープが後方に倒れないように確実に保持しながら格納します。
- ・ 電動ウエルチェア乗車の方が車内にいるときは、電動スロープをいっばいまで展開し、先に電動ウエルチェアを降ろしてから格納します。



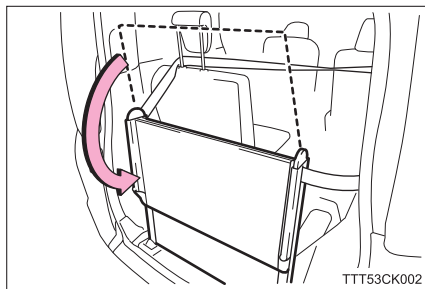
6 車内に入り、助手席側サイドシートを着座状態にする

7 運転席側サイドシートのシートベルトを引き出し、電動スロープを通す



8 電動スロープを折りたたみ、あいだにシートベルトを挟む

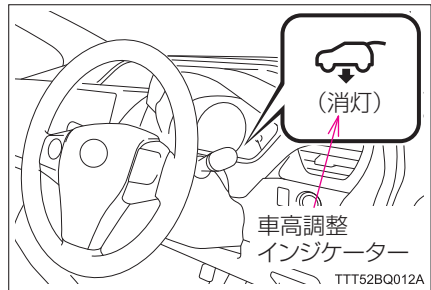
必要に応じてヘッドレストを引き上げ、シートベルトがかかるようにします。



- 9 シートベルトのプレートをバックルにはめ込む
- 10 パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認する
- 11 エンジンを始動する

- 12 ブレーキペダルを踏んでシフトレバーをP以外の位置に動かし、周囲の安全を確認後、ブレーキペダルから足を離す

- ・ 車高復帰忘れ防止機能により、車高が上昇（復帰）します。（→ P.128）
- ・ ブレーキペダルを踏んだままだと車高復帰しません。シフトレバーを動かしたあと、必ずブレーキペダルから足を離してください。
- ・ 車高復帰が完了すると、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。



- 13 ブレーキペダルを踏み、シフトレバーをPの位置にする
- 14 エンジンを停止する
- 15 バックドアを完全に閉める

バックドアが完全に閉まったら、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ 電動スロープを手動格納するときは**

- 電動スロープの手動格納時、メインスイッチを OFF にしてください。
万一、操作スイッチを押して正常作動した場合、電動スロープに巻き込まれるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 電動スロープはレール部を持って格納してください。
 - ・ 電動スロープの接地面は絶対に持たないでください。接地面に地面との干渉による傷などができている場合、ふれたときにけがをするおそれがあります。
 - ・ 電動スロープの可動部は絶対に持たないでください。可動部を持つと手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 工具を使用したあとは、所定の場所に確実に保管してください。
車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 損傷を防ぐために**

バックドアはいきおいよく閉めないでください。
工具などが放置されていた場合、工具の破損および電動スロープを損傷するおそれがあります。

点検・整備項目

7

7-1. 点検・整備項目

定期点検整備 184

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	日	自家用車			
		12か 月ごと	24か 月ごと		
車内	ワンタッチ固定装置				
	解除ペダル、フックのもどり不良	○	○		
	固定バーとフックのロック状態	○	○		
	フックの汚れ	○	○		
	各部取付部のゆるみ・ガタ・損傷	○	○		ガタ（異音）がないこと
車いす用シートベルト					
	ベルトの傷・ほつれ	○			ほつれが始まったら交換

* 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	日	自家用車			
		12か 月ごと	24か 月ごと		
電動 ウェル チエア	介助ブレーキ				
	ブレーキの効き具合	○	○		
	固定バー				
	バーの汚れ	○	○		
	リヤタイヤ				
	空気圧	○	○		
	摩耗	○	○		
	駐車ブレーキ				
	ブレーキの効き具合	○	○		
	電動ウェルチエア（本体）				
各部取付部のゆるみ・ ガタ・損傷	○	○		ガタ（異音）がない こと	

※ 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目		点検時期			交換時期 (年)	備考
		日	自家用車			
			12 か 月 ごと	24 か 月 ごと		
ス ロ ー プ	手動スロープ					
	各部取付部のゆるみ・ガタ・損傷		○			スロープ本体の損傷、取っ手（スロープ先端・右側）・リヤバンパー部ロックの締付状態
	格納（起立）状態・スロープ展開状態のガタ		○			
	前倒れ状態のガタ		○			
	各部の作動状態	○				ロック解除レバー・操作レバーのもどり不良、スロープ引き出し・格納・前倒れ・展開操作の異音・荷重、バックドアの閉まり具合
	電動スロープ					
	各部取付部のゆるみ・ガタ・損傷		○			取り付け部・リンク部のゆるみ、スロープ本体の損傷
格納（起立）状態・スロープ展開状態のガタ		○				
各部の作動状態	○				展開・格納作動時の異音、バックドアの閉まり具合	

※ 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目		点検時期		交換時期 (年)	備考	
		日	自家用車			
			12 か 月 ごと			24 か 月 ごと
サ ス ペ ン シ ヨ ン	リヤエアサスペンション（エア式）					
	各部取付部のゆるみ・ガタ		○		締め付けトルクが基準値内にあること	
	亀裂・損傷・エア漏れ		○			
	コンプレッサのゆるみ・ガタ		○		締め付けトルクが基準値内にあること	
	コンプレッサ作動中の異音		○		異音がないこと	
配管・ジョイント部の損傷・エア漏れ		○				

※ 空欄については点検および交換の必要はありません。

リヤエアサスペンションの締め付けトルク基準値

単位：N・m {kgf・cm}

部品	締め付けトルク基準値
エアサスペンション下部取り付けボルト	16 {163}
コンプレッサ取り付けボルト	5.9 {60}
コンプレッサブラケット取り付けナット	33 {337}

消耗部品

次の部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

- 交換作業はトヨタ販売店にお申し付けください。

消耗部品
夜間照明灯の電球（12V / 5W）

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	190
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	196
五十音順さくいん	198

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

電動ウェルチェアについて



電動ウェルチェアがスロープおよび車内の正しい位置に乗り入れできない

- 電動ウェルチェアの耐荷重（100kg）をこえていませんか？（→ P.36）
- スロープの耐荷重（200kg）をこえていませんか？（→ P.94）
- 電動ウェルチェアを車内に乗り入れる前に、シートを調整してください。（→ P.96）
- 正しい手順で乗り入れているか、確認してください。（→ P.98, 145）



電動ウェルチェアの電源が入らない

- コントロールパネルまたはジョイスティックの電源が入っていると、もう一方の電源が入りません。（→ P.73, 75）
- バッテリーの充電が完了していますか？（→ P.80）
- ジョイスティックを倒したまま、電源を入れていませんか？安全装置がはたらき、電源が入りません（→ P.76）
- 電動／手押切替クラッチレバーが「電動」になっていますか？（→ P.66）



走行中にブザーが鳴る

- 転倒防止バーを展開し忘れていませんか？（→ P.64, 76）
- 急な坂道、もしくはモーターに負担のかかるような走行をしていますか？（→ P.76）

 **ブザーが鳴って動かない**

- 電動／手押切替クラッチレバーが「手押」のままです操作ボタンを押していませんか？（→ P.76）
- ジョイスティックを倒した状態で、ジョイスティックの電源を入れていませんか？（→ P.76）

 **車いす用シートベルトが正しく着用できない**

- シートベルトの装着手順を確認してください。（→ P.139）

 **ワンタッチ固定装置のフックが電動ウェルチェアにかからない**

- 電動ウェルチェアがチルトダウンされていますか？（→ P.52）

 **ワンタッチ固定装置のロック解除ができない**

- 上り坂で停車していませんか？電動ウェルチェアを車両前方に電動操作しながら、解除操作をしてください。（→ P.111, 178）
- ワンタッチ固定装置左側のエマージェンシーベルトを使用してください。（→ P.111, 178）

車高降下装置について**車高降下中、車高が自動復帰した**

- 車高降下中にシフトレバーを P 以外の位置にしませんでしたか？
（→ P.128）

**車高調整スイッチ（手動スロープ装着車）または操作スイッチ（電動スロープ装着車）を押しても車高が変化しない**

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.113）
- 短時間にくり返し操作していませんか？（→ P.128）
- ブレーキペダルを踏んでいませんか？（→ P.128）

**車高降下速度が遅い、または車高降下が完了しない**

- 氷・雪または石などがボデーに接触していませんか？（→ P.128）

**車両左側後方から音が聞こえる**

- エアサスペンションの作動音です。故障ではありません。（→ P.129）

**スイッチを操作しなくても車高がかわった**

- オートレベリング機能により車高調整が行われています。（→ P.129）

**車高調整インジケーターおよび車高降下装置異常ランプが黄色点灯し、車高降下・復帰が停止した**

- 車高降下装置のシステムに何らかの異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。（→ P.129）

電動ウェルチェアのバッテリーについて



フル充電後の走行距離が短い

- 地形や温度、充電方法により、走行距離が短くなる場合があります。（→ P.85）



バッテリー残量が自然に減る

- 自己放電による現象です。（→ P.86）



バッテリーの充電が始まらない（充電中ランプ点滅）

- バッテリー保護のためバッテリー温度が 0 ~ 40℃以外のときは充電を開始しません。（→ P.85）



充電完了しても容量表示ランプがすべて点灯しない

- バッテリーの劣化による現象です。（→ P.87）



バッテリーの容量表示が不正確

- リフレッシュ充電のお知らせが出ていても充電し続けていませんか？（→ P.90）
リフレッシュ充電をしてください。（→ P.83）



リフレッシュ充電が終わらない

- リフレッシュ充電は通常 3 ~ 13 時間かかります。（→ P.86）



バッテリー・充電器のランプが異常点滅する

- 充電中、バッテリーか充電器に異常が発生しています。（→ P.84）

故障かな？と思ったら**装置が作動しない**

- 各装置ごとの作動条件を確認してください。（→ P.113）

**夜間照明灯が点灯しない**

- スイッチが OFF になっていませんか？（→ P.33）
- バックドアは開いていますか？（→ P.33）

**ブザーが鳴りだした**

- 「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（P.196）をご確認ください。

トラブルが発生した**車高降下装置が作動しない**

- P.176 を確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**電動スロープが作動しない（電動スロープ装着車）**

- P.177 を確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 電動スロープが展開または格納途中で動かなくなったときは、トヨタ販売店または専門業者に P.179 「電動スロープが格納できないときは（電動スロープ装着車）」の操作をご依頼ください。
操作を行ったあとは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤作動などをお知らせするためにブザーが鳴ります。

スイッチ操作時

状況	原因	詳細
各装置のスイッチを操作したとき	作動条件をすべて満たしていない	P.113
	複数のスイッチを操作している	
	装置の作動中、作動条件を1つでも満たさなくなった	

車高降下装置操作時（手動スロープ装着車）

状況	原因	詳細
車高調整スイッチを押ししたとき	車高降下装置作動中	P.114 P.120
	車高降下装置の保護による作動停止	P.115
	車高降下装置が作動を開始してから95秒以上経過しても、作動を完了しない	P.115

電動ウェルチェアを電動車いすとして使用時

状況	原因	詳細
電源を入れて警告ランプ（コントロールパネル）／バッテリー残量表示（ジョイスティック）が点滅したとき	電動ウェルチェアのバッテリー残量が10%以下	P.69 P.70
走行中に警告ランプ（コントロールパネル）／バッテリー残量表示（ジョイスティック）が点滅したとき		
ジョイスティックのバッテリー残量表示が"E"で点滅したとき	電動ウェルチェアのバッテリー残量が0%	P.70

車高降下装置・電動スロープ操作時（電動スロープ装着車）

状況	原因	詳細
操作スイッチを押したとき	電動スロープ作動開始	P.126 P.127
	電動スロープ展開中および車高降下中	P.126
	電動スロープ展開および車高降下完了時	P.126
	電動スロープ格納中	P.127
	電動スロープ格納完了時	P.127
	車高降下装置の保護による作動停止	P.115
	車高降下装置が作動を開始してから 95 秒以上経過しても、作動を完了しない	P.115 P.128
	電動スロープ作動途中で操作スイッチから指を離れた	P.126 P.126 P.127

その他の操作時

状況	原因	詳細
シフトレバーを P 以外の位置に動かしたとき	バックドアが開いている	P.113
ブレーキペダルを踏み続けたとき	車高降下装置が作動を開始してから 95 秒以上経過しても、作動を完了しない	P.113 P.128
車両のバッテリー再接続時	システム電源 ON	P.114

五十音順さくいん

あ

アームレスト	50
足踏みペダル	61
安全なドライブのために	14
車両火災・故障・	
損傷を防ぐために	23
電動ウエルチェアの	
固定およびシートベルトの	
着用について	22
電動ウエルチェアの	
車内外への乗降について	14

え

エアサスペンション	131
オートレベリング機能	129
手動スロープ装着車	120
電動スロープ装着車	126

お

お手入れのしかた	152
車いす用シートベルトの	
清掃	156
手動スロープの清掃	152
電動ウエルチェアの清掃	158
電動ウエルチェアを	
長期間使用しないときは	160
電動スロープの清掃	154
ワンタッチ固定装置の清掃	157

か

介助ブレーキ	65
介助用ハンドル	52
簡単な点検・部品交換	161
介助ブレーキ	163
ガレージジャッキ	161
駐車ブレーキ	163
リヤタイヤ	162
ガレージジャッキ	161

き

緊急時の対処法	179
電動スロープが	
格納できないときは	179

く

車いす用シートベルト	139
シートベルトの構成	139
清掃	156
着用	140
はずし方	142
リルータ	58

こ

工具・ジャッキ	166
故障かな?とお考えになる前に	
車高降下装置が	
作動しないときは	176
電動スロープが	
格納できないときは	179
電動スロープが	
作動しないときは	177
ヒューズの交換	171
ワンタッチ固定装置のロックが	
解除できないときは	178
コントロールパネル (介助用)	68
後進スイッチ	68
旋回のしかた	60
前進スイッチ	68
操作	72
速度調整ダイヤル	68
電源スイッチ	68
バッテリー残量の確認	69

さ

サードシート	26
格納	27
標準車との相違点	26
もどし方	30

し

シート	26
サードシート	26
シートの構成および	
標準車との相違点	26
セカンドシート	26
室内装備	33
収納装備一覧	34
夜間照明灯	33

車高降下装置	120
作動しないときは	176
作動条件	113
車高降下を途中で	
やめるときは	121,127
手動スロープ装着車	120
電動スロープ装着車	126
車高降下装置異常ランプ	129
車高調整	120,126
車高調整インジケーター	120,126
車高調整スイッチ	120
車高復帰忘れ防止機能	128
ジャッキ・工具	166
ジャッキカバートレイ	34
充電器	80
充電中ランプ	80
バッテリー挿し込み口	80
リフレッシュスイッチ	80
リフレッシュランプ	80
手動スロープ	120
格納	122
清掃	152
展開	120
前倒れ機構	123
ジョイスティック (自操用)	68
いたずら防止機能	78
オートパワーオフ機能	78
下置きホルダー	77
操作	74
速度切替スイッチ	68,75
電源スイッチ	68,74
バッテリー残量の確認	69
ホーンスイッチ	68,78
USB 電源ポート	68,71
使用工具について	179
消耗部品	188

す

スマートエントリー& スタートシステムについて	95
スロープ	
内幅	95
手動スロープ	120
使用する前に	15
耐荷重	94
展開・格納	120
電動スロープ	126
スロープの展開・格納	120
手動スロープ装着車	120
電動スロープ装着車	126

せ

セカンドシート	26
標準車との相違点	26

そ

走行する前に	149
操作スイッチ	126
操作の流れ	59,98
電動ウエルチェアを	
車外に降ろすときは	102
電動ウエルチェアを車内に	
乗り入れ・固定するときは	98

た

正しい着座姿勢	41,96
車両へ乗り降りするとき	96
電動車いすとして	
使用するとき	41
脱着式フットレスト	54

ち

駐車ブレーキ	65
点検	163
チルトレバー	52

て

定期点検整備記録簿.....	巻末
点検・整備項目.....	184
締め付けトルク基準値.....	188
消耗部品.....	188
定期点検整備.....	184
転倒防止バー.....	64
電動/手押切替クラッチレバー ...	66
電動ウエルチェア.....	36
クッション.....	49
コントロールパネル.....	68
車両に積み込むときは.....	145
使用する前に.....	36
ジョイスティック.....	68
操作の流れ.....	59
正しい着座姿勢.....	41
脱着式フットレスト.....	54
段差の乗りこえ方.....	61
チルトレバー.....	52
点検.....	162
転倒防止バー.....	64
電動/	
手押切替クラッチレバー.....	66
電動ウエルチェアの調整.....	46
電動ウエルチェアへの	
乗り降り.....	43
はね上げ式アームレスト.....	50
バッテリーの充電.....	80
バッテリーの装着.....	91
ブレーキ.....	65
ヘッドレスト.....	47
ポケットシート.....	49
持ち上げるときは.....	160
リルータ.....	58

電動ウエルチェアの

車内外への乗降.....	98
車いす用シートベルト.....	139
固定解除・車外への降車.....	109
作動条件の確認.....	113
車高調整.....	120
車内への乗車・固定.....	105
車両に電動ウエルチェアを	
積み込むときは.....	145
スロープの展開・格納.....	120
走行する前に.....	149
操作の流れ.....	98
メインスイッチ.....	117
電動スロープ.....	126
格納.....	127
格納できないとき.....	179
作動しないとき.....	177
作動条件.....	113
清掃.....	154
操作スイッチ.....	126
展開.....	126
メインスイッチ.....	117

は

はね上げ式アームレスト	50
バッテリー	80
残量チェック	83
充電	81
充電中に異常が生じたときは...	84
接続部	80
長期保管	85
電動ウエルチェアからの 取りはずし	92
電動ウエルチェアへの装着	91
ヒューズ	80
表示スイッチ	80
保護キャップ	80
容量表示ランプ	80
予備ヒューズ	80
リサイクル	85
リフレッシュ充電	83
リリースボタン	80

ひ

ヒューズの交換	171
---------------	-----

ふ

ブザー	196
フットレスト	54
脱着式フットレスト	54
フットレストベルト	55
ブレーキ	65
介助ブレーキ	65
駐車ブレーキ	65

へ

ヘッドランプ光軸 切りかえ機能	130
ヘッドレスト	47
ベルト 車いす用シートベルトの 清掃	156

ほ

ポケットシート	49
---------------	----

ま

- 万一の場合には
緊急時の対処法..... 179
故障かな？と
お考えになる前に..... 171
パンクしたときは..... 166

め

- メインスイッチ..... 117

や

- 夜間照明灯..... 33

り

- リルータ..... 58

ろ

- ロック解除レバー..... 121

ゆ

- 床面ロック..... 29

わ

ワンタッチ固定装置

- 清掃..... 157
電動ウエルチェアの固定..... 107
電動ウエルチェアの
固定解除..... 109
ロックが
解除できないときは..... 178

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>



M 28839

01999-28839

IT-2019年11月21日

2019年1月7日 初版

2019年11月28日 2版

エスクァイア／ノア／ヴォクシー
車いす仕様車(スロープタイプⅢ)